

科目名	教職入門A		
担当教員名	松岡 敬明、日出間 均		
ナンバリング	KBa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1.2.3 に該当する。

「教職入門」は、教育職員免許法に定められた教職科目 (「教職の意義等に関する科目」) で、教育職員免許状を取得 (大学で教職課程を履修し、指定の単位認定を受ける) ための入口にあたる教科です。講義・演習の内容は「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容 (研修、服務、及び身分保障等を含む)」「進路選択に資する各種の機会の提供」などです。

科目の概要

受講対象は、小学校教員を目指す 1 年生 (児童教育学科) です。前期に、最初の教職科目として、体験や事前の予習を元に、『教師の仕事とは何か』ということをさまざまな角度から学修します。

この科目を履修した後に、教育の原理や原則に関する科目 (教育学概論)、教育の社会的事項に関する科目 (学校関係法規)、教育の心理に関する科目 (教育心理学) を学修します。

学修目標 (= 到達目標)

具体的な内容は、国家存立の基盤としての教育を支え、発展させる教員への期待や、教職の基礎理論についての理解を深めること、教員や学校を取り巻く実情についての理解を深めること、問題解決討議法、事例研究法 (インシデント・プロセス法) などを援用し、その成果をもとに新たな課題を追究できるようになることをねらいとしています。

内容

講義を中心に、グループディスカッション等を通じて、以下の学びを深める。

教職の意義、教員の役割、職務内容、研修、服務等についての学修を通じ、自らの教師像を描く。 自らの能力・適性について省察し、教職課程の履修を確実に進めるための方途を明らかにする。つ。

1	オリエンテーション (教職の使命とは)	松岡・日出間
2	学校の日・学校の一年	松岡
3	専門職としての教員と人権教育の推進	松岡
4	基本的な教育法規	松岡
5	教育公務員の服務	松岡
6	教育公務員の研修	松岡
7	学習指導要領について	松岡
8	教育課程の編成と実施	日出間
9	チームとしての学校の在り方	日出間
10	教材研究と授業づくり	日出間
11	健康・安全指導について	日出間
12	生徒指導について	日出間
13	学級経営について	日出間
14	保護者・地域住民との連携	日出間
15	まとめ	松岡

評価

授業への参加度と毎時間提出する小レポート（60点）、最終試験（40点）として、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

授業外学習

【事前準備】事前に課題を提示します。教科書や参考図書などを参照し、問題解決討議や事例研究に必要な情報を整理し、これをもって授業に臨むこと。（各授業に対して30分）

【事後学修】修得した知識や問題解決技法等で得た知見を記録するとともに、授業で取上げた関連事項や説明を参考にし、課題についてさらに考究し、レポートにまとめる。（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）、『小学校学習指導要領解説「総則編」』（平成29年6月文部科学省刊）、

【参考図書】授業時に指示する。

科目名	教育学概論 A		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBa202		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童教育学科ディプロマポリシーの1及び2に該当する講義です。

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に挙げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義を行ないます。

これから4年間にわたって教職科目を受講していく、もっとも最初の1年生前期に「教育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。

講義では、「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目にしたがって取り上げます。

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基本事項に関する理解を深めること、受講生同士が討論しあったり、課題を追究したり、発表しあったりすることができること、テキストをもとに自己の課題を認識し、その内容を深めたり、研究したりすることができること、などがねらいです。

内容

アクティブラーニングとして、授業中の省察活動、討論、リアクションペーパー、その授業への反映を図ります。

- 第1回：「教育とは何か (第1章)」
- 第2回：「学校とは何か (1) (第2章)」
- 第3回：「学校とは何か (2) (第3章)」
- 第4回：「こころとからだを育てる (第4章)」
- 第5回：「よりよく学び、教えるために (第5章)」
- 第6回：「教育評価とは何か (第6章)」
- 第7回：「授業の可能性・学校の可能性 (第7章)」
- 第8回：「教師の仕事 (第8章)」
- 第9回：「青年期と教育 (第9章)」
- 第10回：「社会教育と生涯学習 (第10章)」
- 第11回：「教育への権利と『子どもの権利条約』 (第11章)」
- 第12回：「よりよい教育を求めて (第12章)」
- 第13回：映像で学ぶ教育学「我が谷は緑なりき」(イギリス産業革命期の少年労働)
- 第14回：映像で学ぶ教育学「芽を吹く子ども」(斎藤喜博と島小の学校づくり)
- 第15回：まとめ

評価

講義で毎回書いてもらう学修票 (80点) とその内容 (20点) を総合し、60点以上を合格点として単位認定します。

【フィードバック】学修票の内容を次回の授業時に紹介し、コメントする。

授業外学習

【事前予習】テキストを読み、“教育とは何か”という課題を追究し、疑問点をメモして講義に持参します（各授業に対して60分）。

【事後学修】講義を省察し、あらためてテキストを読み、“教育とは何か”という課題に自らの考えをまとめます（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト（教科書）】田嶋一他著 『やさしい教育原理（第3版）』 有斐閣アルマ

【推薦書】斎藤喜博 『授業入門（新装判）』 国土社

ルソー 『エミール（改版）上』 岩波文庫

シング 『狼に育てられた子』 福村出版

【参考図書】テキストの参考文献の他、教室で紹介します。

科目名	教育心理学 A		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KBa203		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

児童教育学科の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。また教員免許取得教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

小学校教諭課程の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動を客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

- 1 . 教育心理学と学校教育
- 2 . 学習の動機づけ (1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
- 3 . 学習の動機づけ (2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
- 4 . 学習の基礎理論
- 5 . 教授学習における学習理論
- 6 . 協同学習の理論と実践
- 7 . 学級の心理学
- 8 . 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
- 9 . 教育評価
- 10 . 発達 (1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
- 11 . 発達 (2) 発達段階と発達課題
- 12 . 学習者の特性理解 (1) 知的能力の発達と測定
- 13 . 学習者の特性理解 (2) パーソナリティの理論と測定
- 14 . 学習者の特性理解 (3) 障がいに応じた特別支援教育
- 15 . 学習のまとめと確認

この授業は講義を基本に、グループワークやディスカッションを展開することで、学校での諸活動を心理学的視点から理解する学びを深めていく。

評価

筆記試験：90点，授業内課題：10点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業内課題については翌週にコメントや採点したものを返却する。

WEB利用によるリアクションペーパーを実施し、記載内容に対しては授業内で全体に対してコメントをフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】事前課題について教科書を読んで解答を提出する。

同時に不明点・疑問点についても提出する。

【事後学修】授業内で使用/記入したプリントからノートにまとめ直すこと。

必要に応じて質問や再説明必要箇所を提出すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】永江誠司（編著） キーワード教育心理学 北大路書房

【推薦図書】 森敏昭ら（編） 教育心理学キーワード 有斐閣

科目名	学校制度論 A		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KBa201		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 3 に該当する。本科目は教員免許状取得のための必修科目であり、「教職に関する科目」の中の「教育の基礎理論に関する科目」として位置づけられている。内容として教育に関する社会的、制度的または経営的事項を含む。

科目の概要

教育制度の基本原則、教育行政制度の歴史的変遷についての理解を深め、教育基本法改正の意義について考える。さらに新教育基本法ならびに主要な教育関連法規に関わる諸問題について、具体的判例に基づいて学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- ・我が国及び諸外国の教育制度の在り方について理解する
- ・我が国の教育行政制度の成立過程ならびに現行制度について理解する
- ・学校教育制度・教育行政制度に関わる法規の概要とその運用について理解する

内容

講義を中心として、グループワークを取り入れて進める。

1	教育制度とは何か
2	教育制度と学校体系
3	我が国の学校制度
4	諸外国の学校制度
5	憲法・教育基本法と戦後教育の基本原則
6	教育行政制度 (中央教育行政組織と地方教育行政組織)
7	学校制度と児童生徒 (1) 就学・初等中等教育
8	学校制度と児童生徒 (2) 懲戒・学校事故
9	学校制度と教員・校長 (1) 職務・任用
10	学校制度と教員・校長 (2) 服務・懲戒
11	学校制度と教員・校長 (3) 研修・その他
12	学校制度と教育課程 (学習指導要領・教科書)
13	学校評価の意義と課題
14	教育制度をめぐる今日的課題
15	まとめ

評価

- 1 授業ごとの課題提出（30%）
- 2 最終試験の達成度（70%）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの授業予定単元の予習（60分）

【事後学修】新聞記事の中から教育にかかわるものを探し考察（60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「自ら学び考える教職教養 教育課程・方法・制度・法規」（松田・星野・狩野・津吹）

学文社

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング	KBa205		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

「特殊教育」から「特別支援教育」へ制度転換して10年、また、共生社会の形成に向けて、地域の通常の学級における、特別な教育的支援を必要とする児童生徒への対応を含め、教師への期待が益々大きなものとなっています。本科目は、特別支援教育に関する科目の第一欄「特別支援教育の基礎理論に関する科目」に該当します。

科目の概要

本講義では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障害の特性と支援方法を論じ、関係機関との連携の在り方を学びます。講義は、3名の教員が担当し、オムニバス形式で実施します。

学修目標

- ・特別支援教育の基礎を理解する。
- ・特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法を理解する。
- ・関係機関との連携について理解する。

内容

1	特別支援教育とは（中西）
2	障害児教育の歴史と発展（中西）
3	特別支援教育体制の現状とインクルーシブ教育システムの構築（中西）
4	特別支援教育における教育課程の編成（中西）
5	障害に関わる生理・病理の基礎（1）（高岩）
6	障害の理解と教育的支援（1） 視覚障害・聴覚・言語障害（中西）
7	障害の理解と教育的支援（2） 知的障害（中西）
8	障害の理解と教育的支援（3） 肢体不自由・病虚弱（中西）
9	障害に関わる生理・病理の基礎（2）（高岩）
10	障害の理解と教育的支援（4） 学習障害（LD）（齋藤）
11	障害の理解と教育的支援（5） 注意欠陥/多動性障害（AD/HD）（齋藤）
12	障害の理解と教育的支援（6） 情緒障害・自閉スペクトラム症（ASD）（齋藤）
13	特別支援教育の展開：小・中学校における校内支援体制と連携システム（齋藤）
14	特別支援教育における関係機関との連携（1） 保育所・幼稚園・中学校との連携（齋藤）
15	特別支援教育における関係機関との連携（2） 保健・福祉・医療機関との連携（齋藤）

評価

試験による評価（70％）中間レポートによる評価（20％）平常の参加態度の評価（10％）で総合的に評価し、60％以上を合格とします。

【フィードバック】授業の中で試験の振り返りを行うとともに、レポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】シラバスを参考に、事前に教科書・参考図書等により内容を把握し、疑問点を整理しておくこと。

【事後学修】配布された資料により各自で振り返りを行い、内容を整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）」文部科学省

「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」文部科学省

【参考図書】 「特別支援学校学習指導要領解説・総則編」文部科学省

「小学校学習指導要領解説・総則編」文部科学省

【その他】 必要に応じて随時紹介します。

科目名	知的障害教育概論		
担当教員名	中西 郁、齋藤 忍		
ナンバリング	KBa208		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2．3．4に該当する。本科目は、教員養成課程教育カリキュラムにおける「教職の基礎理論に関する科目」の1つ「特別支援教育領域に関する科目」に該当し、「知的障害のある児童生徒の障害特性や認知特性等を理解し、教材研究や学習指導案を作成する力」「自閉症児の学習スタイルを理解し支援する力」「個別の教育支援計画や個別の指導計画の意義を理解し、保護者や関係機関と連携し作成・活用する力」を身に付けることが求められる。

科目の概要

知的障害（肢体不自由、病弱も含む）の定義、原因、アセスメント、及び障害特性や行動特徴等を心理的側面から学ぶとともに、教育の目標、内容、方法、個々の児童生徒に応じた指導・支援の在り方等について理解する。

学修目標（＝到達目標）

- 1．知的障害の定義・原因、障害特性等について理解し、指導・支援の在り方を理解する。
- 2．教科・領域別の指導、各教科等を合わせた指導の意義を理解し、指導計画の立て方を理解する。
- 3．個別の教育支援計画や個別の指導計画の意義と作成・活用の仕方を理解する。

内容

この授業は講義を基本とし、個別の指導計画の作成や、指導案の作成、自立課題等教材教具の作成等を通して、グループワークやディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	知的障害（肢体不自由・病弱も含む）の定義と原因、教育の場（中西）
2	知的障害教育の教育課程（中西）
3	知的障害教育の各教科の指導（中西）
4	知的障害教育の各教科の指導計画の作成（中西）
5	各教科等を合わせた指導（中西）
6	各教科等を合わせた指導の指導計画の作成（中西）
7	個別の教育支援計画・個別の指導計画の意義と作成、まとめ（中西）
8	小・中学校における知的障害教育、特別支援学級における指導（齋藤）
9	認知特性と記憶・学習（齋藤）
10	認知の発達と算数・数学科の指導（齋藤）
11	言語とコミュニケーションの発達（齋藤）
12	言語の発達と国語科の指導（齋藤）
13	自閉症の学習スタイルと支援（齋藤）
14	自閉症の方への支援～自立課題発表会～（齋藤）
15	心理アセスメント、まとめ（齋藤）

評価

授業への参加態度（毎回のリアクションペーパーを含む）10%、中間レポートによる評価20%、筆記試験による評価70%とし、総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。試験については授業の中で振り返りを行うとともに、レポートにはコメントを付す。

授業外学習

【事前準備】事前に教科書・参考図書等により、知的障害特別支援学校の各教科等の目標や内容を把握し、疑問点を整理しておく。（各授業に対し30分）

【事後学修】授業については復習を必須とし、教員採用試験問題等について、配付資料や教科書をもとに理解し深められるよう、授業内容を整理しまとめる。（各授業に対し60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）」文部科学省
「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説：
総則編・各教科等編・自立活動編」文部科学省
「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」文部科学省
「小学校学習指導要領解説：総則編・各教科等編」文部科学省
- 【推薦図書】授業内で必要な書籍等を紹介する。

科目名	肢体不自由教育概論		
担当教員名	佐藤 正一		
ナンバリング	KBa307		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 , 3 に該当します。

この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目になっています。

科目の概要：肢体不自由教育の現状と課題についての基礎的理解を深め、それを基に肢体不自由教育の今日的課題に対する解決の方策を主体的に追求する姿勢を育成することを目的としています。

本授業では、肢体不自由教育の定義及びどのような形で今日に至ったか、障害特性や行動の特徴を学習し、教育の目標、内容、方法を一人一人の幼児児童生徒に応じた指導及び支援の在り方等について基礎的な学習をします。また、今日的課題も含めて、主要な教育課題について考察します。

学修の目標：1)特別支援教育における肢体不自由教育に関する基本を把握すること, 2)肢体不自由教育の現状と課題について理解すること, 3)今日的課題を解決する方策を追求すること

この3点を通して肢体不自由教員としてのあり方を理解し、卒業後の教員として資質や能力を磨き続ける基礎を身に付けてもらいたいと考えています。

内容

この授業は、講義を基本に、グループワーク、ディスカッション等を取り入れ、主体的、対話的な活動を通して学びを深めていく。

1	オリエンテーション (肢体不自由教育について)
2	肢体不自由教育の教育-歴史と現状-
3	肢体不自由児の学びの場
4	肢体不自由児の生理・病理・心理
5	肢体不自由教育の教育課程
6	肢体不自由教育の実際 1 (各教科の指導)
7	肢体不自由教育の実際 2 (自立活動の指導)
8	肢体不自由児教育の実際 3 (自立活動：身体の動き)
9	肢体不自由児教育の実際 4 (自立活動：コミュニケーション)
10	肢体不自由児教育の実際 5 (自立活動：重度重複児の指導)
11	交流及び共同学習
12	肢体不自由児のキャリア教育
13	授業づくりの基本
14	新たな取組と今日的課題
15	まとめ

評価

筆記試験による評価（50点）、学修目標に関するレポート（25点）、通常の受講時の意欲・関心・態度（25点）とし、総合評価、60点以上を合格とします。筆記試験、レポートは、コメントを記載し翌週以降の授業内で返却します。

授業外学習

【事前予習】事前の授業で、キーワードを示すので、それを調べておくこと。また授業の内容に関して、参考図書等、関連する文献を読んで、疑問点を整理しておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で配布された資料を参考に、毎回出題する課題について整理し、理解をすること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。授業時に資料を配付する。

【参考図書】改訂版「肢体不自由児の教育」川間健之介、西川公司 放送大学教育振興会

「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）」文部科学省

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部、小学部、中学部）」

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部、小学部、中学部）」

【その他】必要に応じて授業で推薦する。

科目名	病弱教育概論		
担当教員名	崎山 千尋		
ナンバリング	KBa308		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科のDP1・2・3・4に該当する。

本科目は特別支援教育における病弱者（身体虚弱者を含む）に関する教育領域の科目である。

ここでは、病弱児に対し適切な支援を行うために必要な専門的知識や取り組みの課題等の他、病弱教育に関する基本的な事項について学び、病弱児・病弱教育に関する理解を深める。

科目の概要

初めに、病弱教育の始まりから現在に至る歴史を概観する。

その後、病弱教育の対象とされる子どもの実態や病弱教育の現状等を把握した上で、教育上の配慮事項、病弱教育の意義、病弱教育に携わる教師の役割等について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

病弱教育の対象とされる子どもや、その教育の場（特別支援学校等）に関する現状を理解する。

病弱児の実態と病弱教育における配慮事項について理解する。

病弱教育の意義と学校における取り組みの課題、病弱教育に携わる教師の役割等について理解する。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	病弱教育の歴史（1）
2	病弱教育の歴史（2）
3	病弱・身体虚弱の子ども（1）
4	病弱・身体虚弱の子ども（2）
5	病弱教育の現状（1）
6	病弱教育の現状（2）
7	病弱・身体虚弱児に応じた教育課程編成（1）
8	病弱・身体虚弱児に応じた教育課程編成（2）
9	病弱教育における配慮事項（1）
10	病弱教育における配慮事項（2）
11	病院等、関係諸機関との連携
12	通常学級における病弱・身体虚弱の子どもへの支援
13	病弱教育の意義と学校における取り組み
14	病弱教育に携わる教師
15	まとめ

評価

平常点（参加度・リアクションペーパー等）15%、学修目標に関するレポート 20%、筆記試験 65%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

リアクションペーパーにより授業内容についての理解・質問等を把握し、次時以降に補足説明等を行う。試験については、結果を踏まえ内容について解説する。

授業外学習

【事前準備】病弱児、病弱教育について知っていること、わからないことを整理する。

シラバスを参照し、各時間または全体をとおして何を学ぶのか自分の目標をもつ。（60分）

【事後学修】授業内容を再度確認して理解を深め、不明な点は質問等により理解を図る。（60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業においてプリントを配布する。

科目名	視覚障害教育概論		
担当教員名	太田 裕子		
ナンバリング	KBa309		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ディプロマポリシー1,2に基づき、特別支援学校のみならず小・中学校等に在籍している、見えにくさの困難を抱えている児童生徒に対して、その実態を理解しその子に合った支援ができるための基礎的知識や指導方法内容を習得し、合理的配慮ができる教師の育成を目指す。特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目

科目の概要

視覚障害とはどういうものを学び、視覚障害教育の歴史や制度を概観する。視覚障害の特性を踏まえた学習指導法(教育課程)、教材教具(点字、白杖歩行を含む)について研究し、教育現場で役に立つ知識を身につける。

学修目標 (= 到達目標)

- 視覚障害や視覚障害教育についての基礎的・基本的な知識・技能を説明できる。
- 視覚障害教育の特色である視覚に頼らない指導法、または視覚を活用した指導法を理解し、他障害の子どもにも活用できる。
- 視覚障害者の生活や職業・スポーツなどに興味関心を持ち、合理的配慮ができる。

内容

基本的には講義を中心にし、テーマ別にグループでディスカッションをしたり、疑似体験や模擬授業などを取り入れていく。

1	オリエンテーション(視覚障害とは、目の機能と主な眼疾患、眼疾患による見え方の違い)
2	視機能評価(色弱者への対応、視機能評価、視力と黒板の見え方・板書の配慮事項)
3	視覚障害乳幼児の早期支援(視覚と認知の発達、支援内容と保護者支援、共遊玩具と触る絵本)
4	視覚特別支援学校の教育課程(対象と就学の仕組み、準ずる教育、重複障害教育、職業教育)
5	点字の歴史と指導法(ブライユ点字の誕生、日本訓盲点字の考案、点字の構造と体系的な指導)
6	触覚とは(触覚の弱点と利点、人間の発達と触覚、アクティブな感覚としての触覚の特徴)
7	触察の方法(視覚に依存しない学習、触運動のコントロール、立体・半立体・平面の触察)
8	教材教具づくり(盲児の概念形成の特徴、学習棒の活用、分類・見本合わせ・位置の構成)
9	歩行指導の理論と実際(ボディイメージと空間把握、校内地図、ガイド歩行、白杖歩行)
10	視覚障害教育の歴史と思想(琵琶法師・瞽女・箏曲、検校制度と鍼灸あん摩教育、理療教育)
11	弱視児童生徒の指導(多様な見え方、視認知力を高める学習、視覚補助具の活用、拡大教科書)
12	弱視者の体験談を聞く(自分の見え方、盲学校で学んだこと、生活・仕事・趣味、メッセージ)
13	重複障害児の指導(新生児医療の現状、応答する環境、課題設定状況の工夫、教材教具の工夫)
14	インクルーシブ教育・パラリンピック教育について当事者の体験談や諸外国の状況を学ぶ
15	まとめ(権利条約と合理的配慮、センター機能・地域支援、医療・療育との連携、今後の課題)

評価

授業への参加度(20%)、レポート・授業の振り返りシートなど(50%)、試験(30%)とし、総合評価60%以上を合格とする。
提出されたレポート等は、コメント等を記し、翌週以降の授業で返却する。

授業外学習

- 【事前予習】テキストをあらかじめ読み、専門用語などをインターネットで検索したりして予習する (60分)。
- 【事後学習】講義を振り返り新たに学んだ事柄や自分の感想をまとめる(60分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】青柳まゆみ・鳥山由子編著「視覚障害教育入門(改訂版)」ジアース教育新社
- 【推薦書】文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説・総則編・自立活動編」
 - 香川邦生編著「小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援」教育出版
 - 全国盲学校長会編著「見えない・見えにくい子供のための歩行指導Q&A」ジアース教育新社
 - 猪平真理編著「視覚に障害のある乳幼児の育ちを支える」慶應義塾大学出版会
 - 広瀬浩二郎著「身体でみる異文化」臨川選書
- 【参考図書】必要に応じて授業で紹介する

科目名	聴覚障害教育概論		
担当教員名	信方 壽幸		
ナンバリング	KBa310		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は、特別支援教育免許を取得希望の学生、また特別支援教育に興味・関心のある学生を対象とする。教職基礎・教科教育学分野の教職の基礎理論に関する科目の1つであり、聴覚障害教育に関する基本的な知識及び技能を身に付けられるようにする。「特別支援教育概論」等、特別支援教育にかかわる他の科目とも関連性がある。

科目の概要

聴覚障害児の教育制度や指導法の基本を知るとともに、聴覚の生理や障害の原因について知識を得る。さらに、聴覚障害の障害特性を理解し、障害特性に応じた具体的な指導法を実践できるようになることを目的とする。また、手話に対する理解を深めるため、毎回10分程度の手話学習を行う。

学修目標（=到達目標）

1. 聴覚障害の生理・病的な知識を得る。
2. 聴覚障害の障害特性を理解し、障害特性に配慮した具体的な指導法を身に付けることができる。

内容

この授業は、講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション：学習内容の説明
2	聴覚障害の定義・原因・分類
3	聴覚障害教育の歴史：世界
4	聴覚障害教育の歴史：日本
5	聴覚障害の早期発見と保護者支援
6	聴覚障害教育の制度と就学
7	聴覚障害教育の教育課程
8	聴覚障害教育の実際 聴覚補償（聴力検査、補聴器・人工内耳、及び集団補聴システム）
9	聴覚障害教育の実際 コミュニケーション方法（聴覚口話法、キュード法、手話等）
10	聴覚障害教育の実際 言語指導
11	聴覚障害教育の実際 指導上の配慮事項
12	聴覚障害教育の実際 個別の教育支援計画と個別の指導計画
13	聴覚障害児の進路
14	聴覚障害教育に関する今日的課題
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、ミニレポート20%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑について返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】テキストや参考書、インターネットを活用して自ら興味を深めることを期待する。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容についてしっかりと復習し、復習ノートを作成しながら、積極的に質問する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】基本的に自作テキストを使用して学習を進める。

【推薦書】授業内で紹介する。

【参考図書】・改訂版 中野善達・根本匡文編著 聴覚障害の基本と実際. 田中出版 ・藤田郁代編著 聴覚障害学 第2版. 医学書院 ・杉野学・長沼俊夫・徳永亜希雄編著 特別支援教育の基礎. 大学図書出版 他の図書については授業内で紹介する。

科目名	重複障害教育概論		
担当教員名	中西 郁、阿部 晴美		
ナンバリング	KBa311		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1,2,3に該当する。本科目は、特別支援学校教諭一種免許状取得のカリキュラムにおける「特別支援教育に関する科目」の必修科目の一つであり、学位授与方針の「各教科等における実践的な指導力」にあたる「重複障害の児童の障害特性等を理解し、教材研究や学習指導案を作成する力」「知的障害のある自閉症児の障害特性を理解し支援する力」「摂食嚥下機能を理解し、摂食指導ができる実践力」を身に付けることが求められる。

科目の概要

重複障害、重度・重複障害の定義、重度・重複障害教育の現状や課題等について理解を深めることを目的とする。本授業では、重複障害者の教育課程編成、重度・重複障害児の理解と指導法、指導計画の作成、摂食嚥下機能のメカニズムや摂食指導の実際等について理解する。

学修目標（＝到達目標）

1. 重複障害及び重度・重複障害の概念、教育課程の取扱い、教育の現状と課題について理解する。
2. 重度・重複障害児の指導、医療的ケアの必要な児童の指導について理解する。
3. 指導計画、学習指導案の作成の基本事項を理解する。
4. 摂食嚥下機能を理解し、摂食指導を実施できる実践力を身に付ける。
5. 特別支援学校教育の基本的知識を習得し、教員採用試験に対応できる知識を身に付ける。

内容

本授業は講義を基本にグループワーク、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。学習指導案の作成、摂食指導では、演習・実習形式で授業を実施する。

1	重度・重複障害教育の概要（中西）
2	知的障害のある自閉症の児童の障害特性と指導内容・方法（中西）
3	重複障害のある児童の障害特性と指導内容・方法（中西）
4	重複障害の教育課程の特例（中西）
5	重度・重複障害の教育課程の特例（中西）
6	重度・重複障害児童の学習指導案の作成の留意事項（中西）
7	重度・重複障害児童の学習指導案の作成 1（演習）（中西）
8	重度・重複障害児童の学習指導案の作成 2（演習）（中西）
9	重度・重複障害児童の実態把握の方法（阿部）
10	医療的ケアを必要とする児童の指導（阿部）
11	摂食嚥下機能のメカニズムと発達（阿部）
12	摂食指導の実際（演習）（阿部）
13	教材・教具とICT機器の活用（阿部）
14	重度・重複障害児童の個別の指導指導の作成（演習）（阿部）
15	まとめ（阿部）

評価

試験による評価（80％）課題の評価（10％）平常の参加度の評価（10％）とし、総合評価60点以上を合格とする。授業の中で試験の振り返りを行う。

【フィードバック】授業の中で課題を提示し、次回の授業で提出された課題について解説、コメントを行いながら前回の授業内容を振り返り、学修内容を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】シラバスを参考に、事前に参考図書等により内容を把握し、疑問点を整理しておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】配付された資料により各自で振り返りを行うとともに、提示された課題に取り組み、学習内容を整理しておく。（各授業に対して90分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）文部科学省、特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月 文部科学省

【推薦書】特別支援教育の基礎 大学図書出版

【参考書】授業内で必要な書籍等を紹介する。

科目名	特別な教育的ニーズの理解と支援 A		
担当教員名	齋藤 忍、中西 郁		
ナンバリング	KBa206		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2.3.4 に該当する。本科目は、「教員免許状取得のための必修科目」の 1 つ「教育の基礎的理解に関する科目」に該当し、通常の学級に在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別な支援を必要とする児童に対し、学習上または生活上の困難を理解し、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に対応するために必要な知識や支援方法を理解することが求められる。

科目の概要

インクルーシブ教育システムの意義理解の上に、発達障害やその他様々な多様性のある児童への支援について基礎的な知識を学ぶとともに、校内支援体制や関係機関との連携について概要を学ぶ。また、特別支援学校の概要について学び、連続性のある学びの場やセンター的機能の活用について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. LD・ADHD・ASD等の発達障害や、その他の教育的ニーズをもつ児童について理解する。
2. 支援に当たっての校内支援体制の構築や関係機関との連携について理解する。
3. 特別支援学校の概要を理解し、交流及び共同学習の推進やセンター的機能の活用について理解する。

内容

講義のみならず、発達障害等の心理的疑似体験等の演習やグループディスカッションなどを行い、学生同士が対話的・主体的な学びを通して、特別な教育的ニーズについて学びを深めていけるよう授業を展開する。

1	今、学校では ~インクルーシブ教育システムと合理的配慮~ (齋藤)
2	学習障害の理解と支援 (齋藤)
3	注意欠陥多動性障害の理解と支援 (齋藤)
4	自閉症の理解と支援 (齋藤)
5	情緒障害の理解と支援 (齋藤)
6	軽度知的障害の理解と支援 (齋藤)
7	言語の違い、貧困、LGBT等の理解と支援 (齋藤)
8	小・中学校における校内支援体制と連携システム (齋藤)
9	特別支援学級・通級による指導と自立活動 (齋藤)
10	保健・福祉・医療機関等との連携 (齋藤)
11	個別の教育支援計画・個別の指導計画 (齋藤)
12	特別支援学校教育の実際 ~特別支援学校に学ぶ子どもたちの理解と支援~ (中西)
13	特別支援学校教育の実際 ~特別支援学校との連携とセンター的機能~ (中西)
14	アセスメントの基礎 (齋藤)
15	自己理解と自己支援力の育成、まとめ (齋藤)

評価

授業への参加態度と毎回の小レポート50%、レポート試験50%とし、総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に小レポートへのコメントや返答をし、学習理解を深められるようにする。レポート試験についてはコメントを付し、授業の中で返却する。

授業外学習

【事前準備】事前に配付資料・教科書・推薦書等によって、各障害の定義・特徴・支援方法を調べ、疑問点を整理しておく。（各授業に対し30分）

【事後学修】授業内容については復習を必須とし、配付資料等をもとに理解が深められるようにするとともに、学校インターンシップ等において学修内容を役立てる。（各授業60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業で使用する資料のパワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので、各自プリントアウトするかデータを閲覧できるノートパソコンを持参すること。

【教科書】「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」「同解説総則編」文部科学省

幼稚園教諭免許取得者は「幼稚園教育要領（平成29年告示）」「同解説」文部科学省も準備

【推薦書】「特別支援学校学習指導要領（平成29年4月告示）」「同解説・自立活動編」文部科学省

「改訂第3版 障害に応じた通級による指導の手引き-解説とQ&A-」文部科学省

科目名	特別支援学校教育概論		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング	KBa207		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1,2,3,4に該当する。本科目は、特別支援学校教諭一種免許状取得の必修科目であり、特別支援教育に関する科目の第一欄「特別支援教育の基礎理論に関する科目」に該当する。また、学位授与方針の教員の在り方、実践的な指導力に係る特別支援学校教育の基礎・基本について学ぶことを目的としている。

科目の概要

本科目は、特別支援教育の基盤である特別支援学校教育について理解を深めていく。そのために、特別支援学校教育の現状等の概要について理解するとともに、特別支援学校に在籍する児童等の障害の基礎的な理解や、障害児教育の歴史等について学修する。講義は2名の教員が担当し、オムニバス形式で実施する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 特別支援学校教育の概要等について理解する。
2. 特別支援学校教育の対象となる障害について理解する。
3. 特別支援学校の教育内容・方法等について理解する。
4. 特別支援学校の児童等の生理・病理等について理解する。
5. 特別支援学校教育の基本的知識を習得し、教員採用試験に対応できる知識を身に付ける。

内容

本授業は講義を基本に、グループワーク、グループディスカッション、課題のプレゼンを取り入れながら学びを深めていく。

1	特別支援学校教育の概要 (中西)
2	視覚障害の理解と視覚障害教育の歴史 (中西)
3	聴覚障害の理解と聴覚障害教育の歴史 (中西)
4	肢体不自由、病弱の理解と肢体不自由教育並びに病弱教育の歴史 (中西)
5	知的障害の理解と知的障害教育の歴史 (中西)
6	病弱・虚弱の医療と教育 (中西)
7	肢体不自由の医療と教育 (中西)
8	知的障害、言語障害の医療と教育 (中西)
9	視覚障害のある児童等への指導内容・方法 (中西)
10	聴覚障害のある児童等への指導内容・方法 (中西)
11	肢体不自由の児童等への指導内容・方法 (中西)
12	病弱の児童等への指導内容・方法 (中西)
13	知的障害のある児童等への指導内容・方法 (中西)
14	特別支援学校の教育課程 (中西)
15	まとめ (中西)

評価

試験による評価（80％）課題の評価（10％）平常の参加態度の評価（10％）で総合的に評価し、60点以上を合格とします。授業の中で試験の振り返りを行う。

【フィードバック】毎回の授業で課題を提示し、次回の授業で提出された課題について解説、コメントを行いながら前回の授業内容を振り返り、学修理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】シラバスを参考に、事前に教科書・参考図書等により内容を把握し、疑問点を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】配布された資料により各自で振り返りを行うとともに、提示された課題に取り組み、学修内容を整理しておく。（各授業に対して90分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特別支援教育の基礎 大学図書出版、特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）文部科学省

【推薦書】特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月、文部科学省

【参考図書】授業内で必要な書籍等を紹介する。

科目名	教育課程論 A		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBa312		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童教育学科ディプロマポリシーの1及び2に対応する講義です。

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修するものである。

小学校教員を目指す2年生が後期に受講し、これから学ぶ各教科 (国語・算数など)、領域 (総合的な学習の時間・特別活動など) 等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることになる。1年生で学修する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目である。このあとは、この科目の学修を生かして、各科目ごとの「小学校教科教育科目」「教育実習」を学んでいくことになる。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいである。

内容

アクティブラーニングとして、討論、省察、リアクションペーパーの作成とその交流を図ります。

1. これからの時代における教育課程
2. 教育の目的と方法ー学校教育の現状と課題
3. 学習指導要領と教育課程
4. 新学習指導要領の方向性、改訂のポイント
5. 学校における教育課程編成の手順
6. 組織としての学校 ー学校教育目標と学校経営
7. 組織としての学校 ー年間授業日数と年間行事計画
8. 組織としての学校 ー校務分掌と担任の役割
9. 年間指導計画と学習指導 (学級経営プラン)
10. 学校における教師の役割 (時間割表作成)
11. 計画的な授業実践 (学力向上と授業改善)
12. 特別の教科 道徳 (豊かな人間性の育成)
13. 特別活動と学級づくり
14. 総合的な学習の時間と学び方
15. 教育課程のまとめと振り返り

評価

レポートおよび課題提出60点、授業への取り組み (リアクションペーパーの内容を含む) 40点を総合して評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーの内容を次回の授業時に紹介し、コメントする。

授業外学習

【事前学修】教育課程のあり方、教材や授業づくりについて、参考資料をもとに疑問点をまとめ、講義に臨みます（各授業に対して60分）。

【事後学修】講義をもとに、再度教育課程とは何かという課題についての仮説を再構成し、学校インターンシップの経験を重ね合わせてノートを作成します（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】文部科学省『小学校学習指導要領』

その他、使用する資料は配布する。

【推薦書】 授業時に適宜紹介する。

【参考図書】 授業時に提示する。

科目名	教育課程論 B		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBa313		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

各学科におけるディプロマポリシーの、1及び2に対応する講義です。

科目の性格

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」の中の「教育課程の意義及び編成の方法」について学修する。

科目の概要

各学校における教育は、各学校の教育課程によって進められる。教育課程の歴史、法的根拠、諸外国との比較により、教育課程の意義、及び編成の方法を学ぶ。

学修目標

- ・教育課程の意味や史の変遷が理解できる。
- ・学習指導要領と教育課程編成の関係が理解できる。
- ・教育課程の編成の手続き、教育課程の果たす役割が理解できる。

内容

アクティブラーニングとして、討論、学生の発表、省察、リアクションペーパーとその交流を図ります。

- 【第1回】学校教育と学校を取り巻く教育環境の変化
- 【第2回】教育課程の意義と教育課程編成・実施に関する法制
- 【第3回】教育課程と学習指導要領
- 【第4回】教育課程と教科書制度
- 【第5回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(1)
- 【第6回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(2)
- 【第7回】学習指導要領の歴史的変遷と教育課程の編成(3)
- 【第8回】新学習指導要領の特徴と教育課程の編成
- 【第9回】新学習指導要領と教育課程の編成 小学校
- 【第10回】新学習指導要領と教育課程の編成 中学校
- 【第11回】新学習指導要領と教育課程の編成 高等学校
- 【第12回】諸外国の学校制度と教育課程の特色(1)
- 【第13回】諸外国の学校制度と教育課程の特色(2)
- 【第14回】教育課程の評価方法及び教育課程の改善
- 【第15回】まとめ これからの時代の教育課程を再考する

評価

授業への参加(20点)、課題への取組(40点)、まとめのレポート(40点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各授業ごとにリアクションペーパーを提出し、その内容を次回の授業時に紹介しながら、内容の定着を図る。

授業外学習

【事前予習】カリキュラムのあり方について、予想や仮説を持ち、経験をもとに疑問点をまとめて講義に臨む（各授業に対して60分）。

【事後学修】講義を踏まえ、カリキュラムのあり方を再度考察し、ノートづくりを行なう（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】学習指導要領 中学校

【推薦書】

・奈須正裕『よくわかる 小学校・中学校 新学習指導要領全文と要点解説』教育開発研究所

・澤井陽介『授業の見方 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善』東洋館出版社ベスト新書

【参考図書】随時紹介

科目名	初等国語科教育		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBa314		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1, 2, 4 に該当する。小学校教諭一種免許状, 幼稚園教諭一種免許状を取得するための必須科目である。

科目の概要

小学校学習指導要領に基づき, 「国語科」の目標と内容について理解する。〔知識及び技能〕の内容と関連を図りつつ, 〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域について, 指導内容と活動とを結び付けて学び、学習指導略案を作成する。また, 平成29年告示学習指導要領でも引き続き重視されている「言語活動」について, その背景と, 授業づくりへの生かし方について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. 「国語科」の学習内容に関心を持ち, 積極的に授業作りについて考えようとする。
2. 学習指導要領国語の目標と内容について, 基礎的な知識を身に付ける。
3. 学習指導要領の内容と教材・題材を結び付けて, 学習指導案を作成する。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク等を取り入れながら学習指導案を作成する実践的な学修を中心として進める。

1	ガイダンス～子どもの学力の状況, 今, 求められる学力と教育の動向～
2	教育課程における国語科の位置, 学習指導要領の理解
3	年間指導計画の作成と学習指導案の在り方
4	「話すこと・聞くこと」の内容と指導 ～言語活動～
5	「話すこと・聞くこと」の内容と指導 ～学習指導略案の作成～
6	「書くこと」の内容と指導 ～言語活動～
7	「書くこと」の内容と指導 ～学習指導略案の作成～
8	国語科における学習評価の基本的な考え方
9	「読むこと」の内容と指導 ～言語活動～
10	「読むこと」の内容と指導 ～学習指導略案の作成～
11	伝統的な言語文化に関する指導、国語科授業におけるICTの活用
12	文字の指導, 語句・語彙の指導
13	書写の指導の基本
14	書写の学習指導案の作成
15	これからの国語科教育の在り方～振り返りとまとめ～

評価

毎回の小レポート（75%）、最終的な論述レポート（25%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回、小レポートの作成とともに質疑を受け付け、次回授業の冒頭で回答する。

授業外学習

【事前準備】シラバスと予告に基づき、必要な事前準備を行う（各授業に対して45分）。

【事後学修】返却する小レポート等に基づいて復習する（各授業に対して45分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説 国語編』（平成29年告示版のもの）

【推薦書】【参考図書】教室で紹介する。

科目名	初等算数科教育		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBa315		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1, 2, 4 に該当する。小学校教諭一種、幼稚園教諭一種免許状を取得するための必修科目である。

「算数」の上に立ち、小学校算数科の目標、内容、指導方法等を理解することをねらいにおく。

科目の概要

小学校算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」[図形]「測定」「変化と関係」「データの活用」の5領域で考察していく。児童の主體的な学びを促す指導法の在り方を理解し、教材の内容の分析、指導法の工夫等で優れた実践を参考に、指導計画を作成し、実際の授業の在り方を考える。

学修目標 (= 到達目標)

講義科目ではあるが、実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行い、その模擬授業に対して学生による相互評価を取り入れる。最後に指導講評を行う。

よって、指導計画や指導案の作成、模擬授業を実施することも目標として追加される。

内容

1	算数科教育の目的・目標 (ガイダンス)
2	学習指導要領における算数科の指導内容と育成すべき資質・能力
3	「数学的な見方・考え方」を働かせた主体的・対話的で深い学び
4	「数と計算」領域における指導上の留意点と評価
5	「数と計算」領域における指導計画、指導案、その模擬授業と研究協議
6	「図形」領域における指導上の留意点と評価
7	「図形」領域における指導計画、指導案、その模擬授業と研究協議
8	「測定」領域における指導上の留意点と評価
9	「測定」領域における指導計画、指導案、その模擬授業と研究協議
10	「変化と関係」領域における指導上の留意点と評価
11	「変化と関係」領域における指導計画、指導案、その模擬授業と研究協議
12	「データの活用」領域における指導上の留意点と評価
13	「データの活用」領域における指導計画、指導案、その模擬授業と研究協議
14	情報機器及び教材の効果的な活用法と授業設計
15	まとめ～数学的に考える資質・能力の育成～

評価

授業への参加度（取り組み）（30点）、指導計画、学習指導案、模擬授業（40点）、試験（30点）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

授業外学習

【事前予習】

指示した単元の指導計画案の作成、指導案の作成をグループで行う。（各授業60分）

【事後学修】

授業中出された課題の整理とを解決するための改善案をまとめておく。（各授業30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（日本文教出版社）

【推薦書】学力向上フロインティアスクールの実践10「算数科コース別指導による確かな学び 4 - 6年実践編」明治図書

【参考図書】

算数教育研究協議会用テキスト 埼玉県算数数学教育研究会小学校部会

科目名	初等理科教育		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBa316		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科のDP2に該当する。教職の基礎理論に関する科目である。小学校教員免許状を取得するためには必修であり、科学の方法の基礎を学ぶ科目である。

科目の概要

本授業は、理科教育の 目的、 内容、 方法、 評価の4領域をもって構成する。 は、人間形成からみた理科教育が目指すこと。 は、理科教育の構成概念や習得に必要な教材。 は、目標を達成する最適な学習方法の構成と授業展開。 は、目標の達成状況や児童の変容を評価する方法等である。この から を中心としながら、学生自らが学習指導案や教材を用意し、観察・実験を中心とした模擬授業や実習を行うとともに、授業研究・研究協議を実施する。よって、学生自身が理科の学習内容に親しみ、科学する心を高め、指導技術を身に付ける。

学修目標 (= 到達目標)

ア、理科教育が目指すところを理解し、そのことを学習指導案に関連付け、模擬授業の計画を立て、実施できる。イ、理科教育が目指すところについて自分なりの考えを表明し、そのことを授業構想する際に活かすことができる。ウ、学習した各種の方法等を授業実践で適用するために学習指導案の作成や模擬授業の計画を通し、授業を構想することができる。エ、構想した授業が実行可能か否かを協同的に検討し、模擬授業を行うなかでよりよい授業を構想することができる。

内容

小学校理科が目指す目標について理解するとともに、その具体的な内容や主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法及び評価についてグループワークを通して学ぶ。本授業では、選択教科「理科」の学習を振り返りつつ、学校インターンシップでの体験を活かし、学生自身が理科教育の基礎・基本を調べ、指導案や教材・教具を準備し、模擬授業も行う。同時に、授業分析や授業研究の方法を実際に学ぶ。

1	(1) 初等理科教育法のガイダンス (2) 小学校理科教育が目指す方向性 (資質・能力)
2	(1) 小学校理科A区分「物質・エネルギー」の目標と内容 (2) A区分の教材研究
3	(1) 小学校理科B区分「生命・地球」の目標と内容 (2) B区分の教材研究 / ESD
4	(1) 理科における「主体的・対話的で深い学び」(2) 理科における「見方・考え方」
5	(1) 理科授業における安全教育 (2) 安全教育に関する演習
6	(1) 理科で目指すカリキュラム・マネジメントの視点 (2) 板書、発問に関する演習
7	(1) 理科の年間指導計画・単元計画作成のポイント(2) 指導案作成と演習
8	(1) ICTの活用とプログラミング教育 (2) プログラミングに関する実験演習
9	(1) 理科の学習と自然災害との関連 (2) 自然災害に関する観察・実験演習
10	(1) 障害のある児童に対応した理科授業のあり方(2) 障害に対応した観察・実験演習
11	(1) 理科の学習と道徳科との関連 (2) 道徳と関連した模擬授業演習
12	(1) 理科の指導と評価のあり方 (2) 評価計画演習
13	指導案作成と模擬授業及び研究協議(基礎)
14	指導案作成と模擬授業及び研究協議(応用)

評価

観察・実験ごとの指導案、教材・ワークシート50%、模擬授業の準備・レポート20%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】模擬授業や演習の内容について事前に調べ、キーワードや自分ならどのように指導するかについての考えや留意点等をA4 1枚程度にまとめる。(各授業に対して60分)

【事後学修】模擬授業や演習後の協議で出された意見等を集約するとともに、授業研究の記録を分析するなどして自己省察を行い、報告書を作成し、提出する。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』(平成29年7月)

文部科学省『小学校理科の観察,実験の手引き』(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/1304651.htm)

国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料-小学校 理科』

科目名	初等理科教育		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBa316		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の D P 2 に該当する。教職の基礎理論に関する科目である。小学校教員免許状を取得するためには必修であり、科学の方法の基礎を学ぶ科目である。

科目の概要

本授業は、理科教育の 目的、 内容、 方法、 評価の 4 領域をもって構成する。 は、人間形成からみた理科教育が目指すこと。 は、理科教育の構成概念や習得に必要な教材。 は、目標を達成する最適な学習方法の構成と授業展開。 は、目標の達成状況や児童の変容を評価する方法等である。この から を中心としながら、学生自らが学習指導案や教材を用意し、観察・実験を中心とした模擬授業や演習を行うとともに、授業研究・研究協議を実施する。よって、学生自身が理科の学習内容に親しみ、科学する心を高め、指導技術を身に付ける。

学修目標 (= 到達目標)

ア、理科教育が目指すところを理解し、そのことを学習指導案に関連付け、模擬授業の計画を立て、実施できる。イ、理科教育が目指すところについて自分なりの考えを表明し、そのことを授業構想する際に活かすことができる。ウ、学習した各種の方法等を授業実践で適用するために学習指導案の作成や模擬授業の計画を通し、授業を構想することができる。エ、構想した授業が実行可能か否かを協同的に検討し、模擬授業を行うなかでよりよい授業を構想することができる。

内容

小学校理科が目指す目標について理解するとともに、その具体的な内容や主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法及び評価について、グループワークを通して学ぶ。本授業では、選択教科「理科」の学習を振り返りつつ、学校インターンシップでの体験を活かし、学生自身が理科教育の基礎・基本を調べ、指導案や教材・教具を準備し、模擬授業も行う。同時に、授業分析や授業研究の方法を実際に学ぶ。

1	(1) 初等理科教育法のガイダンス (2) 小学校理科教育が目指す方向性 (資質・能力)
2	(1) 小学校理科 A 区分「物質・エネルギー」の目標と内容 (2) A 区分の教材研究
3	(1) 小学校理科 B 区分「生命・地球」の目標と内容 (2) B 区分の教材研究 / E S D
4	(1) 理科における「主体的・対話的で深い学び」(2) 理科における「見方・考え方」
5	(1) 理科授業における安全教育 (2) 安全教育に関する演習
6	(1) 理科で目指すカリキュラム・マネジメントの視点 (2) 板書、発問に関する演習
7	(1) 理科の年間指導計画・単元計画作成のポイント (2) 指導案作成と演習
8	(1) I C T の活用とプログラミング教育 (2) プログラミングに関する実験演習
9	(1) 理科の学習と自然災害との関連 (2) 自然災害に関する観察・実験演習
10	(1) 障害のある児童に対応した理科授業のあり方 (2) 障害に対応した観察・実験演習
11	(1) 理科の学習と道徳科との関連 (2) 道徳と関連した模擬授業演習
12	(1) 理科の指導と評価のあり方 (2) 評価計画演習
13	指導案作成と模擬授業及び研究協議 (基礎)
14	指導案作成と模擬授業及び研究協議 (応用)

評価

観察・実験ごとの指導案、教材・ワークシート50%、模擬授業の準備・レポート20%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回のテーマや模擬授業、演習の内容について事前に調べ、キーワードや自分ならどのように指導するかについての考えや留意点等をA4 1枚程度にまとめる。(各授業に対して60分)

【事後学修】模擬授業や演習後の協議で出された意見等を集約するとともに、授業研究の記録を分析するなどして自己省察を行い、報告書を作成し、提出する。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』(平成29年7月)

文部科学省『小学校理科の観察,実験の手引き』(<http://www.mext.go.jp/>

[a_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/1304651.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/1304651.htm))

国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料-小学校 理科』

科目名	初等理科教育		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBa316		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の D P 2 に該当する。教職の基礎理論に関する科目である。小学校教員免許状を取得するためには必修であり、科学の方法の基礎を学ぶ科目である。

科目の概要

本授業は、理科教育の 目的、 内容、 方法、 評価の 4 領域をもって構成する。 は、人間形成からみた理科教育が目指すこと。 は、理科教育の構成概念や習得に必要な教材。 は、目標を達成する最適な学習方法の構成と授業展開。 は、目標の達成状況や児童の変容を評価する方法等である。この から を中心としながら、学生自らが学習指導案や教材を用意し、観察・実験を中心とした模擬授業を行うとともに、授業研究・研究協議を実施する。よって、学生自身が理科の学習内容に親しみ、科学する心を高め、指導技術を身に付ける。

学修目標 (= 到達目標)

ア、理科教育が目指すところを理解し、そのことを学習指導案に関連付け、模擬授業の計画を立て、実施できる。イ、理科教育が目指すところについて自分なりの考えを表明し、そのことを授業構想する際に活かすことができる。ウ、学習した各種の方法等を授業実践で適用するために学習指導案の作成や模擬授業の計画を通し、授業を構想することができる。エ、構想した授業が実行可能か否かを協同的に検討し、模擬授業を行うなかでよりよい授業を構想することができる。

内容

小学校理科が目指す目標について理解するとともに、その具体的な内容や主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法及び評価について、グループワークを通して学ぶ。本授業では、選択教科「理科」の学習を振り返りつつ、学校インターンシップでの体験を活かし、学生自身が理科教育の基礎・基本を調べ、指導案や教材・教具を準備し、模擬授業も行う。同時に、授業分析や授業研究の方法を実際に学ぶ。

1	(1) 初等理科教育法のガイダンス (2) 小学校理科教育が目指す方向性 (資質・能力)
2	(1) 小学校理科 A 区分「物質・エネルギー」の目標と内容 (2) A 区分の教材研究
3	(1) 小学校理科 B 区分「生命・地球」の目標と内容 (2) B 区分の教材研究 / E S D
4	(1) 理科における「主体的・対話的で深い学び」(2) 理科における「見方・考え方」
5	(1) 理科授業における安全教育 (2) 安全教育に関する演習
6	(1) 理科で目指すカリキュラム・マネジメントの視点 (2) 板書、発問に関する演習
7	(1) 理科の年間指導計画・単元計画作成のポイント (2) 指導案作成と演習
8	(1) I C T の活用とプログラミング教育 (2) プログラミングに関する実験演習
9	(1) 理科の学習と自然災害との関連 (2) 自然災害に関する観察・実験演習
10	(1) 障害のある児童に対応した理科授業のあり方 (2) 障害に対応した観察・実験演習
11	(1) 理科の学習と道徳科との関連 (2) 道徳と関連した模擬授業演習
12	(1) 理科の指導と評価のあり方 (2) 評価計画演習
13	指導案作成と模擬授業及び研究協議 (基礎)
14	指導案作成と模擬授業及び研究協議 (応用)

評価

観察・実験ごとの指導案、教材・ワークシート50%、模擬授業の準備・レポート20%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】模擬授業や演習の内容について事前に調べ、キーワードや自分ならどのように指導するかについての考えや留意点等をA4 1枚程度にまとめる。(各授業に対して60分)

【事後学修】模擬授業や演習後の協議で出された意見等を集約するとともに、授業研究の記録を分析するなどして自己省察を行い、報告書を作成し、提出する。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』(平成29年7月)

文部科学省『小学校理科の観察,実験の手引き』(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/1304651.htm)

国立教育政策研究所

『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料-小学校 理科』

科目名	初等体育科教育		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	KBa317		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2.3に該当する。

本科目は児童教育学科教育課程編成方針の教育課程及び指導法に関する科目に位置づけ、2年生前期に設定された小学校教諭免許取得の必修科目である。体育科の授業づくりと指導法の基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次前期履修の「身体運動」、2年次後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

科目の概要

小学校学習指導要領を基盤にして、体育科で取り扱う学習内容と授業づくりの要点および授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。体育実技を交えた活動や模擬授業の実践など、小学校の体育授業で扱う運動教材を身体感覚で理解していく。

学修目標

- 1) 小学校体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術を理解・習得する。
- 2) 模擬授業を通して、体育科の実践的な指導法と学習指導案作成の基本を身につける。
- 3) 小学校体育科の学習教材に関する体育実技の技能・体力を高める。

内容

1	オリエンテーション：発表活動の班づくり、よい体育授業を映像から学ぶ（その1）
2	体育科の授業づくり（小学校体育科の目標・内容・その取扱いについて）
3	体育科の授業づくり（授業の進め方と授業運営および教材づくりの基本を学ぶ）
4	保健内容の解説とポスター発表の準備活動、よい体育授業を映像から学ぶ（その2）
5	運動領域別の指導法：器械運動、体づくり運動～実技を踏まえて
6	運動領域別の指導法：ボール運動（プレルボール）、なわとび運動～実技を踏まえて
7	運動領域別の指導法：陸上運動、鉄棒運動～実技を踏まえて
8	学習指導案作成の基本的理解と実践（作業）
9	保健内容ポスター発表と振り返り（その1）
10	保健内容ポスター発表と振り返り（その2）
11	保健内容の模擬授業と振り返り、体育模擬授業の進め方と解説について
12	授業観察の方法と理解（授業評価を含む）、体育科と特別支援教育の接点（オリ・パラ教育）
13	体育内容の模擬授業と振り返り（その1）
14	体育内容の模擬授業と振り返り（その2）
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、発表活動20%、レポート30%、試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学修理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】シラバスに示した授業内容について、テキスト「小学校学習指導要領解説体育編」の関連ページを確認し、自分なりに内容をまとめておく。各授業に対して60分。発表活動の準備（90分）。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理と振り返りを行うとともに、授業時に紹介された体育授業に関する文献や資料についても各自で学びを深める。各授業に対して60分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成29年度版）

小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年」 光文書院、「新版 小学保健 見つめよう健康 5・6年」 光文書院

【推薦書】 高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科目名	初等体育科教育		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	KBa317		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2.3に該当する。

本科目は児童教育学科教育課程編成方針の教育課程及び指導法に関する科目に位置づけ、2年生前期に設定された小学校教諭免許取得の必修科目である。体育科の授業づくりと指導法の基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次前期履修の「身体運動」、2年次後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

科目の概要

小学校学習指導要領を基盤にして、体育科で取り扱う学習内容と授業づくりの要点および授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。体育実技を交えた活動や模擬授業の実践など、小学校の体育授業で扱う運動教材を身体感覚で理解していく。

学修目標

- 1) 小学校体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術を理解・習得する。
- 2) 模擬授業を通して、体育科の実践的な指導法と学習指導案作成の基本を身につける。
- 3) 小学校体育科の学習教材に関する体育実技の技能・体力を高める。

内容

1	オリエンテーション：発表活動の班づくり、よい体育授業を映像から学ぶ（その1）
2	体育科の授業づくり（小学校体育科の目標・内容・その取扱いについて）
3	体育科の授業づくり（授業の進め方と授業運営および教材づくりの基本を学ぶ）
4	保健内容の解説とポスター発表の準備活動、よい体育授業を映像から学ぶ（その2）
5	運動領域別の指導法：器械運動、体づくり運動～実技を踏まえて
6	運動領域別の指導法：ボール運動（プレルボール）、なわとび運動～実技を踏まえて
7	運動領域別の指導法：陸上運動、鉄棒運動～実技を踏まえて
8	学習指導案作成の基本的理解と実践（作業）
9	保健内容ポスター発表と振り返り（その1）
10	保健内容ポスター発表と振り返り（その2）
11	保健内容の模擬授業と振り返り、体育模擬授業の進め方と解説について
12	授業観察の方法と理解（授業評価を含む）、体育科と特別支援教育の接点（オリ・パラ教育）
13	体育内容の模擬授業と振り返り（その1）
14	体育内容の模擬授業と振り返り（その2）
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、発表活動20%、レポート30%、試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】シラバスに示した授業内容について、テキスト「小学校学習指導要領解説体育編」の関連ページを確認し、自分なりに内容をまとめておく。各授業に対して60分。発表活動の準備（90分）。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理と振り返りを行うとともに、授業時に紹介された体育授業に関する文献や資料についても各自で学びを深める。各授業に対して60分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成29年度版）

小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年」 光文書院、「新版 小学保健 見つめよう健康 5・6年」 光文書院

【推薦書】 高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科目名	初等音楽科教育		
担当教員名	久保田 葉子、花房 伸恵		
ナンバリング	KBa318		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1, 2, 3に該当する。

児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解した上で、初等教育者に必要な音楽科の教育内容・教材・指導法などについて学ぶことを目的とする。

科目の概要

小学校学習指導要解を基盤として、特に音楽の歴史・理論・表現を中心に音楽担当教育者として必要な基礎知識の修得と、具体的な指導の場面で実践的な力を身につける。

学修目標

それらの知識を生かして、小学校における音楽科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について講義や演習を通して理解・学習することをねらいとし、教育の指導力を高めることを目指す。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、グループ発表を取り入れながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション「音楽」教育について（音楽と学級経営・音楽と生徒指導）
2	小学校 音楽科の目標・音階、階名、音符、リズムについて
3	授業上手な教師を目指して・音階、階名、音符、リズムについて
4	学習指導要領と教科書・音階、階名、音符、リズムについて
5	低学年の音楽 歌唱指導（指導方法・弾き歌い・デジタル教科書）
6	低学年の音楽 鍵盤ハーモニカ・打楽器（指導上の留意点・デジタル教科書）
7	低学年の音楽 音楽づくり（指導法・デジタル教科書）
8	低学年の音楽 鑑賞指導（指導法・CD）
9	低学年の音楽 合奏（指導法・CD）
10	指導案の書き方・音楽科における評価・評定の在り方
11	中学年の音楽 リコーダー（指導上の留意点・デジタル教科書）
12	我が国や郷土の音楽に関わる指導の充実（低中高学年）
13	本時の展開を考える（指導案づくり）
14	まとめ 合唱・合奏発表（鍵盤ハーモニカ・リコーダー・その他楽器使用）
15	まとめ 合唱・合奏発表（鍵盤ハーモニカ・リコーダー・その他楽器使用）

評価

毎回の課題（40%）、発表（50%）、通常の授業への参加度・取り組み（10%）により評価を行い、60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキスト・小学校教科書の指定箇所の講読および歌唱・器楽・伴奏の個人練習。合唱・合奏発表の準備。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の振り返りおよび配布資料の整理。（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト・その他] 小学校「音楽」1年生～3年生の教科書（教育芸術社）、鍵盤ハーモニカ、リコーダー

[参考図書]「音楽科指導要領解説 音楽編」（文部科学省）、「新版 小学校音楽教育法」（教育出版）

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KBa319		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 . 4 に該当する。

小学校図画工作科の教科としての歴史や性格、学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、指導に必要な基礎的な技能を養います。

科目の概要

小学校図画工作科について学習指導要領に基づいて目標や内容、特性について理解を深めるとともに、教材研究や演習などを通して、教科の主旨を踏まえた授業の構想と実践に関する技能を習得します。

学修目標

図画工作科の意義と役割について理解を深め、教科に関する基礎的知識及び実践的技能を身につけることを目標とします

内容

子どもの強い興味関心に支えられた図画工作科のあり方について、グループ活動を中心とした実践や情報機器の活用、考察を交えながら学びます。

1	オリエンテーション
2	図画工作科の歴史・目的・性格，子どもの発達と造形表現
3	図画工作科の授業：造形遊び 1
4	図画工作科の授業：造形遊び 2
5	図画工作科の授業：造形遊び 3
6	図画工作科の授業：絵に表す活動 1
7	図画工作科の授業：絵に表す活動 2
8	図画工作科の授業：立体に表す活動 1
9	図画工作科の授業：立体に表す活動 2
10	図画工作科の授業：立体に表す活動 3
11	図画工作科の授業：工作に表す活動 1
12	図画工作科の授業：工作に表す活動 2
13	図画工作科の授業：版に表す活動 1
14	図画工作科の授業：版に表す活動 2
15	まとめ 図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について

評価

授業を通して行ったこと，感じたこと，考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ，さらに関連したことを参考資料

などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。上記を総合評価し60点以上を合格とします。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

授業外学習

【事前予習】必要に応じ授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

〔推薦書〕

授業内で適宜紹介

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KBa319		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 . 4 に該当する。

小学校図画工作科の教科としての歴史や性格、学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、指導に必要な基礎的な技能を養います。

科目の概要

小学校図画工作科について学習指導要領に基づいて目標や内容、特性について理解を深めるとともに、教材研究や演習などを通して、教科の主旨を踏まえた授業の構想と実践に関する技能を習得します。

学修目標

図画工作科の意義と役割について理解を深め、教科に関する基礎的知識及び実践的技能を身につけることを目標とします

内容

子どもの強い興味関心に支えられた図画工作科のあり方について、グループ活動を中心とした実践や情報機器の活用、考察を交えながら学びます。

1	オリエンテーション
2	図画工作科の歴史・目的・性格，子どもの発達と造形表現
3	図画工作科の授業：造形遊び 1
4	図画工作科の授業：造形遊び 2
5	図画工作科の授業：造形遊び 3
6	図画工作科の授業：絵に表す活動 1
7	図画工作科の授業：絵に表す活動 2
8	図画工作科の授業：立体に表す活動 1
9	図画工作科の授業：立体に表す活動 2
10	図画工作科の授業：立体に表す活動 3
11	図画工作科の授業：工作に表す活動 1
12	図画工作科の授業：工作に表す活動 2
13	図画工作科の授業：版に表す活動 1
14	図画工作科の授業：版に表す活動 2
15	まとめ 図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について

評価

授業を通して行ったこと，感じたこと，考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ，さらに関連したことを参考資料

などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。上記を総合評価し60点以上を合格とします。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

授業外学習

【事前予習】必要に応じ授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

〔推薦書〕

授業内で適宜紹介

科目名	初等社会科教育		
担当教員名	三藤 あさみ		
ナンバリング	KBa320		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2 に該当する。小学校教諭免許取得のための教科指導法を学ぶ講座の 1 つであり、選択必修に位置づけられている。学習指導要領に示されるねらいに従い、各学年の指導内容に示された事項をどのような順で、どのような教材や指導方法によって学ばせるのか、その指導法について学修する科目である。

科目の概要

小学校社会科で取り上げられている教材を、学生自らが探究し、それらの内容をどのようなねらいによって、どのように児童に学習させていくかを考える。また、教材作成を通し、望ましい教材の在り方・資料の取り扱い等について検討し、教材開発の方法について考えを深める。

学修目標

社会科の目標、各学年の目標・内容・取り扱い等についての理解を深めると共に、それらを基に授業に取り組むことのできる指導力を養う。

内容

毎回の講義内容を基に「自分が授業実践者として、どのように取組むか」という視点をもって自ら学習内容を吟味する機会をもつ。また、自分が作成した指導案をもとに模擬授業を行ったり、他の人の模擬授業で児童役をして、児童がより理解や考えを深められる授業を考える。

1	ガイダンス
2	小学校 3 学年 4 学年 5 学年 6 学年の社会科の目標・内容・年間指導計画
3	小学校 3 学年 4 学年の社会科の内容 私たちのまち・くらしと人々の仕事・安全なくらしを守る
4	小学校 3 学年 4 学年の社会科の内容 住みよいくらしを支える・郷土の人々の願い・私達の埼玉
5	小学校 5 学年の社会科の内容 私たちの生活と食料生産 私たちの生活と工業生産
6	小学校 5 学年の社会科の内容 私たちの生活と情報 私たちの国土と環境
7	小学校 6 学年の社会科の内容 日本の歴史
8	小学校 6 学年の社会科の内容 わたしたちの生活と政治 世界の中の日本
9	小学校社会科の学習指導案の作成方法及び学習評価について
10	小学校社会科の 1 時間の授業の進め方及び資料の作り方と活用方法について
11	小学校社会科の小単元の学習指導案作り
12	小学校社会科の小単元の 1 時間の指導案及び資料作り
13	社会科の模擬授業の実際 (1)
14	社会科の模擬授業の実際 (2)
15	社会科の模擬授業の実際 (3) ・まとめと振り返り

評価

課題レポート・指導計画・指導案などの提出物 60 点 模擬授業等への取り組み 40 点とし、総合評価 60 点以上を合格と

する。【フィードバック】前回授業での振り返りレポートに記された不明な点、疑問点にちて授業の初めに補足説明を行い、内容理解が深まるように支援する。

授業外学習

【事前準備】各時間に学修する社会科指導の進め方や内容について、事前に調べ確認しておく。それに基づく講義やグループ活動を、毎時 1 時間

【事後学修】学習したことを毎時間、レポート等にまとめる。毎時、後半の 3 0 分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」日本文教出版（平成 2 9 年度版）

【参考図書】

文部科学省「小学校学習指導要領」東洋館出版社（平成 2 9 年度版）

小学校社会科の教科書及び教師用指導書

科目名	初等生活科教育		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBa321		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科のDP2に該当する。小学校1, 2年の教科 生活科について学習指導要領に基づいて教科の目標や内容について理解し、教材研究や具体的な活動や体験などを通して、生活科の主旨を踏まえた授業を構想し、実践的な指導力を身に付けることができる内容を構成している。

科目の概要

体験的な活動を通して学ぶ生活科の指導原理について理解を深めていく。9つの内容について理解し、また、実際の授業記録を分析し、指導者のかかわりや体験と表現を繰り返す学習過程、気付きの質などポイントを理解しながら、指導案の作成に取り組む。幼保小の学びと育ちを滑らかに接続する入学期のスタートカリキュラムのマネジメントにもふれる。

学修目標 (= 到達目標)

- ・生活科の指導原理、学習場面における指導者のかかわりを理解することができる。
- ・内容や取り扱いを理解し、指導計画、学習指導案を作成することができる。
- ・気付きや思考・表現など児童の認識過程を理解し、指導・支援・評価計画に取り組むことができる。
- ・幼児期の終わりまでに育てたい幼児の姿を理解し、幼児教育との連携の視点をもつことができる。

内容

この授業は実習やグループ協議を中心に、学びを深めていく。

1	(1) 初等生活科教育のガイダンス (2) 生活科教育が目指す方向性 (資質・能力)
2	(1) 学校、家庭及び地域の生活に関する内容 (2) 学校探検の視点「実習」(安全指導)
3	(1) 身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容 (2) 自然物遊びの視点「製作」
4	(1) 自分自身の生活や成長に関する内容 (2) 飼育/栽培の視点「実習」
5	(1) 生活科における「主体的・対話的で深い学び」(2) 生活科における「見方・考え方」
6	(1) 幼児教育との連携 (2) スタートカリキュラムを意識した指導計画の作成
7	(1) 障害のある児童に対応した生活科授業の工夫 (2) 道徳教育との関連
8	(1) 気付きの質が高まる視点を踏まえた学習指導案作り (2) 評価計画演習
9	(1) 生活科で求められるICTの活用 (2) ICTを活用した実習
10	(1) 実習 大学の畑で作物を収穫する (2) 収穫祭の計画作り
11	(1) 実習 収穫祭 収穫した作物の調理と発表 (2) 収穫祭の活動の相互評価
12	(1) 模擬授業(自然物を使った製作と遊び) 及び研究協議
13	(1) 模擬授業(廃品を利用した製作と遊び) 及び研究協議
14	(1) 実習 町探検 (2) 調べた内容について発表と相互評価
15	初等生活科教育のまとめ

評価

毎回の授業レポート(30%) 授業での課題レポート・課題作品(40%) 授業への参加度(30%)とし、総合評価

60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回の授業で扱う項目についてテキストや資料を読み、キーワードや指導する際の留意点等について調べ、A4 1枚程度にまとめる。(各授業に対して60分)

【事後学修】各回の授業で扱った内容や、授業で理解できないことについて図書館等でさらに調べ、理解を深め、レポートとしてまとめ提出する。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校学習指導要領解説 生活科編(平成29年7月 文部科学省)

【推薦書】小学校生活科教科書「せいかつ」(上・下)

科目名	初等家庭科教育		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング	KBa322		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2，4に該当する。本科目は、小学校教諭の免許取得のための必修科目である。家庭科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の発達の特徴を理解し、児童の生活的な自立や家庭生活への実践的な態度を醸成するために必要な知識・技能や指導技術を学修する。

科目の概要

小学校学習指導要領を基盤として、家庭科の目標や内容、指導上の留意点を学ぶとともに、児童の生活実態や発達課題を理解し、安全で効果的な家庭科の授業づくりの基本を学ぶ。グループ活動を中心とし、探究活動や実習、実践的体験的な活動、模擬授業などを通して学習指導の実際を実践的に学ぶ。

学修目標

学習指導要領を基盤として小学校家庭科の目標、内容、特性を理解するとともに、児童の生活実態や発達課題を意識し、グループディスカッション等を活発に行うことを通して以下の力が修得できる。

- ・児童の生活実態を踏まえた効果的な教科経営法と指導方法とを身に付けることができる。
- ・指導に必要な基礎的技能を用いた簡単な調理や製作等の実習を通して、児童の学習活動や作業の指導を自信を持って進めることができる。
- ・学習指導案を作成して模擬授業を行い、仲間との意見交換や教師からの助言を踏まえた省察や改善を行うことによって、指導力の向上を図ることが出来る。

内容

1	授業ガイダンス（授業計画、準備するもの、評価など 生活アンケート）
2	家庭科の学びとは何か - 学習指導要領を基に教科目標と内容、育てる資質能力を理解する
3	家庭科の授業づくり1 - 解説と演習 - グループワークによる授業設計のあり方の探究
4	家庭科の授業作り2 - 解説と演習 - 年間指導計画・評価計画についての理解と演習
5	家庭科の授業作り3 - 演習 - グループによるPBLを用いた安全指導・管理に関する演習
6	内容A（家族・家庭生活）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる教材研究
7	内容B（食生活）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる調理実習
8	内容B（衣生活）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる教材研究と実習
9	内容C（消費・環境）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる教材研究
10	模擬授業（家族・家庭生活の題材）
11	模擬授業（食生活の題材）
12	模擬授業（調理の題材）
13	模擬授業（衣・住生活の題材）
14	模擬授業（消費・環境の題材）
15	学習のまとめ（これからの家庭科教育の在り方についてのグループディスカッション）・テスト

評価

提出物、授業のリアクションペーパー等による平常点40%、指導案及び模擬授業40%、試験20%で総合的に評価し、60点以上を合格とします。

【フィードバック】毎時間の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】各回のキーワードについてA4 1枚にまとめる（各授業に対して60分）課題や模擬授業の準備をする。

【事後学修】講義内容について再度、教科書や学習指導要領、参考文献等で調べてまとめておく（各授業に対して60分）

・授業で示された課題図書を読む。（指示のあった回について60分以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」』 東京書籍、『小学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省

【推薦書】『子どものよさを活かす家庭科学習-出会う・かかわる・つくり出す』 勝田映子著 初等教育研究会・不味堂出版、『小学校学習指導要領の解説と展開家庭編』 安彦忠彦監修・内野紀子編著 教育出版、『できますか？教えられますか？家庭科の基本』 流田直監修・亀井祐子・田中京子・勝田映子著 学研教育みらい【参考図書】『作る手が子どもたちを輝かす』 お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社 その他授業内で紹介する。

科目名	初等家庭科教育		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング	KBa322		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2，4に該当する。本科目は、小学校教諭の免許取得のための必修科目である。家庭科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の発達の特徴を理解し、児童の生活的な自立や家庭生活への実践的な態度を醸成するために必要な知識・技能や指導技術を学修する。

科目の概要

小学校学習指導要領を基盤として、家庭科の目標や内容、指導上の留意点を学ぶとともに、児童の生活実態や発達課題を理解し、安全で効果的な家庭科の授業づくりの基本を学ぶ。グループ活動を中心とし、探究活動や実習、実践的体験的な活動、模擬授業などを通して学習指導の実際を実践的に学ぶ。

学修目標

学習指導要領を基盤として小学校家庭科の目標、内容、特性を理解するとともに、児童の生活実態や発達課題を意識し、グループディスカッション等を活発に行うことを通して以下の力が修得できる。

- ・児童の生活実態を踏まえた効果的な教科経営法と指導方法とを身に付けることができる。
- ・指導に必要な基礎的技能を用いた簡単な調理や製作等の実習を通して、児童の学習活動や作業の指導を自信を持って進めることができる。
- ・学習指導案を作成して模擬授業を行い、仲間との意見交換や教師からの助言を踏まえた省察や改善を行うことによって、指導力の向上を図ることが出来る。

内容

1	授業ガイダンス（授業計画、準備するもの、評価など 生活アンケート）
2	家庭科の学びとは何か - 学習指導要領を基に教科目標と内容、育てる資質能力を理解する
3	家庭科の授業づくり1 - 解説と演習 - グループワークによる授業設計のあり方の探究
4	家庭科の授業作り2 - 解説と演習 - 年間指導計画・評価計画についての理解と演習
5	家庭科の授業作り3 - 演習 - グループによるPBLを用いた安全指導・管理に関する演習
6	内容A（家族・家庭生活）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる教材研究
7	内容B（食生活）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる調理実習
8	内容B（衣生活）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる教材研究と実習
9	内容C（消費・環境）の指導内容と指導方法の学修並びにグループによる教材研究
10	模擬授業（家族・家庭生活の題材）
11	模擬授業（食生活の題材）
12	模擬授業（調理の題材）
13	模擬授業（衣・住生活の題材）
14	模擬授業（消費・環境の題材）
15	学習のまとめ（これからの家庭科教育の在り方についてのグループディスカッション）・テスト

評価

提出物、授業のリアクションペーパー等による平常点40%、指導案及び模擬授業40%、試験20%で総合的に評価し、60点以上を合格とします。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】各回のキーワードについてA4 1枚にまとめる（各授業に対して60分）課題や模擬授業の準備をする。

【事後学修】講義内容について再度、教科書や学習指導要領、参考文献等で調べてまとめておく（各授業に対して60分）
・授業で示された課題図書を読む。（指示のあった回について60分以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」』 東京書籍、『小学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省

【推薦書】『子どものよさを活かす家庭科学習-出会う・かかわる・つくり出す』 勝田映子著 初等教育研究会・不味堂出版、『小学校学習指導要領の解説と展開家庭編』 安彦忠彦監修・内野紀子編著 教育出版、『できますか？教えられますか？家庭科の基本』 流田直監修・亀井祐子・田中京子・勝田映子著 学研教育みらい【参考図書】『作る手が子どもたちを輝かす』 お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社 その他授業内で紹介する。

科目名	教材研究A		
担当教員名	富山 哲也、日出間 均、三藤 あさみ		
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2，4に該当する。小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。前期で、国語・算数・社会について、それぞれ5時間ずつ学ぶ。

「教材研究A」は2クラス開講しているので、下記「内容」欄を参考にすること。

科目の概要

小学校では、教科等により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科等について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、教材を解釈して授業展開に関連付ける実践的な指導のあり方などについても学ぶ。

学修目標（=到達目標）

- 1.それぞれの教科等について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。
- 2.それぞれの教科等の学習指導案作成の基本を理解する。

内容

小学校で学習するそれぞれの教科等の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究する。学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深める。必要に応じて、学習指導案を書いたり資料を作成したりするなど、実践的に学ぶ。第3学年での「授業研究」の基礎となる学習である。

「教材研究A」は、以下の2クラスで開講する。

1Aクラス：国語（富山），算数（日出間），社会（三藤） についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

1Bクラス：算数（日出間），社会（三藤），国語（富山） についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

後期に開講する「教材研究B」のシラバスも参照すること。

評価

小レポート（40%），授業への取り組み（30%），最終レポート等（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習指導案作成の準備等を行う。（各授業に対して45分）

【事後学修】感想をまとめたり、学修した内容を授業の構想に活かしたりする。（各授業に対して45分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』，各教科等の『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』。その他，適宜授業の中で指示する。

科目名	教材研究A		
担当教員名	富山 哲也、日出間 均、三藤 あさみ		
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2, 4 に該当する。小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。前期で、国語・算数・社会について、それぞれ5時間ずつ学ぶ。

「教材研究A」は2クラス開講しているので、下記「内容」欄を参考にすること。

科目の概要

小学校では、教科等により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科等について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、教材を解釈して授業展開に関連付ける実践的な指導のあり方などについても学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. それぞれの教科等について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。
2. それぞれの教科等の学習指導案作成の基本を理解する。

内容

この授業は講義を中心に、グループワーク、ディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

小学校で学習するそれぞれの教科等の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究する。

学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深める。

必要に応じて、学習指導案を書いたり資料を作成したりするなど、実践的に学ぶ。

第3学年での「授業研究」の基礎となる学習である。

「教材研究A」は、以下の2クラスで開講する。

1Aクラス：国語（富山），算数（日出間），社会（三藤） についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

1Bクラス：算数（日出間），社会（三藤），国語（富山） についてそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

後期に開講する「教材研究B」のシラバスも参照すること。

評価

小レポート（40%），授業への取り組み（30%），最終レポート等（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習指導案作成の準備等を行う。（各授業に対して45分）

【事後学修】感想をまとめたり、学修した内容を授業の構想に活かしたりする。（各授業に対して45分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説（平成29年告示） 総則編』，各教科等の『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』。その他，適宜授業の中で指示する。

科目名	教材研究B		
担当教員名			
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2.4に該当する。

本科目は、教育課程及び指導法に関する科目の1つで小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。小学校で学習する各教科の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究したり、学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深めていく。必要に応じて、実技を交えたり学習指導案や資料を作成したりするなど、実践的な学習形態を用いて、第3年次で履修する「授業研究A・B」の基礎になる科目である。後期は体育・理科・道徳について、それぞれ5時間ずつ学ぶ。

科目の概要

小学校では、教科により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、教材づくりと実践的な指導のあり方を理解する。

学修目標（=到達目標）

- 1）それぞれの教科について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。
- 2）それぞれの教科における学習指導案作成と教材づくりの関連性を理解する。

内容

「教材研究B」は以下の授業内容を1クラスで開講予定。受講者数50名以上の場合は2クラスとする。

2Aクラス：体育（山本）、道徳（綾井）、理科（塚田）の順番にそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

前期「教材研究A」で1Aクラスを選択した者は2Aクラスを選択する。

2Bクラス：理科（塚田）、体育（山本）、道徳（綾井）の順番にそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

前期「教材研究A」、1Bクラスを選択した者は2Bクラスを選択する。

1	オリエンテーション、体育（なわとび運動）	担当：山本
2	体育（器械運動：マット運動、鉄棒運動）	担当：山本
3	体育（ベースボール型ボール運動：ティーボール）	担当：山本
4	体育（ゴール型ボール運動：アルティメット）	担当：山本
5	体育（まとめ：体育科教材研究の考え方）	担当：山本
6	道徳（道徳の教材づくりについて）	担当：綾井
7	道徳（低学年の教材づくり：はしの上のおおかみ）	担当：綾井
8	道徳（中学年の教材づくり：絵はがきと切手）	担当：綾井
9	道徳（高学年の教材づくり：塙保己一に関する読み物資料）	担当：綾井
10	道徳（まとめ：道徳の教材研究の考え方）	担当：綾井
11	理科（3年生の学習内容と教材づくり）	担当：塚田
12	理科（4年生の学習内容と教材づくり）	担当：塚田

13	理科（5年生の学習内容と教材づくり）	担当:塚田
14	理科（6年生の学習内容と教材づくり）	担当:塚田
15	理科（まとめ:理科教材研究の考え方）	担当:塚田

評価

授業への参加度（30%）、毎回のリアクションペーパー（30%）、最終レポート等（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各教科3回以上の出席を単位認定の条件とする。

授業外学習

【事前準備】シラバス等を資料をもとに、学習指導要領の内容の確認など予習を行う。各授業に対して45分。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理等の振り返りを行う。各授業に対して60分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年度版）東洋館出版社』。その他、適宜授業の中で指示する。

科目名	教材研究B		
担当教員名	山本 悟、綾井 桜子、塚田 昭一		
ナンバリング	KBa323		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2.4に該当する。

本科目は、教育課程及び指導法に関する科目の1つで小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。小学校で学習する各教科の目標と内容を理解し、領域、学年ごとに教材を選び研究したり、学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、学校における教材研究の方法について理解を深めていく。必要に応じて、実技を交えたり学習指導案や資料を作成したりするなど、実践的な学習形態を用いて、第3年次で履修する「授業研究A・B」の基礎になる科目である。

後期は体育・理科・道徳について、それぞれ5時間ずつ学ぶ。

科目の概要

小学校では、教科により指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。各教科について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、教材づくりと実践的な指導のあり方を理解する。

学修目標（=到達目標）

- 1）それぞれの教科について目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。
- 2）それぞれの教科における学習指導案作成と教材づくりの関連性を理解する。

内容

「教材研究B」は以下の授業内容を1クラスで開講予定。受講者数50名以上の場合は2クラスとする。

2Aクラス：体育（山本）、道徳（綾井）、理科（塚田）の順番にそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

前期「教材研究A」で1Aクラスを選択した者は2Aクラスを選択する。

2Bクラス：理科（塚田）、体育（山本）、道徳（綾井）の順番にそれぞれ5時間ずつ学ぶ。

前期「教材研究A」で1Bクラスを選択した者は2Bクラスを選択する。

1	オリエンテーション、理科（3年生の学習内容と教材づくり）	担当：塚田
2	理科（4年生の学習内容と教材づくり）	担当：塚田
3	理科（5年生の学習内容と教材づくり）	担当：塚田
4	理科（6年生の学習内容と教材づくり）	担当：塚田
5	理科（まとめ：理科教材研究の考え方）	担当：塚田
6	体育（なわとび運動）	担当：山本
7	体育（器械運動：マット運動、鉄棒運動）	担当：山本
8	体育（ベースボール型ボール運動：ティーボール）	担当：山本
9	体育（ゴール型ボール運動：アルティメット）	担当：山本
10	体育（まとめ：体育科教材研究の考え方）	担当：山本
11	道徳（道徳の教材づくりについて）	担当：綾井
12	道徳（低学年の教材づくり：はしの上のおおかみ）	担当：綾井

13	道徳（中学年の教材づくり：絵はがきと切手）	担当：綾井
14	道徳（高学年の教材づくり：埴保己一に関する読み物資料）	担当：綾井
15	道徳（まとめ：道徳の教材研究の考え方）	担当：綾井

評価

授業への参加度（30%）、毎回のリアクションペーパー（30%）、最終レポート等（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各教科3回以上の出席を単位認定の条件とする。【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】シラバスに示した授業内容について、テキスト「小学校学習指導要領」の関連ページを確認し、自分なりに内容をまとめておく。各授業に対して60分。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理と振り返りを行うとともに、授業時に紹介された教材研究に関する文献や資料についても各自で学びを深める。各授業に対して60分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年度版）東洋館出版社』。

科目名	授業研究A		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBa325		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1, 2, 4 に該当する。

小学校教諭免許取得のための選択科目の一つである。ここでは、「国語」について説明する。

具体的な学習指導案の作成，模擬授業の実施等により，国語科の授業について実践的に学ぶ。

科目の概要

少人数で授業を展開する。学習指導要領と国語科の基本的な指導法の理解を基本として，教材研究，学習指導案の作成，模擬授業の実施，学習評価，映像による授業の振り返りという過程をたどって学修する。また，児童に取り組みさせる言語活動について，学生自身が体験して理解を深めるようにする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 国語科の指導内容・指導方法に関心を持ち，よりよい授業を構想しようとする。
2. 国語科の指導と評価の在り方について理解を深め，自分なりの考えをもつ。
3. 国語科の指導についての基本的な知識と技能を身に付ける。

内容

この授業は、学習指導案の作成と模擬授業を中心に、実践的な学びと理論を結び付けながら学修を進めていく。

具体的には、小学校の授業づくりについて，教材研究に加え，年間指導計画や学習指導案の作成，授業の導入から展開の仕方，子供への接し方等を実践的・総合的に学ぶことを意図した科目である。

年間30週の講義について，基本的に次のように進めていく。

- | | | |
|----|---------|-----------------------------|
| 前期 | 第1週 | ガイダンス～今、求められる国語科の授業の構想～ |
| | 第2～4週 | 「話すこと・聞くこと」の教材研究と学習指導案の作成 |
| | 第5～7週 | 「話すこと・聞くこと」の模擬授業と省察 |
| | 第8週 | 教材・教具（デジタル教科書を含む）、板書、発問 |
| | 第9～11週 | 文学的な文章の教材研究と「読むこと」の学習指導案の作成 |
| | 第12～14週 | 「読むこと」の模擬授業と省察 |
| | 第15週 | 模擬授業の振り返り |

- | | | |
|----|-------|----------------------|
| 後期 | 第1週 | 年間指導計画の作成と学習指導案の在り方 |
| | 第2～4週 | 「書くこと」の教材研究と学習指導案の作成 |
| | 第5～7週 | 「書くこと」の模擬授業と省察 |

- 第8週 教材・教具（デジタル教科書を含む）、板書、発問
第9～11週 文学的な文章の教材研究と「読むこと」の学習指導案の作成
第12～14週 「読むこと」の模擬授業と省察
第15週 模擬授業の振り返り

評価

小レポートや作成物50%，模擬授業や発表活動への取組の様子50%とし，総合評価60点以上を合格とする。
模擬授業の前（後）にグループに個別に指導する時間を設け、疑問点等に対応する。

授業外学習

- 【事前予習】模擬授業の準備（学習指導案や資料の作成など）が必要（各授業に対して45分）。
【事後学修】模擬授業の反省を踏まえて、授業作りについて学びを深める（各授業に対して45分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（平成29年告示版のもの）
【推薦書】授業の中で紹介する。
【参考図書】授業の中で紹介する。

科目名	授業研究 A		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBa325		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針の 2 に該当する。

本科目は、算数科の授業構成を通し授業研究をすすめる。児童の実態と教材の内容の分析、指導法の工夫等で優れた実践を元に、指導計画立案や学習指導案作成を行う。

科目の概要

「算数」「初等算数科教育」「教材研究(算数)」の上に立ち、算数科の単元指導計画立案や、習熟度熱少人数指導体制の現状理解、学習の主体性を尊重する指導のあり方について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

小学校 6 年間を通した実践と理論の関係を理解し、略案だけでなく、本案を作成する。

内容

指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行う

基礎基本を確実に身につける指導のあり方

個に応じた指導のあり方

学力のとらえ方と評価の関係

一人一人の学力を向上させる指導のあり方

校内の指導体制と保護者の意識

学校間の研究協力と授業力アップの方策

問題解決指導のあり方

補充的な学習の指導と教材開発のあり方

発展的な学習の指導と教材開発のあり方

発展的な学習の指導の実際

T T のための指導計画の実際

コース選択とコースガイダンスの実際

学習カードと評価を生かした指導の実際

評価のあり方と工夫の実際

振り返りとまとめ

また、教育実習での本案・略案の作り方を予め学び、作成し、模擬授業をする。

評価

指導計画、学習指導案、模擬授業（80％）、試験（20％）で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】指示された単元の指導計画や指導案を各自作成する。（各授業に対して60分）

【事後学修】模擬授業後の模擬研究協議会を振り返り、課題についてまとめる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説算数編 東洋館出版

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び 理論実践編 明治図書

科目名	授業研究 A		
担当教員名	三藤 あさみ、塚田 昭一		
ナンバリング	KBa325		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針の2に該当する。2年次に学んだ「教材研究」についての理解をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは社会・理科コースの授業の進め方について解説する。

科目の概要

社会・理科コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説などを加えながら総合的に学修することをめざしている。

学修目標 (= 到達目標)

問題解決学習を中心とする社会・理科の2教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを具体的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の習得、模擬授業を行なうことのできる指導技術の習得を目指す。

内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究を深めるだけでなく、授業の進め方や展開法、子どもとの接し方(話術、表情)、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。

また、このコースでは、問題解決学習の手法を中心に進める。実際の授業は2名の教員がオムニバス形式で担当し、前期15週・後期15週を以下のような授業計画で進める予定である。そして、社会・理科における各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説、実技指導のポイントやコツの練習などを通して総合的に学修する。

前期 (授業研究 A)

第1週：オリエンテーション：三藤、塚田

第2～8週：社会科に関する授業研究：三藤

第9～14週：理科に関する授業研究：塚田

第15週：まとめ：三藤、塚田

後期 (授業研究 B)

第1週：オリエンテーション：三藤、塚田

第2～7週：社会科に関する授業研究：三藤

第8～14週：理科に関する授業研究：塚田

評価

2教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」などを各40点で評価を行う。それに授業への取り組み（関心・意欲）を各10点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。【フィードバック】前回の授業のレポート、振り返りシート等に記された不明な点、疑問点について授業の初めに補足説明を行い、内容理解が深まるように支援する。

授業外学習

【事前予習】授業前に教材について研究を深めておく。毎時30分

【事後学修】模擬授業の反省をし、改善点をまとめる。毎事後30分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 社会編」 日本文教出版（平成29年度版）

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 理科編」 東洋館出版社（平成29年度版）

【参考図書】小学校の社会・理科の教科書・指導書等の教材

科目名	授業研究A		
担当教員名	山本 悟、久保田 葉子、名達 英詔		
ナンバリング	KBa325		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2．4に該当する。

本科目は、教育課程及び指導法に関する科目の1つで小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点について模擬授業など実践的な活動を通して学ぶために少人数で授業を展開する。ここでは音楽・図工・体育コースの進め方を解説する。

科目の概要

少人数で学習する体制づくりのために、国語、算数、社会・理科、音楽・図工・体育の4コースに分かれて授業を進める。受講生はいずれかのコースを選択して履修することになる。音楽・図工・体育コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業や映像等による授業解説、学外の授業参観活動も加えて総合的に学修することをめざしている。

学修目標

表現活動を共通項とする音楽・図工・体育の3教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立ても総合的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の理解、模擬授業を実践できる指導技術の習得を目標とする。

内容

前期の授業研究Aは、体育科（5回）、音楽科（5回）、図工科（5回）の順に授業を実施予定。

1	体育科：実技指導「器械運動」を通して小学校体育科の授業づくりを考える	：山本
2	体育科：体育授業の観察と評価、体育科授業実践研究の紹介と発表活動について	：山本
3	体育科：小学校体育授業の参観と省察（学外授業の実施）	：山本
4	体育科：実技指導「ボール運動」を通して体育科の授業づくりを考える	：山本
5	体育科：体育授業実践研究に関する発表活動と振り返り、総まとめ	：山本
6	音楽科：小学校音楽科の授業づくりと教科等間のつながり	：久保田
7	音楽科：歌唱 詩の解釈、指揮、伴奏	：久保田
8	音楽科：器楽 楽器の特徴を知る、合奏の指導法	：久保田
9	音楽科：鑑賞と音楽づくり 即興的な表現、音楽へと構成する活動	：久保田
10	音楽科：模擬授業と省察	：久保田
11	図工科：ガイダンス・図画工作科の特性を知る	：名達
12	図工科：図画工作科授業の観察から授業の要点を考える	：名達
13	図工科：図画工作科の指導案と教材研究	：名達
14	図工科：模擬授業を通して授業づくりを考える	：名達
15	図工科：模擬授業を通して授業づくりを考える	：名達

評価

授業への参加度（30%）、毎回のリアクションペーパー（30%）、3教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」等（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各教科3回以上の出席を単位認定の条件とする。【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】授業で扱う内容に関連したテキストや配付資料の講読（60分）。プレゼン活動の準備と発表資料作成（2時間）。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理（30分）。授業で紹介した推薦書の自主的講読（30分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年度版）」 東洋館出版社

【参考図書】

授業中に適宜、紹介する。

科目名	授業研究 B		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 , 4 に該当する。

小学校教諭免許取得のための選択科目の一つである。ここでは、「国語」について説明する。

具体的な学習指導案の作成，模擬授業の実施等により，国語科の授業について実践的に学ぶ。

科目の概要

少人数で授業を展開する。学習指導要領と国語科の基本的な指導法の理解を基本として，教材研究，学習指導案の作成，模擬授業の実施，学習評価，映像による授業の振り返りという過程をたどって学修する。また，児童に取り組みさせる言語活動について，学生自身が体験して理解を深めるようにする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 国語科の指導内容・指導方法に関心を持ち，よりよい授業を構想しようとする。
2. 国語科の指導と評価の在り方について理解を深め，自分なりの考えをもつ。
3. 国語科の指導についての基本的な知識と技能を身に付ける。

内容

この授業は、学習指導案の作成と模擬授業を中心に、実践的な学びと理論を結び付けながら学修を進めていく。

具体的には、小学校の授業づくりについて、教材研究に加え、年間指導計画や学習指導案の作成、授業の導入から展開の仕方、子供への接し方等を実践的・総合的に学ぶことを意図した科目である。

年間30週の講義について、基本的に次のように進めていく。

- | | | |
|----|-------------|-----------------------------|
| 前期 | 第 1 週 | ガイダンス～今、求められる国語科の授業の構想～ |
| | 第 2 ～ 4 週 | 「話すこと・聞くこと」の教材研究と学習指導案の作成 |
| | 第 5 ～ 7 週 | 「話すこと・聞くこと」の模擬授業と省察 |
| | 第 8 週 | 教材・教具 (デジタル教科書を含む)、板書、発問 |
| | 第 9 ～ 11 週 | 文学的な文章の教材研究と「読むこと」の学習指導案の作成 |
| | 第 12 ～ 14 週 | 「読むこと」の模擬授業と省察 |
| | 第 15 週 | 模擬授業の振り返り |

- | | | |
|----|-----------|----------------------|
| 後期 | 第 1 週 | 年間指導計画の作成と学習指導案の在り方 |
| | 第 2 ～ 4 週 | 「書くこと」の教材研究と学習指導案の作成 |
| | 第 5 ～ 7 週 | 「書くこと」の模擬授業と省察 |

- 第8週 教材・教具（デジタル教科書を含む）、板書、発問
第9～11週 文学的な文章の教材研究と「読むこと」の学習指導案の作成
第12～14週 「読むこと」の模擬授業と省察
第15週 模擬授業の振り返り

評価

小レポートや作成物50％，模擬授業や発表活動への取組の様子50％とし，総合評価60点以上を合格とする。
模擬授業の前（後）にグループに個別に指導する時間を設け、疑問点等に対応する。

授業外学習

- 【事前予習】模擬授業の準備（学習指導案や資料の作成など）が必要（各授業に対して45分）。
【事後学修】模擬授業の反省を踏まえて、授業作りについて学びを深める（各授業に対して45分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編
【推薦書】授業の中で紹介する。
【参考図書】授業の中で紹介する。

科目名	授業研究 B		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針の 2 に該当する。

本科目は、算数科の授業構成を通し授業研究をすすめる。児童の実態と教材の内容の分析、指導法の工夫等で優れた実践を元に、指導計画立案や学習指導案作成を行う。

科目の概要

「算数」「初等算数科教育」「教材研究(算数)」の上に立ち、算数科の単元指導計画立案や、習熟度熱少人数指導体制の現状理解、学習の主体性を尊重する指導のあり方について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

小学校 6 年間を通した実践と理論の関係を理解し、略案だけでなく、本案を作成する。

内容

指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行う

基礎基本を確実に身につける指導のあり方

個に応じた指導のあり方

学力のとらえ方と評価の関係

一人一人の学力を向上させる指導のあり方

校内の指導体制と保護者の意識

学校間の研究協力と授業力アップの方策

問題解決指導のあり方

補充的な学習の指導と教材開発のあり方

発展的な学習の指導と教材開発のあり方

発展的な学習の指導の実際

T T のための指導計画の実際

コース選択とコースガイダンスの実際

学習カードと評価を生かした指導の実際

評価のあり方と工夫の実際

振り返りとまとめ

また、教育実習での本案・略案の作り方を予め学び、作成し、模擬授業をする。

評価

指導計画、学習指導案、模擬授業（80％）、試験（20％）で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】指示された単元の指導計画や指導案を各自作成する。（各授業に対して60分）

【事後学修】模擬授業後に模擬研究協議会を振り返り、課題についてまとめる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編 東洋館出版

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び 理論実践編 明治図書

科目名	授業研究 B		
担当教員名	三藤 あさみ、塚田 昭一		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2 に該当する。2 年次に学んだ「教材研究」のねらいや具体的な取組についてさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは社会・理科コースの授業の進め方について解説する。

科目の概要

社会・理科コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説などを加えながら総合的に学修することをめざしている。

学修目標 (= 到達目標)

問題解決学習を中心とする社会・理科の 2 教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを具体的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の理解、模擬授業を実践できる指導技術の習得を目標とする。

内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究を深めるだけでなく、授業の進め方や展開法、子どもとの接し方 (話術、表情)、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。

また、このコースでは、問題解決学習の手法を中心に進める。実際の授業は 2 名の教員がオムニバス形式で担当し、前期 15 週・後期 15 週を以下のような授業計画で進める予定である。そして、社会・理科における各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説、実技指導のポイントやコツの練習などを通して総合的に学修する。

前期 (授業研究 A)

- 第 1 週 : オリエンテーション : 三藤、塚田
- 第 2 ~ 8 週 : 社会科に関する授業研究 : 三藤
- 第 9 ~ 14 週 : 理科に関する授業研究 : 塚田
- 第 15 週 : まとめ : 三藤、塚田

後期 (授業研究 B)

- 第 1 週 : オリエンテーション : 三藤、塚田
- 第 2 ~ 7 週 : 社会科に関する授業研究 : 三藤
- 第 8 ~ 14 週 : 理科に関する授業研究 : 塚田

評価

2教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」などを各40点で評価を行う。それに授業への取り組み（関心・意欲）を各10点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。【フィードバック】前回授業でのレポート、振り返りシート等に記された不明な点、疑問点について授業の初めに補足説明を行い、内容理解が深まるように支援する。

授業外学習

【事前予習】授業前に教材について研究を深めておく。毎時30分

【事後学修】模擬授業の反省をし、改善点をまとめる。毎事後30分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 社会編」 日本文教出版（平成29年度版）

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 理科編」 東洋館出版社（平成29年度版）

【参考図書】小学校の社会・理科の教科書・指導書等の教材

科目名	授業研究 B		
担当教員名	山本 悟、久保田 葉子、宮野 周		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2 . 4 に該当する。

本科目は、教育課程及び指導法に関する科目の 1 つで小学校教諭一種免許状取得のための選択科目である。2 年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点について模擬授業など実践的な活動を通して学ぶために少人数で授業を展開する。ここでは音楽・図工・体育コースの進め方を解説する。

科目の概要

少人数で学習する体制づくりのために、国語、算数、社会・理科、音楽・図工・体育の4コースに分かれて授業を進める。受講生はいずれかのコースを選択して履修することになる。音楽・図工・体育コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業や映像等による授業解説、学外の授業参観活動も加えて総合的に学修することをめざしている。

学修目標

表現活動を共通項とする音楽・図工・体育の 3 教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立ても総合的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の理解、模擬授業を実践できる指導技術の習得を目標とする。

内容

後期の授業研究 B は、音楽科 (5 回)、体育科 (5 回)、図工科 (5 回) の順に授業を実施予定。

1	音楽科：小学校音楽科の授業づくりと教科等間のつながり	：久保田
2	音楽科：歌唱 詩の解釈、指揮、伴奏	：久保田
3	音楽科：器楽 楽器の特徴を知る、合奏の指導法	：久保田
4	音楽科：鑑賞と音楽づくり 即興的な表現、音楽へと構成する活動	：久保田
5	音楽科：模擬授業と省察	：久保田
6	体育科：実技指導「器械運動」を通して小学校体育科の授業づくりを考える	：山本
7	体育科：体育授業の観察と評価、体育科授業実践研究の紹介と発表活動について	：山本
8	体育科：小学校体育授業の参観と省察 (学外授業の実施)	：山本
9	体育科：実技指導「ボール運動」を通して体育科の授業づくりを考える	：山本
10	体育科：体育授業実践研究に関する発表活動と振り返り、まとめ	：山本
11	図工科：ガイダンス・図画工作科の特性を知る	：宮野
12	図工科：図画工作科授業の観察から授業の要点を考える	：宮野
13	図工科：図画工作科の指導案と教材研究	：宮野
14	図工科：模擬授業を通して授業づくりを考える	：宮野
15	図工科：模擬授業を通して授業づくりを考える	：宮野

評価

授業への参加度（30%）、毎回のリアクションペーパー（30%）、3教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」等（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。各教科3回以上の出席を単位認定の条件とする。【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】授業で扱う内容に関連したテキストや配付資料の講読（60分）。プレゼン活動の準備と発表資料作成（2時間）。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理（30分）。授業で紹介した推薦書の自主的講読（30分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年度版）」 東洋館出版社

【参考図書】

授業中に適宜、紹介する。

科目名	道徳教育 A		
担当教員名	綾井 桜子、大友 みどり		
ナンバリング	KBa424		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (英語) / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、小学校教諭一種免許状の取得に必要な「教職に関する科目」であり、「教育課程及び指導法に関する科目」の一つである。児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 に該当する。

科目の概要

「特別の教科 道徳」について、成立に至った経緯について理解するとともに、道徳および道徳教育の本質について理解を深める。特に、道徳的行為を成り立たせる心情、判断力、実践意欲・態度について理解し、実際に道徳科の授業を構想し模擬授業を行うなかで、「道徳科」における指導の仕方を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- ・道徳教育とは何か、その意義や課題について考察し、道徳教育の本質や理念について正しく理解する。
- ・小学校における道徳教育と「道徳科」の果たす役割について理解し、「道徳科」の授業の在り方について考察する。
- ・「道徳科」の授業の進め方について理解し、学習指導案の作成と模擬授業を通して、相互に検討を行い、道徳教育の具体的な方法を身につける。

内容

本授業は、講義のほか、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れながら進めていく。

1	道徳の本質；道徳とは【綾井】
2	道徳教育の特質 / 道徳的に行動するとは【綾井】
3	学習指導要領における道徳教育の位置づけ、目標【綾井】
4	「道徳科」の成立の背景、目標、価値内容項目について【綾井】
5	考え、議論する道徳授業のために 問題解決型の道徳授業【綾井】
6	道徳の授業と教材分析・指導の工夫について 【大友】
7	道徳の授業と教材分析・指導の工夫について 【大友】
8	指導案の作成 ー学習指導案の作成手順【大友】
9	指導案の作成 ー学習指導案の作成【大友】
10	指導案の作成 ー学習指導案の吟味・検討【大友】
11	模擬授業 (指導案発表) 【大友】
12	模擬授業 (指導案発表) 【大友】
13	模擬授業 (指導案発表) 【大友】
14	模擬授業 (指導案発表) 【綾井・大友】
15	道徳の評価 / まとめと振り返り【大友・綾井】

評価

レポートおよび課題提出70点、授業への取り組み (リアクションペーパーの内容を含む) 30点の合計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクション・ペーパーについては、次回以降の授業時に紹介し、コメントを加えるほか、質問に答える。

授業外学習

【事前準備】文部科学省ホームページ「[道徳教育アーカイブ](#)」を閲覧する。特に、模擬授業の前には、授業以外にグループ単位で指導案を完成させるほか、十分に準備し練習する。（各授業つき90分）

【事後学修】『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』について、授業時に扱った箇所を熟読する。ノートのまとめを行う。（各授業につき60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 不要

【推薦書】 羽田積男・関川悦雄編『道徳教育の理論と方法』弘文堂、2016年。ほか、授業時に適宜紹介する。

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』、文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』ほか授業にて提示する。

科目名	道徳教育 B		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング	KBa424		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校の免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。 中学校一種の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 に該当する。

科目の概要

小学校では平成 3 0 年度から、中学校では平成 3 1 年度から実施される「特別の教科 道徳」について、成立に至った経緯について理解する。あわせて、道徳および道徳教育の本質について理解を深める。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら思考し、判断し、道徳的に行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

学修目標

- ・道徳教育とは何か、その意義や課題について考察し、道徳教育の本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と「道徳科」の授業の果たす役割について理解し、「道徳科」の授業のあり方について考察する。
- ・学習指導案をはじめとして、「道徳科」の授業の進め方について理解する。

内容

本授業は、講義を中心に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら進めていく。

1	現代社会と道徳
2	道徳とは、道徳的に行動するとは / 道徳教育の特質
3	学習指導要領における道徳教育の位置づけ、目標、内容等について
4	道徳科成立の背景、目標、内容
5	学校における道徳教育のあゆみ
6	教材の分析について
7	学校における道徳教育の年間指導計画と道徳科の特質 (考え、議論する道徳) について
8	道徳科における指導方法と授業について (自我関与的な学習)
9	道徳科における指導方法と授業について (問題解決的な学習)
10	学習指導案について
11	道徳科における評価について
12	道徳性の発達について
13	道徳性の発達について
14	モラル・ディスカッション・アプローチについて
15	まとめ

評価

レポートおよび課題提出70点、授業への取り組み (リアクションペーパーの内容を含む) 30点の合計100点とし、6

0点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週以降の授業内にて紹介し、コメントし、質問等に答える。

授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく(30分)。提出課題については、発表も含めて、十分に準備する(一つの課題につき2時間程度)

【事後学修】文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(文部科学省ホームページ掲載)について、授業時に扱った箇所を熟読する(30分)。ノートのまとめを行う(30分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業時に指示する。

【推薦書】授業時に適宜、紹介する。

【参考書】文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』、文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』。ほか授業時に提示する。

科目名	特別活動A		
担当教員名	小池 幸		
ナンバリング	KBa327		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語）/ 中学校教諭一種免許状（英語）/ 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科のDPIは、1・2・3・4である。本科目は、教育職員免許法施行規則（改正前・旧課程）に定める、小学校教諭の普通免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものであり、受講者は、必ず履修を完了させる。

科目の概要

学校教育法施行規則に定められた小学校の「教育課程」である「特別活動」は、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の4つの内容で構成されており、これらを、目標である「集団や社会の形成者・・・」を基に、「為すことによって学ぶ」ことを通して、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点からの資質・能力の育成を、児童の発達段階に応じて身に付けていく教育活動である。

学修目標（＝到達目標）

ア 特別活動の3つの特質である「望ましい集団活動」「自主的活動」「実践的活動」について理解するとともに、個人や集団に対して、教員としての心構えや適切な係わり方を身に付ける。

イ 「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」の各内容を理解するとともに、その実践的な指導方法を身に付ける。

ウ 4つの内容展開の中核である「合意形成」及び「意思決定」に至る2つの「話し合い」の方法を理解するとともに、その実践的な指導力を身に付ける。

内容

本授業は、グループワーク・ディスカッション等を中心に展開する。また、模擬授業や場面指導等も設定し、「自ら気づき、考え、実行する」個々の積極的な係わりも具現化する。授業への参加は、受講者一人一人の「意見・考え・願い」等の発表が絶対条件になる。

1	授業の内容、方向性に関するオリエンテーション及び教育課程における特別活動の位置付け
2	特別活動の目標と4つの内容（学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事）の係わり
3	特別活動における2つの話し合い方法（合意形成・意思決定に至る話し合い）と学級活動の関連
4	児童会活動の指導と評価の在り方
5	クラブ活動の指導と評価の在り方
6	学校行事の指導と評価の在り方
7	模擬授業実施に向けた学級活動（1）の指導案作成その1（指導案作成手順と評価）
8	模擬授業実施に向けた学級活動（1）の指導案作成その2（グループワークを中心）
9	模擬授業実施に向けた学級活動（1）の指導案作成その3（グループワークを中心）
10	指導案に基づいた学級活動（1）の模擬授業発表会と全体でのディスカッション
11	模擬授業実施に向けた学級活動（2）（3）の指導案作成その1（指導案作成手順と評価）
12	模擬授業実施に向けた学級活動（2）（3）の指導案作成その2（グループワークを中心）
13	指導案に基づいた学級活動（2）（3）の模擬授業発表会と全体でのディスカッション

14	特別活動と学級経営・人間関係形成・社会参画・自己実現及び3つの学びの係わり
15	今日的教育課題に係わる特別活動必要性和重要性

評価

授業への参加度30%、毎回のリアクションペーパー・課題レポート等30%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーやレポートは、事前に一つ一つ確認し、本時最初に返却するとともに、全体の共通課題となった質問や疑問を解決した後、授業展開を図る。

授業外学習

【事前準備】本時の授業内容の教科書等の該当ページを熟読し、要点をまとめるとともに、自分の意見や思い、願い等を別枠に自分の言葉で記し、課題レポートを作成しておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】本時の学習課題を自分の言葉でまとめるとともに、授業中に指示されたホームページの閲覧や、関係するキーワードの図書館等での確実な調査を行っておく。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』 政府刊行物 (東洋館出版社)

【推薦書】O・F・ボルノウ著 森昭・岡田渥美訳 『教育を支えるもの』 黎明書房(2006年)

【参考図書】文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』 政府刊行物 (東洋館出版社)

科目名	特別活動 B		
担当教員名	小池 幸		
ナンバリング	KBa328		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科のDP1・2・3・4に該当する。本科目は、教育職員免許法施行規則（改正前・旧課程）に定める、中学校教諭・高等学校教諭の普通免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものであるが、受講者は、選択科目として履修できる。

科目の概要

学校教育法施行規則に定められた中・高等学校の「教育課程」である「特別活動」は、学級活動（高等学校はホームルーム活動）・生徒会活動・学校行事の3つの内容で構成され、これらを、目標である「集団や社会の形成者・・・」を基に、「為すことによって学ぶ」ことを通して、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点からの資質・能力を、生徒に身に付けていく教育活動である。

学修目標（＝到達目標）

- ア 特別活動の3つの特質である「望ましい集団活動」「自主的活動」「実践的活動」の理解と、個人や集団に対して、教員としての心構えや適切な係わり方を身に付ける。
- イ 「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」の各内容の理解と実践的な指導方法を身に付ける。
- ウ 3つの内容展開の中核である「合意形成」及び「意思決定」に至る2つの「話し合い」の方法を理解するとともに、その実践的な指導力を身に付ける。

内容

本授業は、グループワーク・ディスカッション等を中心に展開する。また、模擬授業や場面指導等も設定し、「自ら気付き、考え、実行する」個々の積極的な係わりも具現化する。授業への参加は、受講者一人一人の「意見・考え・願い」等の発表が絶対条件になる。

中学校、高等学校とも3つの内容で構成されているが、中学校では学級活動と呼称し、高等学校ではホームルーム活動と呼称する。本授業では、学級活動・ホームルーム活動は学級活動として表記する。

1	授業の内容、方向性に関するオリエンテーション及び教育課程における特別活動の位置付け
2	特別活動の目標と3つの内容（学級活動・生徒会活動・学校行事）の係わり
3	特別活動における2つの話し合い方法（合意形成・意思決定に至る話し合い）と学級活動の関連
4	生徒会活動・学校行事の指導と評価の在り方
5	模擬授業実施に向けた学級活動（1）の指導案作成その1（指導案作成手順と評価）
6	模擬授業実施に向けた学級活動（1）の指導案作成その2（グループワークを中心）
7	指導案に基づいた学級活動（1）の模擬授業発表会と全体でのディスカッション
8	学級活動（2）の「ウ」心身ともに健康で安全な生活態度の形成の内容理解
9	学級活動（2）の「エ」食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成の内容理解
10	模擬授業実施に向けた学級活動（2）（3）の指導案作成その1（指導案作成手順と評価）
11	模擬授業実施に向けた学級活動（2）（3）の指導案作成その2（グループワークを中心）
12	模擬授業実施に向けた学級活動（2）（3）の指導案作成その3（グループワークを中心）

13	指導演に基づいた学級活動(2)(3)の模擬授業発表会と全体でのディスカッション
14	特別活動と学級経営・人間関係形成・社会参画・自己実現及び3つの学びの係わり
15	今日的教育課題に係わる特別活動の必要性和重要性

評価

授業への参加度30%、毎回のリアクションペーパー・課題レポート等30%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーやレポートは、事前に一つ一つ確認し、本時最初に返却するとともに、全体の共通課題となった質問や疑問を解決した後、授業展開を図る。

授業外学習

【事前準備】本時の授業内容の教科書等の該当ページを熟読し、要点をまとめるとともに、自分の意見や思い、願い等を別枠に自分の言葉で記し、課題レポートを作成しておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】本時の学習課題を自分の言葉でまとめるとともに、授業中に指示されたホームページの閲覧や、関係するキーワードの図書館等での確実な調査を行っておく。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』 政府刊行物(東洋館出版社)

文部科学省 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』 政府刊行物(東山書房)

【推薦書】O・F・ボルノウ著 森昭・岡田渥美訳 『教育を支えるもの』 黎明書房(2006年)

【参考図書】文部科学省 『中学校学習指導要領(平成29年告示)』 政府刊行物(東山書房)

科目名	教育方法A		
担当教員名	狩野 浩二、安達 一寿		
ナンバリング	KBa329		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語） / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

児童教育学科ディプロマポリシーの1及び2に対応する講義です。

本科目は、教育職員免許法施行規則で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目である。同施行規則で定められた科目には、「教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」となっている。

本科目では、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考え、その原理や原則について追究するものである。

「方法・技術」には、子どもの状態を見抜き、事態の先を見通す洞察力なども含んだ「教師力」そのものであると考えている。その意味において、教員を目指すものには必ず理解し、学修してほしい分野である。

内容

アクティブラーニングとして、討論、省察、学生の発表、リアクションペーパーとその反映を図ります。

- 1 ガイダンス、教育方法論の課題（狩野）
- 2 授業づくりとは（狩野）
- 3 教育の方法・技術とは（狩野）
- 4 子どもに求められる資質・能力と教育の方法・技術（狩野）
- 5 子どもの学びと授業（狩野）
- 6 授業の構想・計画と教材研究（狩野）
- 7 授業の展開と探究型学習（狩野）
- 8 学習評価の意味と方法（安達）
- 9 授業研究と授業づくり（狩野）
- 10 教材づくり・教材研究と授業づくり ICTの活用（安達）
- 11 学習指導案と授業実践（安達）
- 12 ICTを活用した授業づくり（安達）
- 13 授業づくりを通じた教師教育の可能性（狩野）
- 14 これからの時代の授業づくり（安達）
- 15 まとめ（狩野）

評価

評価は、 授業態度（授業への参加度や、授業中の課題への取り組み状況）を10%、 課題の提出状況と達成度を90%とし、総合的に行う。全体の60%以上を合格とする。

【フィードバック】各授業ごとに、リアクションペーパーを提出し、その内容を踏まえて、次回授業時に、内容についてコメントし、内容の定着を図る。

授業外学習

【事前予習】テキストを読み、教育の方法・技術とは何かをまとめ、疑問点を析出し、講義に臨みます（各授業に対して60分）。

【事後学修】講義を振り返り、あらためて教育の方法・技術について考えをノートに整理します（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】狩野浩二『教育の方法・技術 新しい時代の授業づくりに向けて』ジダイ社（教室で紹介します）、学修指導要領

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版，その他教室で紹介する。

科目名	教育方法B		
担当教員名	星野 敦子、安達 一寿		
ナンバリング	KBa330		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

各学科の学位授与方針1に該当する。中高栄養・養護教諭を目指す学生のための教職教養科目 本科目は、中等教育の現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に情報化社会における授業のあり方と、新しい教育実践を目指した教育方法を的確に捉えることにより、教員採用試験に直結する実践力を養う。

「教育方法の基礎理論に基づいた授業設計ができる」「情報化社会に対応した教育方法を実践できる」

内容

講義を中心として、グループワーク、ディスカッションを取り入れた授業を行う。

第1回：教育の方法・技術に関わる基礎概念(安達・星野)

第2回：教育方法の理論と歴史(星野)

第3回：学習理論の展開(星野)

第4回：カリキュラム開発と類型(星野)

第5回：教育評価の理論(星野)

第6回：新しい教育評価の方法(星野)

第7回：教育課程と学習指導要領(星野)

第8回：授業における教師の役割と指導技術(安達)

第9回：教授組織と学習組織(安達)

第10回：授業設計の手順と教材(安達)

第11回：教育メディアの活用(安達)

第12回：ICTを活用した授業設計(安達)

第13回：情報活用能力と情報モラルの指導(安達)

第14回：総合課題(安達)

第15回：まとめ(安達・星野)

評価

1 授業ごとの課題提出 (30%)

2 最終試験の達成度 (70%)

とし、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】教科書を読み、授業の概要を知る (2時間)

【事後学修】総合課題の見直し (1時間)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

特に定めない

【参考書・推薦書】

- ・平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化
- ・松田稔樹他著 学習者とともに取り組む授業改善 学文社

科目名	保育内容総論		
担当教員名	小谷 直路		
ナンバリング	KBa331		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 4 に該当する。

幼稚園教諭免許取得の必修科目である。幼稚園教育における指導や指導計画の考え方を理解し、実践に必要な基本的な知識・技能を身に付ける科目である。

科目の概要

保育の展開を考えるにあたり理解が必要な基本的な事項について学んでいく。具体的な保育場面での事例を取り上げ、保育者としてどのように幼児の発達を捉え、どのように保育内容を精選し、どのように指導をすすめるかについて検討する。また、保育の実践力の向上につながるように、学生同士で協議したり、自らの考えを文章化したりすることにも取り組む。

学修目標（ = 到達目標）

- ・ 園生活全体を通して総合的に指導するという幼稚園教育における指導の考え方を理解する。
- ・ 幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達の過程を見通した指導計画作成を理解する。
- ・ 幼児の興味や関心、発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。

内容

1	保育の基本（ 1 ）社会とのつながりをふまえた保育の在り方
2	保育の基本（ 2 ）幼稚園教育要領における保育内容の考え方
3	保育の基本（ 3 ）遊びを通した総合的な指導
4	保育の基本（ 4 ）一人一人に応じた指導
5	保育と計画（ 1 ）幼児理解に基づいた保育の展開
6	保育と計画（ 2 ）指導計画作成の考え方
7	保育と計画（ 3 ）指導計画作成の実際
8	保育と計画（ 4 ）園行事の意味と指導の実際
9	保育における保育者の役割（ 1 ）環境の構成
10	保育における保育者の役割（ 2 ）教材研究
11	保育における保育者の役割（ 3 ）記録の意義と実際
12	保育における保育者の役割（ 4 ）幼児理解と指導の評価
13	今日的課題をふまえた保育内容（ 1 ）保育内容の史的変遷
14	今日的課題をふまえた保育内容（ 2 ）小学校教育との接続
15	今日的課題をふまえた保育内容（ 3 ）遊びの意味

評価

最終レポート提出20%、授業への参加度・取組40%、毎時リアクションペーパー（小レポート）40%とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回のリアクションペーパーの内容に応答し、理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】授業で扱う内容に関連した資料検索、発表準備(各授業に対して1時間)

【事後学修】授業のまとめ、提示する課題作成（各授業に対して1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省 幼稚園教育指導要領(2017)

文部科学省 幼稚園教育要領解説(2018)

【参考図書】

授業の中で、適宜紹介する。

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	渡部 美佳		
ナンバリング	KBa332		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1.2.3.4.に該当する。

本科目は、幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のための必修科目であり、保育における「環境」の重要性を理解する。

科目の概要

乳幼児期の発達を踏まえ、保育における身近な「環境」との豊かなかかわりを育むための指導内容と援助の在り方について学習する。

学修目標（＝到達目標）

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」のねらい及び内容を理解する。
- ・幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を展開する方法を身に付ける。
- ・周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科等とのつながりを理解する。

内容

本授業は講義を中心に、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション等を取り入れながら学びを深めていく。

1	領域「環境」とは（1）
2	領域「環境」とは（2）
3	身近な環境を知る（1）
4	身近な環境を知る（2）
5	身近な環境と保育の実際
6	ものとのかかわりと保育の実際
7	標識・文字等とのかかわりと保育の実際
8	数量・図形等とのかかわりと保育の実際
9	園外環境とのかかわりと保育の実際
10	領域「環境」に関わる指導案の作成
11	身近な施設と保育の実際
12	年中行事と保育の実際
13	保育と教育の連続性
14	環境に関わる現代的課題・保育実践の動向
15	まとめ

評価

授業への参加度 10%、授業時の課題 10%、指導案作成 30% 期末レポート 50%とし、総合評価 60点以上を合格とする。

提出された課題、レポートは、コメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】教科書の指定された箇所を読み、授業に臨む。（各授業に対して 60分）

【事後学修】授業を振り返り、理解できたことや今後に生かせる内容などをまとめ、復習ノートを作成する。（各授業に対して 60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大澤力編著 「新版 実践保育内容シリーズ「環境」」 一藝社

【参考図書】教室で紹介

【推薦書】教室で紹介

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	森田 満理子		
ナンバリング	KBa333		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭免許の取得のための必修科目である。児童教育学科のDP2, 3に強く関連する科目である。

科目の概要

社会の中で主体として生きていくうえで基本となる、自立、人とかかわる意欲と人間関係を調整する力、よろこびをもって集団生活をすすめる力等を育む保育について、事例考察や模擬保育の実践を通して学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

- （１）領域「人間関係」のねらい及び内容について、他領域との関連および小学校以降の教育との連続性を踏まえて説明できる。
- （２）主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定し、乳幼児理解に基づいて保育を構想する方法を身に付ける。
- （３）幼児の発達の特性を踏まえた教材や環境構成の重要性を理解し、指導案を作成し、模擬保育やその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。

内容

DVDの視聴やテキストの事例については、グループワーク、ディスカッション、発表を通して理解を深める。

1	幼児教育の基本と保育内容「人間関係」 小学校教育との連続性を踏まえて
2	多様な個とその集団とを育む知性 共感的理解
3	安定して生活する 保育者（好きな人）との信頼関係を基盤として
4	自分で考え行動し、実現する喜び
5	簡単なルールのある遊びについての教材研究，情報機器及び教材の活用
6	簡単なルールのある遊びの実践を想定した指導案作成，情報機器及び教材の活用
7	模擬保育と保育討議を通しての評価
8	長期継続して成し遂げる喜び・挑戦する喜び
9	折り合いをつける力
10	主体者として集団生活をすすめる喜び（DVDの視聴を通して考える）
11	道徳性・規範意識の芽生え
12	協同的な活動とは何か
13	協同的な活動における学びの芽
14	協同的な活動を展開し、学びへと高める保育者の役割
15	園内の関係の充実から地域へ 地域で暮らす人々・専門家との出会い

評価

授業中の取り組みと授業後のリフレクション（40％）、指導案の作成と模擬保育（30％）、最終レポート（30％）とし、60点以上を合格とする。

授業後のリフレクションについて、次回の冒頭にフィードバックしながら前回の振り返りを行う。

指導案、模擬授業についても教員からコメントを述べ、フィードバックする。

授業外学習

【事前準備】授業で扱う内容部分（指定箇所）を講読し、自分なりの考えをもって授業に参加する。演習等で発表する場合は、その準備をする。（1時間）

【事後学修】授業で学んだ子ども同士のかかわりや保育者の援助についてどのように受け止めたか、また、自分が保育者の立場だったらどのように援助するかなどについて考えをまとめる。（1時間）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤繁美編著 年齢別 保育研究 5歳児の協同的学びと対話的保育 ひとなる書房

【推薦書】【参考図書】授業の中で、適宜、図書・資料を紹介する幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示、内閣府、文部科学省、厚生労働省）保育所保育指針（平成29年3月告示、厚生労働省）

佐伯胖編著 共感 育ち合う保育のなかで ミネルヴァ書房

文部科学省特別選定DVD 3年間の保育記録（5歳児編） 岩波映像株式会社

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBa334		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼児教育学科の学位授与方針 2，4 に該当する。

幼稚園教諭免許状資格取得のための必修科目であり，この科目を履修していることが幼稚園での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の内容と指導法について学修する。子どもを受容し安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かってほしいとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。また，絵本の読み聞かせと「おはなし会」の計画と実施に取り組む。

学修目標

1. 子供の言葉を育てる者として，社会における言葉や自身の言葉遣いに関心をもつ。
2. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
3. 絵本等の児童文化財について，教材研究と実践のスキルを養う。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、演習等を適宜取り入れながら学びを深めていく。

1	ガイダンス～幼児教育の目的と領域「言葉」～
2	幼児教育の基本
3	領域「言葉」の内容の整理
4	乳幼児期の言葉の発達，「ブックスタート」の本を読む
5	絵本の読み方，選び方
6	絵本の読み聞かせの基本と「おはなし会」
7	読み聞かせの実際，「おはなし会」の計画
8	「おはなし会」の計画と練習
9	「おはなし会」の実施
10	「おはなし会」の実施 と省察
11	言葉にならない表現を受け止める
12	感情表現と言葉～内言と外言～
13	文字との出会い，「園だより」の作成
14	幼稚園・保育所・小学校の連携～「スタート・カリキュラム」について知る～
15	まとめ～乳幼児の言葉と保育者の役割～

評価

毎回の小レポート及び演習等への参加状況75%，最終的な論述レポート25%とし，総合評価60点以上を合格とする。
小レポートの中に質疑等を含め、次回の授業で回答する。

授業外学習

- 【事前予習】演習等に関して，事前の予習・準備が必要（各授業に対して45分）。
- 【事後学修】返却した小レポート等に基づいて復習する（各授業に対して45分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】『幼稚園教育要領（平成29年告示）解説』
- 【推薦書】『事例で学ぶ保育内容 領域言葉』（無藤 隆 監修，萌文書林，2,000円）
- 【参考図書】教室で紹介する。

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	山本 悟、井上 由利子		
ナンバリング	KBa335		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2 . 3 に該当する。

本科目は児童教育学科教育課程編成方針の教育課程及び指導法に関する科目に位置づけ、2年生後期に設定された幼稚園教諭免許取得の必修科目であり、幼稚園教育要領の領域「健康」に関する専門的な知識と実践的指導力を身に付けることを目的としている。

科目の概要

健康・安全に必要な基本的な生活習慣や健康づくり、および幼児の運動遊びに関する指導法を学ぶとともに、施設・設備の整備に関する具体的な方法を理解する。指導法を学ぶ場として、受講者全員に模擬保育（2回）を体験させる。

学修目標（=到達目標）

- 1）幼児期の健康、生活習慣の指導に関する知識や技能を身に付ける。
- 2）幼児期の運動の重要性を理解し、指導の方法を考えることができる。
- 3）健康に関する教材を具体的に作り、活用できる。

内容

1	幼稚園教育要領の領域「健康」について	: 山本、井上
2	幼児期の健康的な生活について	: 井上
3	子どもの心身の発育・発達とその特性	: 井上
4	模擬保育の構想（模擬保育の進め方と指導計画立案の理解）	: 山本、井上
5	模擬保育の構想（子どもの運動遊びの理解～ワークショップ）	: 井上、山本
6	幼稚園における実際活動の解説（1）：運動遊び	: 井上
7	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上
8	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上
9	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上
10	幼稚園における実際活動の解説（2）：健康指導 ～模擬保育の振り返り	: 井上
11	子どもの生活リズムに関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上
12	子どもの保健に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上
13	子どもの安全に関する指導法（模擬保育）	: 山本、井上
14	幼稚園における実際活動の解説（3）：安全指導と避難訓練 ～模擬保育の振り返り	: 井上
15	子どもの救急法、まとめ	: 山本、井上

評価

模擬保育の発表活動と振り返りレポート（各2回）60%、まとめのレポート20%、授業への参加度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】シラバスに示した授業内容について、テキスト「幼稚園教育要領解説」の関連ページを確認し、自分なりに内容をまとめておく。各授業に対して60分。模擬授業の指導案作成（90分×2回）。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理と振り返りを行うとともに、授業時に紹介された体育授業に関する文献や資料についても各自で学びを深める。各授業に対して60分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館(平成29年度版)

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBa336		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1, 2, 3に該当する。

幼児期における音楽教育の必要性と大切さを理解した上で、保育現場での実際の音楽活動や、小学校の低学年の音楽活動についても学ぶことを目的とする。

科目の概要

童謡や子どもの歌をとりあげ、普通の保育で遊ぶ簡単なリズムあそびや、発表会・運動会などの行事で発表する簡単なリズムダンスへの発展の仕方などを修得し、導入法などを学ぶ。

また同時に童謡や子どもの歌と一緒にうたいながら演奏できる簡単な伴奏法も学ぶ。音楽をいかに楽しく表現するか、その音楽を子どもにどのように指導していくかを勉強していく。

学修目標

わらべ歌、子どもの歌を使ったリズム遊び、音楽あそびを既存のものや、自分で考案したものなどを指導できるようになることを学修目標とする。

内容

この講義は、毎回子どもの歌や童謡に合わせて手遊びをしたり、歌ったり動いたり遊んだりする指導法を学ぶ。簡単な和音を使い、歌いながら伴奏できるよう弾く実技も学ぶ。

小学校の低学年の教科書に掲載の曲も取り上げる。

(1)前半の50分

歌いながら簡単な伴奏ができる方法を勉強する。子どもの歌を季節・行事・生活・あそびなどのジャンルに分け、その中から課題を2～3曲選曲し、子どもの発達段階に合わせての指導法を勉強する。

リズム・フレーズ・拍子など音楽分析

簡単な和音での編曲

歌いながらの指導法

行事関係の曲

生活関連の曲

あそび関連の曲

(2)後半40分

わらべ歌・手遊び・リズム遊び・リズムダンスなどを中心として2～3曲動く。

普通の保育でのリズムあそびやその創作

発表会や運動会を中心としたあそび・動き

歩くリズムの捉え方

走るリズムの捉え方

スキップ・ギャロップなどの符点のリズムの捉え方

フレーズごとの流れるリズムの捉え方

縦乗りのリズムの捉え方

評価

毎回の課題(40%)と発表(50%)、通常の授業への参加

学習理解を度・取り組み(10%)により評価を行い、60点を以上を合格とする。

【フィードバック】毎回授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う課題曲2～3曲の楽譜を読譜し練習する。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業の振り返りおよび配布資料の整理。(各授業に対して30分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、テキスト・プリント・CDを使用し紹介する。

推薦CD:

・年間とおして!毎日やくだつ!保育ベスト30あそび(清水玲子 キングレコード)

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KBa337		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1．2．3に該当する。

今日、保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は、以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

科目の概要

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

学修目標

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨く。

内容

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます保育のあり方を考えます。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図られるための考察をグループ活動を中心とした実践や情報機器の活用も交えながら行います。

- 1.科目の概要 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用や指導案作成・計画について
- 2.自然との出会い1 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 3.自然との出会い2 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 4.自然との出会い3 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 5.自然との出会い4 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 6.自然との出会い5 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 7.ものやひととの出会い-1- ローラーの遊びから
- 8.ものやひととの出会い-2- 凸凹みつけ1 スタンプの遊びから
- 9.ものやひととの出会い-3- 凸凹みつけ2 写す遊びから
- 10.ものやひととの出会い-4- 絵の具とのかかわり 筆以外の描画材料を活かして
- 11.ものやひととの出会い-5- 絵の具とのかかわり 色水遊びから
- 12.ものやひととの出会い-6- 光とのかかわり 透明な素材から
- 13.ものやひととの出会い-7- 編む 毛糸を活かして
- 14.ものやひととの出会い-8- 乳幼児の造形発達と表現について映像を通して考える

15.まとめ 全体のふりかえりと総括

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり,教科書等で確認すること。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社
磯部錦司編著『造形表現・図画工作』建帛社

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KBa337		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学位授与方針1．2．3に該当する。

今日、保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は、以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

科目の概要

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

科目の目標

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨く。

内容

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます保育のあり方を考える。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図られるための考察をグループ活動を中心とした実践や情報機器の活用も交えながら行う。

- 1.科目の概要 五感を駆使して デジタルカメラなどの情報機器の活用や指導案作成・計画について
- 2.自然との出会い1 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 3.自然との出会い2 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 4.自然との出会い3 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 5.自然との出会い4 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 6.自然との出会い5 身近な自然物（葉や枝など）を活かして
- 7.ものやひととの出会い-1- ローラーの遊びから
- 8.ものやひととの出会い-2- 凸凹みつけ1 スタンプの遊びから
- 9.ものやひととの出会い-3- 凸凹みつけ2 写す遊びから
- 10.ものやひととの出会い-4- 絵の具とのかかわり 筆以外の描画材料を活かして
- 11.ものやひととの出会い-5- 絵の具とのかかわり 色水遊びから
- 12.ものやひととの出会い-6- 光とのかかわり 透明な素材から
- 13.ものやひととの出会い-7- 編む 毛糸を活かして
- 14.ものやひととの出会い-8- 乳幼児の造形発達と表現について映像を通して考える

15.まとめ 全体のふりかえりと総括

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。総合評価60点以上を合格とする。定期試験は実施しない。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

授業外学習

【事前予習】すべての感覚器官が柔軟に機能するよう体調管理に努めておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】少しでも興味を持った行動は再度体験してみたり、教科書等で調べ確認すること(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕谷田貝公昭監修・竹井史編著『コンパクト版 保育内容シリーズ 造形表現』一藝社
磯部錦司編著『造形表現・図画工作』建帛社

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	齋藤 忍		
ナンバリング	KBa338		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2 . 3 . 4 に該当する。本科目は、教員養成課程教育カリキュラムにおける「教育課程及び指導法に関する科目」の1つ「特別支援教育に関する科目」であり、通常の学級に6.5%の割合で在籍するとされている「学習障害 (LD) 」 「注意欠陥多動性障害 (AD / HD) 」 「自閉スペクトラム症 (ASD) 」等の児童に対し、適切かつ効果的に支援する力を身に付けることが求められる。

科目の概要

LD・AD/HD・ASD等の障害特性及び認知特性についてより具体的に学ぶとともに、適切かつ効果的な指導法を身に付け、個々の教育的ニーズに応えることができるような資質・能力を養う。授業では、疑似体験等を通して児童生徒の辛さを体験した上で、実際の授業に活かせるようなアセスメント、個別の指導計画の作成、支援方法、関係機関との連携等について実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . LD・AD/HD・ASD等の障害特性について理解する。
- 2 . アセスメントにより認知特性を把握し、支援策を検討できるようにする。
- 3 . 個別の教育支援計画、個別の指導計画をもとにした、関係機関との連携の在り方を理解する。

内容

この授業は講義を基本に、「LD・ADHD等心理的疑似体験プログラム」等を通して、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	学習障害 (LD) の理解
2	注意欠陥多動性障害 (AD / HD) の理解
3	自閉スペクトラム症 (ASD) の理解
4	アセスメントの基礎
5	心理アセスメント
6	読み・書きの指導
7	多層指導モデル M I M
8	算数の指導 ~ 計算する・推論する ~
9	行動の指導 ~ 行動の三分割 : ペアレント・トレーニングの手法を生かして ~
10	社会性の指導 ~ ソーシャル・スキル・トレーニング ~
11	通常の学級における支援 ~ 学びのユニバーサルデザイン (U D L) ~
12	学校における支援体制 ~ ケース検討会 ~
13	学校における支援体制 ~ 個別の指導計画の作成 ~
14	保護者との連携・地域との連携

評価

授業への参加態度（毎回のリアクションペーパーを含む）10%、中間レポートによる評価20%、試験による評価70%とし、総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。試験については授業の中で振り返りを行うとともに、レポートにはコメントを付す。

授業外学習

【事前準備】事前に教科書・推薦書等によって、各障害の定義・特徴・支援方法等を調べ、疑問点を整理しておく。（各授業に対し30分）

【事後学修】授業については復習を必須とし、配付資料等をもとに理解を深められるよう整理するとともに、学校インターンシップ等において学修内容を役立てる。（各授業60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」文部科学省

「小学校学習指導要領解説・総則編」文部科学省

「特別支援学校学習指導要領解説・自立活動編」文部科学省

【推薦書】 「S.E.N.S養成セミナー特別支援教育の理論と実践 ・ ・ ・（第3版）」金剛出版

【参考図書】 授業の中で、その都度推薦図書を紹介する。

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	齋藤 忍		
ナンバリング	KBa338		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2 . 3 . 4 に該当する。本科目は、教員養成課程教育カリキュラムにおける「教育課程及び指導法に関する科目」の1つ「特別支援教育に関する科目」であり、通常の学級に6.5%の割合で在籍するとされている「学習障害 (LD) 」 「注意欠陥多動性障害 (AD / HD) 」 「自閉スペクトラム症 (ASD) 」等の児童に対し、適切かつ効果的に支援する力を身に付けることが求められる。

科目の概要

LD ・ AD / HD ・ ASD等の障害特性及び認知特性についてより具体的に学ぶとともに、適切かつ効果的な指導法を身に付け、個々の教育的ニーズに応えることができるような資質・能力を養う。授業では、疑似体験等を通して児童生徒の辛さを体験した上で、実際の授業に活かせるようなアセスメント、個別の指導計画の作成、支援方法、関係機関との連携等について実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . LD ・ AD / HD ・ ASD等の障害特性について理解する。
- 2 . アセスメントにより認知特性を把握し、支援策を検討できるようにする。
- 3 . 個別の教育支援計画、個別の指導計画をもとにした、関係機関との連携の在り方を理解する。

内容

この授業は講義を基本に、「LD ・ ADHD等心理的疑似体験プログラム」等を通して、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	学習障害 (LD) の理解
2	注意欠陥多動性障害 (AD / HD) の理解
3	自閉スペクトラム症 (ASD) の理解
4	アセスメントの基礎
5	心理アセスメント
6	読み・書きの指導
7	多層指導モデル M I M
8	算数の指導 ~ 計算する・推論する ~
9	行動の指導 ~ 行動の三分割 : ペアレント・トレーニングの手法を生かして ~
10	社会性の指導 ~ ソーシャル・スキル・トレーニング ~
11	通常の学級における支援 ~ 学びのユニバーサルデザイン (U D L) ~
12	学校における支援体制 ~ ケース検討会 ~
13	学校における支援体制 ~ 個別の指導計画の作成 ~
14	保護者との連携・地域との連携

評価

授業への参加態度（毎回のリアクションペーパーを含む）10%、中間レポートによる評価20%、試験による評価70%とし、総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。試験については授業の中で振り返りを行うとともに、レポートにはコメントを付す。

授業外学習

【事前準備】事前に教科書・推薦書等によって、各障害の定義・特徴・支援方法等を調べ、疑問点を整理しておく。（各授業に対し30分）

【事後学修】授業については復習を必須とし、配付資料等をもとに理解を深められるよう整理するとともに、学校インターンシップ等において学修内容を役立てる。（各授業60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」文部科学省

「小学校学習指導要領解説・総則編」文部科学省

「特別支援学校学習指導要領解説・自立活動編」文部科学省

【推薦書】 「S.E.N.S養成セミナー特別支援教育の理論と実践 ・ ・ （第3版）」金剛出版

【参考図書】 授業の中で、その都度推薦図書を紹介する。

科目名	知的障害教育課程論		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング	KBa439		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1,2,3,4に該当する。本科目は、特別支援学校教諭一種免許状取得のカリキュラムにおける「特別支援教育に関する科目」の一つであり、学位授与方針の「各教科等における実践的な指導力」にあたる知的障害特別支援学校の教育課程の構造や知的障害教育における領域別の指導、教科別の指導、各教科等を合わせた指導の意義を理解し、学習指導案を作成できるようにすることが求められる。

科目の概要

既習の知的障害教育概論の内容を踏まえ、専門的な事項について理解を深めることを目的とする。また、知的障害教育の教育課程を編成する上で重要な知的障害教育の教科、各教科等を合わせた指導の意義を理解し、学習指導案を作成していく。

学修目標 (= 到達目標)

1. 知的障害の児童の学習上の特性や教育課程の特徴について理解する。
2. 知的障害特別支援学校の授業時数の考え方を理解し、時間割を作成することができる。
3. 知的障害教育の各教科等の学習指導案を作成することができる。
4. 特別支援学校教育等の基本的知識を習得し、教員採用試験に対応できる知識を身に付ける。

内容

本授業は講義を基本にグループワーク、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。学習指導案の作成では演習形式で授業を実施する。

1	学習指導要領等が示す知的障害の定義
2	知的障害教育における教育課程の意義
3	知的障害教育の教育課程に関する法令等
4	知的障害教育における授業時数の考え方と時間割の作成 (演習)
5	知的障害教育の教科指導 (生活、国語)
6	知的障害教育の教科指導 (算数、音楽)
7	知的障害教育の教科指導 (図画工作、体育)
8	知的障害教育における自立活動、特別活動の指導
9	知的障害教育における道徳、外国語活動、総合的な学習の時間の指導
10	知的障害教育における学級編制基準と教科書の取扱い
11	知的障害教育の国語の指導案の作成 1 (演習)
12	知的障害教育の国語の指導案の作成 2 (演習)
13	知的障害教育の国語の指導案の作成 3 (演習)
14	今後の知的障害教育の展望
15	まとめ

評価

定期試験(80%)、小テスト・レポートの提出(10%)及び授業に対する関心・意欲・態度等(10%)とし、60点以上を合格とする。授業の中で試験の振り返りを行う。

【フィードバック】毎回の授業で課題を提示し、次回の授業で提示された課題について解説、コメントを行いながら前回の授業内容を振り返り、学修理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】それぞれの学校種における教育法規、教育課程、指導法等の内容を整理しておく。また、知的障害を中心とした特別支援教育の基本的な事項を整理しておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】配布資料を参考に授業内容を整理し、提示された課題をまとめておく。(各授業に対して90分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 特別支援教育の基礎 大学図書出版、特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示) 文部科学省、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)平成30年3月、文部科学省

【推薦書】特別支援教育の基礎 大学図書出版

【参考書】授業内で必要な書籍等を紹介する。

科目名	肢体不自由教育課程論		
担当教員名	阿部 晴美		
ナンバリング	KBa440		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1.2.3.4に該当する。本科目は、特別支援学校教諭一種免許取得のカリキュラムにおける「特別支援教育領域に関する科目」の一つであり、学位授与方針の「各教科等における実践的な指導力」にあたる。肢体不自由特別支援学校の複数の教育課程の構造並びに肢体不自由教育における自立活動の指導内容を理解すること、個別の指導計画の作成と評価ができるようにすることが求められる。

科目の概要

「肢体不自由教育概論」で学んだ内容を踏まえ、さらに肢体不自由教育に関する専門的事項を学ぶ。「自立活動」の指導内容および指導計画の作成と評価について講義と実習をまじえて学習する。

学修目標

- 1) 肢体不自由教育における教育課程と自立活動の意義について理解する
- 2) 自立活動の指導内容と具体的な指導法について理解する
- 3) 肢体不自由教育における個別の指導計画の作成と評価、授業改善について理解する

内容

この授業は講義を基本に、課題レポートをもとにしたグループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。また、肢体不自由児の摂食指導や介助の疑似体験を通し、より具体的に理解できるようにする。

1	肢体不自由教育における教育課程の編成と自立活動の意義
2	肢体不自由児の障害特性と自立活動(講義、演習)
3	健康の保持
4	心理的な安定および人間関係の形成
5	環境の把握
6	身体の動き 1 (講義、実習)
7	身体の動き 2
8	コミュニケーション
9	摂食指導(講義、実習)
10	各教科の指導
11	個別の指導計画の作成
12	肢体不自由教育における授業計画
13	授業研究及び授業改善(講義、演習)
14	今後の肢体不自由教育の展望
15	まとめ

評価

授業への参加態度10%、2回のレポートによる評価30%、毎回のリアクションペーパー10%、最終試験50%を加味

して総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。提出されたレポートには、コメントを付し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】授業範囲の参考図書を読んで、不明な点や質問点をまとめておく。(30分)

【事後学修】授業での配布資料を参考にして授業内容を整理して理解を深める。また、インターンシップ等の体験で学習内容を役立てるようにする。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】

「特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」平成29年4月告示、文部科学省、平成30年、海文堂出版株式会社、本体440円+税

「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)」平成30年3月、文部科学省、平成30年、開隆堂出版株式会社、本体159円+税

【その他】必要に応じて授業で推薦する。

科目名	病弱教育課程論		
担当教員名	堂東 稔彦		
ナンバリング	KBa441		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 . 4 に該当する。

本科目は特別支援教育における障害種別「もう教育」「ろう教育」「知的障害教育」「肢体不自由教育」「病弱教育」のうち「病弱教育」を中心とした教育領域の科目である。

ここでは、病弱教育における教育課程について学び、他の科目での履修内容と合わせて、病弱、虚弱児に対する教育的支援について理解を深める。

科目の概要

特別支援教育 (特に病弱教育) における教育課程について、編成における基本的な考え方とその手順、内容及び配慮事項等について理解する。また、教育課程の実施にあたって必要な個々の病状や教育環境、児童生徒の発達に応じた個別の指導計画の作成について、自立活動を中心に指導上配慮すべき点や教材・教具の創意・工夫について理解する。

学修目標 (= 到達目標)

- ・病弱教育における教育課程の内容、個別の指導計画作成の手順や配慮事項等について理解する。
- ・病状や活動制限等に応じた学習活動の設定や、教材・教具の創意・工夫等の必要性を理解する。
- ・個々の実態に応じた自立活動の目標設定と内容の選定、指導方法等について理解する。

内容

この授業は講義を基本に、個人の課題への取り組み等の意見交換等を取り入れながら、学びを深めていく。

1	病弱教育について
2	病弱教育の現状
3	病弱教育における教育課程編成 (1)
4	病弱教育における教育課程編成 (2)
5	病弱教育における自立活動 (1) (保育所保育指針と幼稚園教育要領)
6	病弱教育における自立活動 (2)
7	病弱児の疾患と教育の実際 (1) (教科指導、自立活動の指導等)
8	病弱児の疾患と教育の実際 (2) (教科指導、自立活動の指導等)
9	病弱児の疾患と教育の実際 (3) (教科指導、自立活動の指導等)
10	病弱児の疾患と教育の実際 (4) (個別の指導計画の作成)
11	病弱教育における教科等の指導 情報機器等の活用等 (教材教具の工夫)
12	重複障害を有する児重生徒の教育課程の実際
13	医療機関等、関係諸機関との連携
14	教育課程及び個別の指導計画の評価と改善
15	まとめ

評価

筆記試験60%、学修目標に関するレポート30%、授業への参加度10%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

【フィードバック】提出されたレポートは翌週以降の授業内で全体評価等を伝える。

授業外学習

【事前準備】特別支援学校学習指導要領の、総則、自立活動、幼稚園教育要領、保育所保育指針を参考に、病児の心理発達、病状理解を参考資料等を参考にまとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】プリント等の説明内容を再度確認して整理し、理解を深める。（各授業40分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業においてプリントを配布する。

参考図書等については講義内で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBa142		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1.2 に該当します。

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法Ⅱ～Ⅳと同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習を行うことはできません。

科目の概要

中学校の英語教育を中心に、教育課程全体における英語科カリキュラムの実際について学びます。さらに、中学校の英語の教科書を使い、基本的な指導法について実践的に学びます。

学修目標 (= 到達目標)

英語科カリキュラムの位置づけとその実際及び基本的な指導法を理解します。

内容

英語科の指導法について、講義を中心にグループワークやディスカッションを交えて基本的な指導技術を学びます。

1	オリエンテーション
2	これからの英語教育
3	中学校英語教育の目標と内容 (1)
4	中学校英語教育の目標と内容 (2)
5	言語習得理論
6	各種の英語教授法
7	「聞くこと」の学習と指導
8	「話すこと」の学習と指導
9	「読むこと」の学習と指導
10	「書くこと」の学習と指導
11	4技能を総合的に育成する指導
12	I C Tを活用した学習と指導
13	学習指導案と模擬授業 (1)
14	学習指導案と模擬授業 (2)
15	まとめ

評価

(1) 平常点 (スピーチ、書き取り、暗唱、発表、振り返りレポート等) 80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】振り返りレポートのシェアリングを行う。

授業外学習

【事前準備】中学校学習指導要領（外国語）をよく読み、理解を深めておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】当該授業の振り返りを行い、次のスピーチや暗唱の練習を行う。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBa142		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1.2に該当します。

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法II～IVと同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習を行うことはできません。

科目の概要

中学校の英語教育を中心に、教育課程全体における英語科カリキュラムの実際について学びます。さらに、中学校の英語の教科書を使い、基本的な指導法について実践的に学びます。

学修目標（=到達目標）

英語科カリキュラムの位置づけとその実際及び基本的な指導法を理解します。

内容

英語科の指導法について、講義を中心にグループワークやディスカッションを交えて基本的な指導技術を学びます。

1	オリエンテーション
2	これからの英語教育
3	中学校英語教育の目標と内容（1）
4	中学校英語教育の目標と内容（2）
5	言語習得理論
6	各種の英語教授法
7	「聞くこと」の学習と指導
8	「話すこと」の学習と指導
9	「読むこと」の学習と指導
10	「書くこと」の学習と指導
11	4技能を総合的に育成する指導
12	ICTを活用した学習と指導
13	学習指導案と模擬授業（1）
14	学習指導案と模擬授業（2）
15	まとめ

評価

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、発表、振り返りレポート等）80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】振り返りレポートのシェアリングを行う。

授業外学習

【事前準備】中学校学習指導要領（外国語）をよく読み、理解を深めておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】当該授業の振り返りを行い、次のスピーチや暗唱の練習を行う。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBa142		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1.2に該当します。

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法II～IVと同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習を行うことはできません。

科目の概要

中学校の英語教育を中心に、教育課程全体における英語科カリキュラムの実際について学びます。さらに、中学校の英語の教科書を使い、基本的な指導法について実践的に学びます。

学修目標（=到達目標）

英語科カリキュラムの位置づけとその実際及び基本的な指導法を理解します。

内容

英語科の指導法について、講義を中心にグループワークやディスカッションを交えて基本的な指導技術を学びます。

1	オリエンテーション
2	これからの英語教育
3	中学校英語教育の目標と内容（1）
4	中学校英語教育の目標と内容（2）
5	言語習得理論
6	各種の英語教授法
7	「聞くこと」の学習と指導
8	「話すこと」の学習と指導
9	「読むこと」の学習と指導
10	「書くこと」の学習と指導
11	4技能を総合的に育成する指導
12	ICTを活用した学習と指導
13	学習指導案と模擬授業（1）
14	学習指導案と模擬授業（2）
15	まとめ

評価

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、発表、振り返りレポート等）80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】振り返りレポートのシェアリングを行う。

授業外学習

【事前準備】中学校学習指導要領（外国語）をよく読み、理解を深めておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】当該授業の振り返りを行い、次のスピーチや暗唱の練習を行う。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBa142		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1.2に該当します。

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法II～IVと同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習を行うことはできません。

科目の概要

中学校の英語教育を中心に、教育課程全体における英語科カリキュラムの実際について学びます。さらに、中学校の英語の教科書を使い、基本的な指導法について実践的に学びます。

学修目標（＝到達目標）

英語科カリキュラムの位置づけとその実際及び基本的な指導法を理解します。

内容

英語科の指導法について、講義を中心にグループワークやディスカッションを交えて基本的な指導技術を学びます。

1	オリエンテーション
2	これからの英語教育
3	中学校英語教育の目標と内容（1）
4	中学校英語教育の目標と内容（2）
5	言語習得理論
6	各種の英語教授法
7	「聞くこと」の学習と指導
8	「話すこと」の学習と指導
9	「読むこと」の学習と指導
10	「書くこと」の学習と指導
11	4技能を総合的に育成する指導
12	ICTを活用した学習と指導
13	学習指導案と模擬授業（1）
14	学習指導案と模擬授業（2）
15	まとめ

評価

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、発表、振り返りレポート等）80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】振り返りレポートのシェアリングを行う。

授業外学習

【事前準備】中学校学習指導要領（外国語）をよく読み、理解を深めておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】当該授業の振り返りを行い、次のスピーチや暗唱の練習を行う。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBa242		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1.2 に該当します。

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法、と同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習を行うことはできません。また、本科目は英語科教育法の単位を取得していないと履修できません。

科目の概要

英語科教育法Iで学んだ内容をふまえ、中学校 (高等学校) で実際に授業を行うことを前提に、中学校の英語の教科書を使い、基本的かつ実践的な指導法について学びます。

学修目標 (= 到達目標)

中学校・高等学校において、英語を教えるために必要な文法的知識と指導法を学びます。

内容

模擬授業を中心に、スピーチ、書き取り、暗唱などを交え、自身の英語運用能力の向上を図るとともに、実践的指導力の育成を目指します。加えて、グループワークを通じて、お互いの模擬授業を省察し、指導技術の向上を図ります。

1	オリエンテーション
2	文字と符号
3	文の構成と基本文形
4	文の種類(肯定文、疑問文、命令文、感嘆文、構文等)
5	名詞・名詞句、代名詞
6	動詞・動詞句
7	時制と相
8	態
9	形容詞・副詞
10	不定詞
11	動名詞
12	分詞
13	完了形
14	関係詞
15	まとめ

評価

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等）80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

授業外学習

【事前準備】これまで学んできた指導法をふまえ、模擬授業の指導案を検討する。（担当時に120分）

【事後学修】次回の模擬授業に向け、改善策の検討を行う。（担当時に30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBa242		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1.2 に該当します。

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法、と同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習を行うことはできません。また、本科目は英語科教育法の単位を取得していないと履修できません。

科目の概要

英語科教育法Iで学んだ内容をふまえ、中学校 (高等学校) で実際に授業を行うことを前提に、中学校の英語の教科書を使い、基本的かつ実践的な指導法について学びます。

学修目標 (= 到達目標)

中学校・高等学校において、英語を教えるために必要な文法的知識と指導法を学びます。

内容

模擬授業を中心に、スピーチ、書き取り、暗唱などを交え、自身の英語運用能力の向上を図るとともに、実践的指導力の育成を目指します。加えて、グループワークを通じて、お互いの模擬授業を省察し、指導技術の向上を図ります。

1	オリエンテーション
2	文字と符号
3	文の構成と基本文形
4	文の種類(肯定文、疑問文、命令文、感嘆文、構文等)
5	名詞・名詞句、代名詞
6	動詞・動詞句
7	時制と相
8	態
9	形容詞・副詞
10	不定詞
11	動名詞
12	分詞
13	完了形
14	関係詞
15	まとめ

評価

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等）80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

授業外学習

【事前準備】これまで学んできた指導法をふまえ、模擬授業の指導案を検討する。（担当時に120分）

【事後学修】次回の模擬授業に向け、改善策の検討を行う。（担当時に30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBa242		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1.2 に該当します。

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法、と同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習を行うことはできません。また、本科目は英語科教育法の単位を取得していないと履修できません。

科目の概要

英語科教育法Iで学んだ内容をふまえ、中学校 (高等学校) で実際に授業を行うことを前提に、中学校の英語の教科書を使い、基本的かつ実践的な指導法について学びます。

学修目標 (= 到達目標)

中学校・高等学校において、英語を教えるために必要な文法的知識と指導法を学びます。

内容

模擬授業を中心に、スピーチ、書き取り、暗唱などを交え、自身の英語運用能力の向上を図るとともに、実践的指導力の育成を目指します。加えて、グループワークを通じて、お互いの模擬授業を省察し、指導技術の向上を図ります。

1	オリエンテーション
2	文字と符号
3	文の構成と基本文形
4	文の種類(肯定文、疑問文、命令文、感嘆文、構文等)
5	名詞・名詞句、代名詞
6	動詞・動詞句
7	時制と相
8	態
9	形容詞・副詞
10	不定詞
11	動名詞
12	分詞
13	完了形
14	関係詞
15	まとめ

評価

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等）80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

授業外学習

【事前準備】これまで学んできた指導法をふまえ、模擬授業の指導案を検討する。（担当時に120分）

【事後学修】次回の模擬授業に向け、改善策の検討を行う。（担当時に30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBa242		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1.2 に該当します。

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法、と同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習を行うことはできません。また、本科目は英語科教育法の単位を取得していないと履修できません。

科目の概要

英語科教育法Iで学んだ内容をふまえ、中学校 (高等学校) で実際に授業を行うことを前提に、中学校の英語の教科書を使い、基本的かつ実践的な指導法について学びます。

学修目標 (= 到達目標)

中学校・高等学校において、英語を教えるために必要な文法的知識と指導法を学びます。

内容

模擬授業を中心に、スピーチ、書き取り、暗唱などを交え、自身の英語運用能力の向上を図るとともに、実践的指導力の育成を目指します。加えて、グループワークを通じて、お互いの模擬授業を省察し、指導技術の向上を図ります。

1	オリエンテーション
2	文字と符号
3	文の構成と基本文形
4	文の種類(肯定文、疑問文、命令文、感嘆文、構文等)
5	名詞・名詞句、代名詞
6	動詞・動詞句
7	時制と相
8	態
9	形容詞・副詞
10	不定詞
11	動名詞
12	分詞
13	完了形
14	関係詞
15	まとめ

評価

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等）80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

授業外学習

【事前準備】これまで学んできた指導法をふまえ、模擬授業の指導案を検討する。（担当時に120分）

【事後学修】次回の模擬授業に向け、改善策の検討を行う。（担当時に30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明、向後 朋美		
ナンバリング	KBa342		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当します。

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法、と同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習を行うことはできません。また、本科目は英語科教育法の単位が取得できていないと履修できません。

科目の概要

「英語教科教育法Ⅰ,Ⅱ」(2 年前期後期) で習得した点をふまえて、英語科教育の理論と方法について理解を深め、発展的な事項を学びます。さらに、授業の具体的な技術・方法を模擬授業をとおして体験的に学び、4 年次の教育実習への橋渡しとします。

学修目標 (= 到達目標)

(i) 英語科教育の理論と方法について理解し、授業の指導案を作成できる、(ii) 指導案をもとに模擬授業を行い、改善点を発見し、修正することができる。

内容

模擬授業を中心に、スピーチ、書き取り、暗唱などを交え、自身の英語運用能力の向上を図るとともに、実践的指導力の育成を目指します。加えて、グループワークを通じて、お互いの模擬授業を省察し、指導技術の向上を図ります。

1	オリエンテーション
2	公開研究授業のビデオの視聴(1)
3	公開研究授業のビデオの視聴(2)
4	授業の構成 (年間の授業計画の中での位置付けと 1 時間ごとの授業設計) (1)
5	授業の構成 (年間の授業計画の中での位置付けと 1 時間ごとの授業設計) (2)
6	Listening、Speaking、Reading、Writing の 4 技能の実際的指導(1)
7	Listening、Speaking、Reading、Writing の 4 技能の実際的指導(2)
8	Listening、Speaking、Reading、Writing の 4 技能の実際的指導(3)
9	文法・語彙の指導(1)
10	文法・語彙の指導(2)
11	教材研究 (中学校英語教科書と副教材の分析) (1)
12	教材研究 (中学校英語教科書と副教材の分析) (2)
13	模擬授業 (学生同士の授業分析と評価) (1)
14	模擬授業 (学生同士の授業分析と評価) (2)
15	まとめ

評価

(1) 平常点（スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等）80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

授業外学習

【事前準備】これまで学んできた指導法をふまえ、模擬授業の指導案を検討する。（担当時に120分）

【事後学修】次回の模擬授業に向け、様々な指導法を含めた改善策の検討を行う。（担当時に30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 （東京書籍）

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	松岡 敬明、向後 朋美		
ナンバリング	KBa442		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1.2 に該当します。

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」の「各教科の指導法」当たります。英語教科教育法、
、と同様、必修科目であり、この単位が取れないと教育実習に出ることはできません。また、本科目は、英語科教育法 の単位を取得しないと履修できません。

科目の概要

「英語教科教育法 」（2年前期・後期）及び「英語教科教育法 」（3年前期）で習得した英語教育の理論と方法についての知識を、実際に授業を行うための具体的な技術・方法に直接結び付け、自分なりの教授法が確立できるようにします。

学修目標 (= 到達目標)

(i) 授業で学んださまざまな教授法を実際の模擬授業で試してみる、(ii) 模擬授業を通して自分なりの教授法を確立する。

内容

模擬授業を中心に、グループディスカッション等を通じて、実践的指導技術を身に付ける。

(1) 教育実習校での使用予定の教材研究を行った上で、指導案を作成し、それに基づいて30分の模擬授業を行う。教師役の学生と生徒役の学生がそれぞれ模擬授業の後で、協議する。

(2) 前期に引き続き、教える立場に立った英文法について総点検を行う。

(3) 教科書に使用されている世界の文化的背景についての知識も深める。

評価

(1) 平常点 (スピーチ、書き取り、暗唱、模擬授業、模擬授業評価レポート等) 80%

(2) 授業参加度 20%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 模擬授業評価レポートのシェアリングを行う。

授業外学習

【事前準備】 教育実習を前提に、これまで学んできた指導法をふまえ、具体的な指導案を検討する。(担当時に180分)

【事後学修】 次回の模擬授業に向け、改善策の検討を行うとともに、自身の英語運用能力の向上に努める。(各授業に対して30分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】杉本義美・中学校英語授業指導 指導と評価の実際・大修館書店

New Horizon English Course 1・2・3 (東京書籍)

文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年7月版)

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	生徒指導・進路指導 A		
担当教員名	狩野 浩二、飯塚 睦		
ナンバリング	KBa343		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

生徒指導は、学習指導と両輪となり、学校教育を推進する中核となるものである。しかしながら、生徒指導の本質や理念を十分に理解することは難しい。生徒指導について、正しく理解し指導できるよう、下記の学修目標に関わる事項について事例や課題を通して、具体的な学びを進める。また、進路指導に関しても、主体的・対話的な深い学びとなるように、学生自らの小中学校における体験や課題意識を相互に意見交換し、児童生徒の望ましい生き方・在り方に係る指導を可能とする。

学修目標

- ・生徒指導の意義や目的、内容、方法について理解を深めつつ、望ましい教育観を構築する。
- ・生徒指導上の諸問題について、アクティブラーニング等、学習形態を工夫し、問題解決を具体的に考察する。
- ・小学校における進路指導・キャリア教育について考察する。

内容

授業では、生徒指導上の事例や課題について、自ら追究する場やグループで追究する場を設ける。また、その結果を発表することを通して、主体的で対話的な学習とする。小学校における指導を意識した具体的な指導力について、互いに高め合える授業をめざす。

1	第1回：生徒指導の理論と歴史、意義と目的	(狩野)
2	第2回：生徒指導の領域・内容と課題	(狩野)
3	第3回：生徒指導と教育課程との関連	(狩野)
4	第4回：生徒指導クイズ	(飯塚)
5	第5回：生徒指導上の問題発生時の指導（個別指導）	(飯塚)
6	第6回：生徒指導上の問題発生時の指導（集団指導）	(飯塚)
7	第7回：健全な成長を促す指導	(飯塚)
8	第8回：「生徒指導は児童理解に始まり、児童理解に終わる」	(飯塚)
9	第9回：生徒指導を活かした、より良い授業とは	(飯塚)
10	第10回：教師による「懲戒」と「体罰」	(飯塚)
11	第11回：いじめ問題の指導	(飯塚)
12	第12回：進路指導の理論と歴史、目的と内容	(狩野)
13	第13回：進路指導とキャリア教育	(飯塚)
14	第14回：小学校段階のキャリア教育	(飯塚)
15	第15回：生徒指導と進路指導に共通する内容のまとめ。	(飯塚・狩野)

評価

小テスト30%、アクティブラーニングの参加態度30%、提出物(質問紙)10%、筆記試験30%で評価する。総合評価60点以上を合格とする。小テスト、筆記試験は評価して翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】教科書の該当ページに目を通し、毎時の課題に取り組む。(各授業に対して60分)

【事後学修】本時の学習内容を復習し、課題をまとめる。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】生徒指導提要・文部科学省・教育図書株式会社

科目名	生徒指導・進路指導 B		
担当教員名	飯塚 睦		
ナンバリング	KBa344		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教職免許法に定められた「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」として開講する。教員として不可欠な生徒理解、問題行動等の未然防止、キャリア教育の推進、組織的な生徒指導の在り方等について学修するとともに、自分自身の生き方を考える。

科目の概要

中高の教員に必要な、生徒指導及び進路指導・キャリア教育を円滑に進めていくために必要な知識・技能、指導力を身につける。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 教育課程における生徒指導の位置付けや生徒指導の重要性、集団指導・個別指導の方法、生徒指導体制の基礎的な考え方を理解する。
- 2) 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解し、中学校における具体的な進路指導を理解する。
- 3) 事例研究を通して、指導力を身に付ける。

内容

主体的・対話的で深い学びを通して、生徒指導、進路指導の知識を深め、実践力を養う。

1	ガイダンス、学生の生徒指導上の体験を振り返る
2	学習指導と生徒指導は両輪について
3	生徒指導でつきたい力とは
4	生徒指導上の問題をいかに解決するか 事例 1
5	生徒指導上の問題をいかに解決するか 事例 2
6	再発防止のための指導とは
7	健全な成長を促すための指導とは
8	児童生徒理解とは
9	学校のあらゆる場面での指導とは
10	生徒指導を活かしたより良い授業とは
11	給食の時間における生徒指導とは
12	教師による「懲戒」と「体罰」とは
13	いじめ問題について 事例 3
14	進路指導・キャリア教育とは
15	中学校における進路指導の進め方

評価

アクティブ・ラーニングの参加態度（40点）、質問紙の提出（10点）、筆記試験（50点）を総合評価する。試験は評価し、翌週以降の授業で返却する。

授業外学習

【事前準備】次回の授業範囲の教科書を読み、試験問題を作成してくる。

【事後学修】毎回の授業の課題を完成して提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『生徒指導提要』,文部科学省,教育図書

科目名	幼児理解の理論と方法		
担当教員名	林 恵津子		
ナンバリング	KBa145		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学科の学位授与方針、2、3に該当する。

幼児期の教育は、幼児理解から始まる。本科目は、幼児教育に関する他の科目を履修する際の基盤となる幼児理解の考え方や具体的な方法について理解し、保育実践と結びつけて考える力を身に付けることを目的としている。

科目の概要

「一人一人の幼児を理解すること」の意義や重要性について、理論から学ぶ。また、幼児の行動記録やビデオ記録等の読み取りや協議を通して、幼児の発達や個と集団の関係について、家庭との連携を含めて考え、幼児を理解する方法について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 幼児の遊びや生活の実態に即した幼児理解の意義を理解する。
- ・ 幼児理解から発達や学びを捉える方法について理解する。
- ・ 個と集団の関係を捉える意義及び方法を理解する。
- ・ 幼児のつまずきや保護者への対応に関する基本的な考え方や方法について知る。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、デスカッションを取り入れながら学びを深めていく。グループワークでは課題シートを配付する。グループワークでの内容を文字にすることで、理解を確実にする。

1	幼児理解の意義と重要性 (幼児理解の出発点としての幼児理解)
2	幼児の発達に関する課題、幼児理解のための教師の姿勢
3	一人一人の幼児の理解 (3 歳児の発達や学びの過程)
4	一人一人の幼児の理解 (4 歳児の発達や学びの過程)
5	一人一人の幼児の理解 (5 歳児の発達や学びの過程)
6	幼児理解の方法と記録をとることの意義・留意点
7	「自分」の世界と「友達」の世界の広がり
8	個の育ちと集団の育ちの関係
9	幼児の発達を捉える視点と様々な記録の方法
10	演習；記録の工夫と実際 (保育場面の観察・記録)
11	演習；記録の工夫と実際 (保育場面の観察・記録と分析・考察)
12	発表と協議；記録の読み取りから深める幼児理解と評価
13	幼児理解の積み重ねと評価、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の視点
14	演習；保護者の子育てに関する多様な状況とカウンセリングマインド
15	まとめ 幼児教育の今後の展望

評価

授業への取り組み30%、課題提出40%とし、総合評価60点以上を合格とする。提出された課題は、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容部分(指定箇所)の講読、課題の発見(1時間)

【事後学修】講義・協議から学んだ内容整理、課題に関するレポート作成、提出(1時間)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」 ぎょうせい

【推薦書】青木久子他 「子ども理解とカウンセリングマインド」 萌文書林

科目名	教育相談 A		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング	KBa347		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

本科目は、児童教育学科の学位授与方針 1. 3 に該当する。

近年、学校現場では、不登校やいじめ、校内暴力といった問題に加えて、発達障害や小児うつ、心身症など心理学的課題も増加している。それらに適切に対処するためには、教育相談に係る基本的知見の獲得が求められる。そこで、本科目は教職基礎・教科教育学分野の 1 科目として「生徒指導・進路指導」等と関連させながら児童生徒への教育相談活動について学ぶ。

【科目の概要】

教育相談の理論や技法に関する基礎的知識について、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学ぶ。また、児童生徒から相談を受けた際に身につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。

【学修目標】

学校教育における教育相談の重要性を認識する。

児童生徒を指導するために身につけておくべきカウンセリング理論や技法などの基礎知識を習得する。

個々の児童生徒の状況を把握し評価するための基礎知識を習得する。

地域・社会・家庭との連携について学ぶ。

内容

この授業は、講義を基本に、適宜グループワークを取り入れながら学びを深めていく。

1	教育相談の歴史と今日的課題
2	学校教育における「教育相談」の位置づけ・役割
3	相談援助における児童の理解
4	幼児期・児童期の人格形成と適応
5	教育相談・援助の基本：カウンセリング理論
6	教育相談・援助の基本：カウンセリング技法
7	児童の行動の理解と対応 不登校
8	児童の行動の理解と対応 いじめ
9	児童の行動の理解と対応 児童虐待
10	児童の行動の理解と対応 発達障害
11	児童の行動の理解と対応 気分障害及び心身症
12	教育相談の実際(事例から学ぶ) 校内連携
13	教育相談の実際(事例から学ぶ) 家庭・地域との連携
14	教育相談の実際(事例から学ぶ) 事件事故・災害時の緊急対応
15	まとめ

評価

平常点の評価30%、試験70%により評価をおこない、総合評価60点以上を合格とする。なお、合格点に満たなかった場合は、再試験をおこなう。

提出されたレポート等は、翌週以降の授業内にフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】予告した次回の講義内容について、関連図書などで事前学習をする（各授業に対して60分）

【事後学修】学習した知識の定着をおこない、実際場面での活用方法についてまとめる（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない

【推薦書】会沢信彦・安西順子 『教師のたまごのための教育相談』北樹出版 2017

吉田圭吾著 『教師のための教育相談の技術』金子書房 2007

【参考図書】講義の中で必要に応じて適宜紹介する

科目名	教育相談 B		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング	KBa346		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童教育学科学位授与方針 3 に該当する。

科目の性格

学級担任としての教育相談的対応のためには、他の教師やスクールカウンセラーとの連携による組織的な指導援助を欠かすことができない。学生自身が主体的に学び、相互に意見交流をする体験を通して、教師として大切な協働の精神や人間関係形成力を身につける。

科目の概要

学校現場では不登校・いじめ・校内暴力・非行・虐待・貧困・学級崩壊などさまざまな問題が生じている。学校に通う児童生徒に発達障害・引きこもり・摂食障害など発達と教育に関わる心理学的課題を数多く抱えているものがある。本講義では教育相談に必要な基本的知見の獲得、教育相談の理解を狙いとする。具体的には、教育相談に関係する相談援助技術に関する諸理論、問題理解のための基礎知識や理解の仕方、実際の困難例、外部機関との連携方法などについて実践的要素を組み入れた講義を行う。

学修目標 (= 到達目標)

校教育における教育相談の重要性を認識し、学校現場において児童生徒を指導するために身に付けておくべきカウンセリングに関する理論と技法等の基礎知識を習得すること、また個々の児童の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や地域・社会・家庭との連携についても学び習得することを目標とする。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンを取り入れながら学びを深めていく。

1	教育相談とは何か。今日的課題について。
2	学校教育における「教育相談」の位置づけと役割
3	相談援助における児童生徒の理解
4	児童期的人格形成と適応
5	思春期・青年期的人格形成と適応
6	教育相談・援助の基本 カウンセリング理論
7	教育相談・援助の基本 カウンセリング技法
8	児童生徒の行動の理解と対応：不登校
9	児童生徒の行動の理解と対応：いじめ
10	児童生徒の行動の理解と対応：発達障害
11	児童生徒の行動の理解と対応：非行
12	教育相談の実際 (事例から学ぶ) : 校内連携
13	教育相談の実際 (事例から学ぶ) : 家庭・地域との連携
14	教育相談の実際 (事例から学ぶ) : 事件・事故・災害時の緊急対応
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のレポート10%、プレゼン20% 試験60%により評価を行い、60点以上を合格とする。
【フィードバック】毎授業で前回授業の内容について質疑への返答、教員採用試験問題の検討を行う。レポートについてはコメントを記載し返却する。試験については試験後に解答し、質疑応答時間を設ける。

授業外学習

【事前準備】最近の児童生徒を取り巻く問題について新聞、ネット（出所を明確にする）等で調べ、資料を作成しておく。各自がテーマを選択し、プレゼンを行う。（各授業に対して45分、プレゼン制作に180分）【事後学修】授業で取り上げたテーマについてホームページ、新聞、図書で各自内容の理解を深め、採用試験問題を検討する。（各授業に対して45分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特になし

【推薦書】

森田健宏・吉田佐治子 編著 教育相談 ミネルヴァ書房

漆澤恭子 編著 クラスと授業のユニバーサルデザイン 明治図書

学校心理士資格認定委員会 編 学校心理学ガイドブック 風間書房

科目名	教育実習事前事後指導		
担当教員名	富山 哲也、狩野 浩二、三藤 あさみ、片居木 英人 他		
ナンバリング	KBb348		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1, 2, 3, 4 に該当する。

この授業は教職員免許法で定める小学校の教育実習に係わる事前事後の指導を行うことをねらいとしている。

科目の概要

教育実習の目的、進め方、教育実習へ臨む心構えをはじめ、学習指導案の作成の方法、実際の授業の進め方等について講義・演習を行う。また、教育実習後の学修について協議する。

学修目標（=到達目標）

1. 教員にかかわる法規について理解する。
2. 教育実習の意義と心構えについて学び、実践に備える。
3. 学習指導案の作成や授業を想定した指導の在り方について学び、実践に備える。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッション等を取り入れながら学びを深めていく。

前期	介護等体験に関する説明と計画 1・2・3 【教職支援課、片居木、高岩】 学校インターンシップの計画づくり 【富山】 自身の資質・能力の把握（PROGを参考に） 【就職支援課】 ガイダンス～教育実習の意義と心構え 【狩野】 教育実習での授業づくり（国語科） 【富山】 教育実習での授業づくり（算数科 1・2） 【日出間】 幼稚園実習に関する説明と計画 1・2 【綾井】 学校インターンシップの進捗確認（合同） 【久保田、富山】 教育実習での授業づくり（社会科 1・2） 【三藤】 幼稚園実習に関する説明と計画 3 【綾井、近藤】
後期	ガイダンス～4年生の経験から学ぶ～ 【日出間、三藤】 教育実習での授業づくり（道徳科 1・2） 【綾井】 教育公務員の服務について 【三藤】 教育公務員の研修について 【三藤】 幼稚園実習に関する省察 【綾井】 実習中の心得（先生方、学級への関わり方） 【三藤】 「教育実習日誌」の作成 【綾井】 実習での授業の実際（観察 参加 実習） 【富山】

学習指導と評価 【富山】

学校インターンシップのまとめと引継ぎ 【富山】

演習（信頼される教員になるために） 【日出間】

支援を必要とする子への対応 1・2 【高岩、齋藤】

まとめと振り返り 【日出間】

評価

毎回の提出物（30%）、試験（40%）、学習態度・積極性・発言等（30%）によって総合的に評価する。

総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

授業外学習

【事前準備】シラバス及び事前予告に即して、事前の学修が必要（各授業に対して45分）。

【事後学修】配布されたプリントや講義の内容をまとめて整理しておく（各授業に対して45分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指示

【推薦書】授業内で指示

【参考図書】授業内で指示

科目名	教育実習		
担当教員名	山本 悟、日出間 均、星野 敦子、綾井 桜子 他		
ナンバリング	KBb449		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 , 3 , 4 に該当する。

本科目は、小学校の教員免許を取得するための必修科目である。

4週間の小学校現場での実習を行う。

科目の概要

4年次の5~6月ごろに、小学校 (特に、新座市、朝霞市、和光市、志木市を中心とする埼玉県および清瀬市、東久留米市を中心とする東京都などの地域) での実習を行う。その際、学生という立場ではあるが、教員の一人としての自覚を持ち、小学生の前に立つことになる。指導教員の授業参観だけでなく、学級担任として清掃、給食のような生徒指導や学習補助、および実際の授業も体験する。学校長はじめ指導教員からの講話を直接聞いたり、学習指導案を作成したりするなど、教育現場でしかできない学びをする。

学修目標 (= 到達目標)

小学校の教員としての自覚を持ち、各教科等における実践的な指導力や学級経営に関する知識・技能を身に付ける。

4週間という長期の実習期間を健康に行うことができる。

内容

配属校によって違いがあるが、概ね次のような流れになる。

第1週では学校現場の様子に慣れる。特に、校長より教務など学校組織における様々な役割に関する講話を受け学びを深めるとともに、配属学級の児童を知り、授業を参観する。

第2週以降は配属された学級担任の補助として、積極的に学級指導に関わる。授業の担当などが示され、準備を進めることになる。

第3週も同様な活動を進め、実際に学習指導案を書き授業を体験する。

第4週では研究授業に向けて準備をし、実際に研究授業を行う。

評価

出勤状況、教師としての実務能力、教材研究を含めた授業実践に関する能力、児童に対する態度などについて、小学校現場で指導に当たった実習校の評価及び実習日誌等の評価を加えて総合的に判断する。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】担当する授業の準備 (実習中 一日2時間以上)

【事後学修】一日の振り返りと実習日誌の整理、授業後のプリント・小テスト等の評価、 (実習中 一日2時間以上)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】【参考図書】必要に応じて指示する。

科目名	幼稚園教育実習（事前事後指導含む）		
担当教員名	綾井 桜子、山本 悟、齋藤 忍、松岡 敬明 他		
ナンバリング	KBb450		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

児童教育学科の学位授与方針 1、4 に該当する。

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、小学校教育実習をあわせて受講する者が履修対象である。

科目の概要

幼稚園教育の基本、幼児の発達特性、教育実習を行う際の心構え等について学び、他の幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする。

学修目標（＝到達目標）

- ・ 幼稚園教育の具体的な指導内容・方法について理解する。
- ・ 幼稚園教諭として必要な保育観、知識・技能などを学び、指導力を身に付ける。
- ・ 幼稚園教育と小学校教育の接続について理解する。

内容

この授業は、（１）事前指導ならびに（３）事後指導にて、グループディスカッションを取り入れ、（２）の総合実習の学びを深めてゆく。

（１）事前指導

幼稚園教育の基本となる考え方について学び、課題意識をもって実習に臨めるよう、幼稚園教育の実際について具体的なイメージを広げる。

実習の目的・目標、内容等にかかわるオリエンテーション

幼児の発達特性理解、観察・記録の方法と実際

幼稚園の教育課程・指導計画の考え方、指導案の作成

保育内容（指導）と評価、日誌の書き方

実習園におけるオリエンテーション（園長、実習担当の教職員等による）

（２）総合実習

小学校教諭一種免許状を取得することを前提条件としているので、実習期間は１週間である。

参加観察実習と責任実習を含む総合実習を連続して行う。

- ・ 実習日誌を毎日書き、実習園の担当教諭等から指導を受ける。
- ・ 幼児集団を指導する責任実習（部分・１回）を行う。
- ・ 実習に当たっては、学級や幼児の実態に即した指導案を作成し、実習園の担当教諭等から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とする。

(3) 事後指導

学内での実習報告や実習日誌を手がかりとして、幼稚園教育に関する理解を深める。

幼稚園教育の独自性

幼稚園における学びの評価

保育における教師の役割

評価

事前事後指導中の取り組み態度及び実習日誌等の提出物を50%、教育実習の勤務状況、実習の取り組み姿勢及び実習園の成績評価等を50%とし、総合的に評価し、60点以上を合格とする。【フィードバック】授業におけるプレゼンテーション、および提出物についてコメントを加えるほか、質問に答える。

授業外学習

【事前予習】実習先の教育方針、特性の理解。提示する課題に関する事前調査、情報検索、発表準備（1時間）

【事後学修】学修のまとめとして提示する課題に関するレポートの作成（1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省『新幼稚園教育要領』（平成29年告示）フレーベル館

【推薦書】幼少年教育研究所編 「新版 遊びの指導」 同文書院

全国幼児教育研究協会編 「4歳児の遊びアイデア集」 チャイルド

【参考図書】授業の中で、適宜紹介する。

科目名	特別支援学校教育実習(事前事後指導含む)		
担当教員名	中西 郁、齋藤 忍		
ナンバリング	KBb451		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	3
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1,2,3,4に該当する。本科目は、学位授与方針の 教員の在り方、 実践的な指導力、 学級経営に関する知識・技能、 教員として最小限必要とする資質や能力を身に付けることを目的としている。また、特別支援学校教諭一種免許状取得のための必修科目であり、教育実習をはじめ、教育実習の係わる事前事後の指導を行う。

科目の概要

教育実習の目的、進め方、教育実習に臨む心構えをはじめ、教材作成の工夫を学ぶとともに、学習指導案の作成の方法、実際の授業の進め方等について講義・演習を行う。そのうえで、特別支援学校で実習を行い、特別支援学校の指導の実際や学校運営の実際を体験する。また、教育実習後には、教育実習で学修したことを学生間で共有し、卒業後の教職等に活かせるようにする。

学修目標(= 到達目標)

1. 特別支援学校の教育の実際について理解する。
2. 教育実習の意義と心構えについて学び、実践できる。
3. 障害のある児童等の指導方法について学ぶとともに、学習指導案を作成できる。
4. 特別支援学校の学校運営について体験し、学校運営の在り方を理解する。

内容

本授業は講義を基本に、グループディスカッション、課題のプレゼン、演習を取り入れながら学びを深めていく。

1 事前指導(8時限相当の時間を配当する)

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における服務、勤務の心得
- (3) 実習記録の作成方法
- (4) 特別支援学校の授業構成
- (5) 特別支援学校の学習指導案の作成

2 中間指導(4時限相当の時間を配当する)

- (1) 実習校の児童の障害特性
- (2) 実習校の児童の支援方法、指導の基本的な考え方
- (3) 実習校の児童の障害特性に応じた教材教具の作成の工夫
- (4) 実習校の児童の障害特性に応じた学習指導案の作成

3 事後指導(3時限相当の時間を配当する)

- (1) 教育実習の総括的な反省
- (2) 実習での学修を卒業後の進路先での活用についての検討

評価

毎回の課題等の提出物（30％）、教育実習の取組みの様子（40％）、学習態度・積極性・発言等（30％）によって総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題、レポート等は、次回の授業内で活用・評価していく。

授業外学習

【事前準備】

特別支援学校学習指導要領の「第2章各教科」の内容を熟読しておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】

授業担当教員に作成した学習指導案を提出し、添削を受けること。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月、文部科学省

【推薦書】特別支援教育の基礎 大学図書出版

【参考図書】授業内で必要な書籍等を紹介する。

科目名	教育実習		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBb352		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

「教職に関する科目」の必修科目で、英語科教育法 ~ 及び教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえる。

科目の概要

実際に教育実習を行うにあたって、具体的に事前・中間・事後指導を行う。

学修目標（=到達目標）

参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指す者としての責任を自覚させ、実際の授業実践能力の向上を図ることをねらいとする。

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

評価

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。評価は、模擬授業40点、教材研究20点、レポート20点、実習20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートのシェアリングを行う。

授業外学習

【事前準備】模擬授業の教材研究・指導案作成・教材作成等（2時間以上）

【事後学修】模擬授業の指導を受け、指導案等の修正を行う。（2時間以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月版）

【推薦書】【参考図書】授業において紹介する。

科目名	教育実習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBb352		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「児童教育学科の学位授与方針1,2,3,4に該当する。

本科目は、「教職に関する科目」の必修科目で、英語科教科教育法I～IVや教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえる。

科目の概要

実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。

学修目標（＝到達目標）

本授業での指導を通して参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚し、実際の授業運営能力を向上させる。

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成・単語と本文発音確認
- (5) 実習校訪問

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

評価

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。評価は、模擬授業40点、教材研究20点、レポート20点、実習20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された指導案・教材はコメントを記載し、次回授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】授業箇所の指導案・教材を作成する・単語と本文の音声を聞き、発音練習をする（最低2時間）

【事後学修】指導案・教材・模擬授業に対する教員のコメントを受け、指導案・教材を修正する（最低30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習校で使用する教科用図書

科目名	教育実習		
担当教員名			
ナンバリング	KBb453		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1.2.3 に該当する。

教科関連科目・英語科教科教育法 I ~ IV・教育実習 で修得してきたことをふまえる。

教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「英語科」の前期実習 (必修)、高等学校一種「英語科」 (3 週間以上の実習期間の者を対象とする) 前期実習 (選択) である。

科目の概要

学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標 (= 到達目標)

これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する知識・理論を活用してし、教員を目指す者としての実践的指導力を身につける。

内容

協力校における 3 週間以上の参観実習および教壇実習からなる授業担当による教育実習を行い、専門教科の教授法に加えて、特別活動等を通じて学級経営の在り方についても、実践的に学ぶ。

評価

実習校からの評価資料 80 点、及び「教育実習日誌」等の資料を 20 点とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

【フィードバック】教育実習日誌の記載事項について、振り返りを行う。

授業外学習

【事前準備】担当する授業の準備 (2 時間以上)

【事後学修】実習日誌の整理、授業後のプリント、小テスト、持ち越した質問の回答の準備 (2 時間以上)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】実習校が採用している教科用図書、その他実習校の指示に従う。

科目名	教育実習		
担当教員名	松岡 敬明、向後 朋美		
ナンバリング	KBb454		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

教科関連科目・英語科教科教育法I～IV・教育実習 で修得してきたことをふまえる。

教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「英語科」の実習（必修）、高等学校一種「英語科」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）実習（必修）である。

科目の概要

学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標（=到達目標）

これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する知識・理論を活用してし、教員を目指す者としての実践的指導力を身につける。

内容

協力校における2週間の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料80点、及び「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】教育実習日誌の記載事項について、振り返りを行う。

授業外学習

【事前準備】担当する授業の準備（2時間以上）

【事後学修】実習日誌の整理、授業後のプリント、小テスト、持ち越した質問の回答の準備（2時間以上）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習校が採用している教科用図書、その他実習校の指示に従う。

科目名	教職実践演習（幼・小・中・高）		
担当教員名	山本 悟、松岡 敬明、綾井 桜子、狩野 浩二 他		
ナンバリング	KBb555		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語） / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 . 4 に該当する。

本科目は児童教育学科教育課程編成方針の教職実践分野に位置づけ、4年生の後期に設定された教職員免許法に定められた必修科目である。教職課程で履修したその他の授業科目や学校ボランティア等の様々な活動を通して身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて省察する。教員になる上で何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて知識や技能等を補い、教職生活をより円滑にスタートできるようにする科目である。

科目の概要

学校教育の具体的な課題や教育の最新事情と学校が抱える課題を取り上げ、集団討議法や事例研究等を活用しながら授業を展開し、教師としての考え方及び自己のあり方を振り返る活動に取り組む。

学修目標（＝到達目標）

- ・教職の意義や教員の役割、職務内容、子供に対する責務等を理解し、遂行できるようになる。
- ・教員組織における役割分担や教職員が協力して校務運営に携わる方法を理解し、自己発揮する資質を高める。
- ・個々の子供の特性や状況を把握し、学級集団を維持し機能を発揮する手立てを身につける。
- ・教員としての表現力や授業力、子どもの反応を活かした授業づくり等、指導方法の資質を高める。

内容

教職実践演習は、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる。よって、授業は、講義・演習を通じて、理論と実践を有機的に統合できるようワークショップ形式等の実践的な形式で展開する（外部講師の専門的指導も含める）。そして、教職生活をより円滑にスタートできるように、教職に対する使命感や責任感、教育的愛情等や、対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営、教科・保育内容等の指導力に関する事項について、自己省察し、必要な資質・能力をさらに高めていく。

1	(1) 教職実践演習のねらいと内容の理解 (2) 教育実習での学びと省察	：山本、狩野、久保田
2	新学習指導要領とこれからの学校教育について	：松岡、塚田
3	新しい授業づくり（アクティブ・ラーニング、プログラミング教育）	：富山、星野
4	授業研究、教材研究、指導法特講（受講者の模擬授業と振り返り）	：富山、久保田
5	授業研究、教材研究、指導法特講（新しい指導法と授業づくりを学ぶ）	：学外講師、山本
6	教員としてのキャリア教育	：狩野、綾井
7	保健安全指導について（アレルギー問題、アライキショック）	：山本、保健管理センターに講師依頼
8	学校行事と安全指導について（災害、不審者対応、他）	：日出間、塚田
9	学級経営、生徒指導、保護者対応（地域社会を含む）について	：塚田、日出間
10	教師に求められる資質・能力と教職の再考	：外部講師、狩野
11	教育の最新事情と学校の実情（総合的学習の時間、特別活動を中心に）	：星野、三藤
12	教育の最新事情と学校の実情（特別支援教育及び幼小連携を中心に）	：中西、高岩、齋藤忍
13	教育の最新事情と学校の実情（道徳及び英語教育を中心に）	：綾井、松岡

14	学習指導の評価と評定および授業改善の方策に向けて : 狩野、富山
15	まとめ「子供観や教育観について、授業を振り返り論述する」 : 山本、日出間

評価

授業への参加度：20点、毎回のリアクションペーパー：20点、小学校公開研究会参加レポート：30点、授業のまとめレポート：30点として、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】前時に事前課題を提示する。課題に関連したテキストの講読と資料収集を進めて理解する(60分)。【事後学修】毎回の講義記録をノート等に整理する(60分)。課題に指定した小レポートを作成する(1時間)。大学周辺の小学校で開催される公開研究会に参加し、レポートを作成する(2時間)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校学習指導要領(29年度版) 東洋館出版社

【参考図書】各回で参考となる資料の配布及び参考図書を提示する。

科目名	国語		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBc256		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1, 2, 4 に該当する。小学校教諭一種, 幼稚園教諭一種免許を取得するための必修科目である。国際化・情報化の進展を踏まえ、理解と表現の基礎となる国語の働きと我が国の言語文化について学ぶ。

科目の概要

内容は、小学校学習指導要領国語の〔知識及び技能〕「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の枠組みを基本としながら、国語科の背景となる日本語学、日本文学、中国文学の基礎的知識の習得を目指す。日常生活・社会生活における具体的な表現活動を通して内容の理解を深めることをねらいとする。

学修目標（＝到達目標）

1. 国語に関心をもち、自らの考えを積極的に表現しようとする。
2. 表現活動に取り組む中で、国語について考え認識を深める。
3. 国語に関する基礎的な知識を実践を通して身に付ける。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	ガイダンス～言葉の特徴やきまりについて考える～
2	文字とその指導（平仮名, 片仮名, ローマ字）, 学習指導要領の見方
3	文字とその指導（漢字）
4	語句, 語彙とその指導
5	ことわざ, 慣用句, 故事成語とその指導
6	文字による表現の実際～新聞を作る～
7	文字による表現の実際～新聞を作る～
8	言葉遣い（敬語）とその指導
9	伝統的な言語文化とその指導～日本の古典, 漢詩・漢文, 故事成語～
10	音読, 朗読, 暗唱に関する指導～古典の暗唱～
11	書写の指導～平仮名の基本～
12	言葉のきまりとその指導～主語・述語, 修飾語・被修飾語～
13	本, 読書に関する基礎知識と指導～持参した本を紹介する～
14	絵本の基礎知識～絵本の価値と読み聞かせ～
15	まとめ～言葉の特徴や使い方, 我が国の言語文化（〔知識及び技能〕）の内容を振り返る～

評価

毎回の小レポート75%, 最終的な論述レポート25%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回、小レポートの作成とともに質疑を受け付け、次回授業の冒頭で回答する。

授業外学習

【事前準備】シラバス及び次回の予告に即して、内容について関心をもち必要に応じて調査しておく（各授業に対して45分）。

【事後学修】返却した小レポートを中心にした復習や、発展的な学修を求める（各授業に対して45分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』

【推薦書】講義の中で紹介する。

【参考図書】講義の中で紹介する。

科目名	算数		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBc257		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1、2、4 に該当する。専門科目のうち、教科に関する科目「算数」（必修科目）であり、2 年次の「初等算数教育」を履修する上での基礎的な内容を学ぶ。幼児期から形成される数学的な概念を小学校算数科の内容と関連づける。

科目の概要

小学校学習指導要領算数編に示されている「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の内容について理解し、具体的な授業づくりの仕方について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

- 算数に関心をもち、算数科の学びの基本について理解する。
- 算数科の指導内容や指導方法について、領域毎に考察していく。
- 算数に関する基礎的な知識について、実践を通して身に付ける。

内容	
1	ガイダンス。～算数を学ぶ価値について考える～
2	算数科の小学校学習指導要領の見方
3	「数と計算」領域における教材と授業づくり（下学年）
4	「数と計算」領域における教材と授業づくり（上学年）
5	「図形」数と計算」領域における教材と授業づくり
6	「測定」領域における教材と授業づくり
7	「変化と関係」領域における教材と授業づくり
8	「データの活用」領域における教材と授業づくり
9	算数科における主体的な学びとは？
10	算数科における対話的な学びとは？
11	算数科における深い学びとは？
12	数学的活動を通した算数の学び（低学年）
13	数学的活動を通した算数の学び（中学年）
14	数学的活動を通した算数の学び（高学年）
15	振り返りとまとめ～算数科の本質を探る～

評価

小レポート（平常点）、授業への参加態度（取り組み）（60%）、試験（40%）で評価し、総合評価60点以上を合格

とする。

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

授業外学習

【事前準備】文部科学省の小学校学習指導要領解説（算数編）の各内容について、事前に予習し、自分なりに内容を整理しまとめておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業については、復習することを必須とし、授業でふれた問題について、振り返り、自力解決できるようにしておく。（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（日本文教出版）

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3年実践編（明治図書）

【参考図書】なし

科目名	音楽		
担当教員名	久保田 葉子、清水 玲子、棚谷 祐一		
ナンバリング	KBc258		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。

音楽の役割を考えながら、日本の音楽と世界の音楽について学ぶ。また小学校教科書に掲載されている音楽など様々な音楽に触れ、この芸術が人間にとってどのように影響を与えるかなどを考察する。

科目の概要

児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解した上で音楽を楽しみ、日本・世界の音楽、またピアノ音楽も取り上げ講義を行う。実際に歌う・鑑賞をするなどを通して、情操教育の大切さを確認する。また音楽の基礎知識も学ぶ。

学修目標

いろいろな音楽を学ぶことにより、芸術としての音楽のとらえ方、日常生活に上手にとり入れていく方法、音楽と心の関係、現代社会におけるストレス解消など、生涯学習としての音楽の役割も考察することを目標とする。

内容

毎回のテーマに加えて、音楽の基礎知識・楽典などの講義も行う。

この授業は講義を基本に、グループディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス 自分を取りまく音楽について（清水）
2	音楽の役割について（清水）
3	日本の音楽の歴史 ～子どもの歌・文部省唱歌から見る～（清水）
4	日本の音楽の歴史 ～映像から見る～（清水）
5	日本の合唱曲について（清水）
6	世界の音楽について アジア・オセアニア・中東（棚谷）
7	世界の音楽について アフリカ・ヨーロッパ・アメリカ大陸（棚谷）
8	ポピュラー音楽の歴史（棚谷）
9	楽器について 管楽器・弦楽器・打楽器およびそれらのアンサンブル（棚谷）
10	楽器について 電気楽器・電子楽器その他（棚谷）
11	ピアノから見る音楽史 バロック・古典（久保田）
12	ピアノから見る音楽史 ロマン派・近代（久保田）
13	ピアノから見る音楽史 現代（久保田）
14	鑑賞について（久保田）
15	まとめ（久保田）

評価

毎回の課題60%、最終レポート30%、通常の授業への参加度10%とし、総合評価60点以上を合格とする。三分の二

以上の出席することで評価を受けることができる。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】次の授業で扱う音楽の視聴。授業で使用するパワーポイントデータを格納するので、各自予習し、質問内容を整理しておく。(各授業に対して45分)

【事後学修】授業の振り返りおよび配布資料の整理(各授業に対して45分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、図書・辞典・映像資料・音源などを使用し、授業で紹介する。

科目名	図画工作		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KBc259		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 . 4 に該当する。

児童の望ましい成長を願う時、表現及び鑑賞を通して学び育まれる資質・能力は極めて大きな役割を担います。身体性を通して“ものごと”に関わり、感じ、考え、表現することで、より豊かに生きる人間形成をめざす図画工作とはどのようなものでしょうか。

科目の概要

造形に関わる実技を中心とした活動を通して、図画工作の楽しさや喜びを味わうとともに、造形表現に関する知識・技能を習得します。

学修目標

様々な材料体験や表現・鑑賞を通して、指導者となるための幅広い造形的な知識・技能を習得し、造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、実践できる力を身につけることを目標とします。

内容

子どもの強い興味関心に支えられた図画工作科のあり方について、グループ活動を中心とした実践や情報機器の活用、考察を交えながら学びます。

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール 1
3	身近にある材料を使った表現：段ボール 2
4	身近にある材料を使った表現：新聞紙 1
5	身近にある材料を使った表現：新聞紙 2
6	様々な描画材料を使った表現：絵の具等
7	様々な描画材料を使った表現：クレヨン・パス等
8	様々な描画材料を使った表現：複合材
9	身近にある材料を使った表現：自然材
10	身近にある材料を使った表現：人工材
11	粘土を使った表現：土ねんど
12	粘土を使った表現：合成粘土
13	身近にある材料を使った表現：光・風・動き等 1
14	身近にある材料を使った表現：光・風・動き等 2
15	まとめ：図画工作について考える

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。上記を総合評価し60点以上を合格とします。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

授業外学習

【事前予習】必要に応じ、授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜紹介

科目名	図画工作		
担当教員名	名達 英詔		
ナンバリング	KBc259		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 . 4 に該当する。

児童の望ましい成長を願う時、表現及び鑑賞を通して学び育まれる資質・能力は極めて大きな役割を担います。身体性を通して“ものごと”に関わり、感じ、考え、表現することで、より豊かに生きる人間形成をめざす図画工作とはどのようなものでしょうか。

科目の概要

造形に関わる実技を中心とした活動を通して、図画工作の楽しさや喜びを味わうとともに、造形表現に関する知識・技能を習得します。

学修目標

様々な材料体験や表現・鑑賞を通して、指導者となるための幅広い造形的な知識・技能を習得し、造形を通して子どもたちが育つ環境について考え、実践できる力を身につけることを目標とします。

内容

子どもの強い興味関心に支えられた図画工作科のあり方について、グループ活動を中心とした実践や情報機器の活用、考察を交えながら学びます。

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール 1
3	身近にある材料を使った表現：段ボール 2
4	身近にある材料を使った表現：新聞紙 1
5	身近にある材料を使った表現：新聞紙 2
6	様々な描画材料を使った表現：絵の具等
7	様々な描画材料を使った表現：クレヨン・パス等
8	様々な描画材料を使った表現：複合材
9	身近にある材料を使った表現：自然材
10	身近にある材料を使った表現：人工材
11	粘土を使った表現：土ねんど
12	粘土を使った表現：合成粘土
13	身近にある材料を使った表現：光・風・動き等 1
14	身近にある材料を使った表現：光・風・動き等 2
15	まとめ：図画工作について考える

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、作成、提出された自分自身のポートフォリオ（60点）。活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）。上記を総合評価し60点以上を合格とします。

【フィードバック】授業の初めに前授業についての質疑を行い学習理解の深化を図ります。

授業外学習

【事前予習】必要に応じ、授業で使用する材料・用具・身支度・体調の準備。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用スケッチブックにまとめ理解を深める。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜紹介

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング	KBC260		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2．3に該当する。

本科目は児童教育学科教育課程編成方針の教育課程及び指導法に関する科目に位置づけ、2年生後期に設定された幼稚園教諭、小学校教諭免許状取得に関する選択必修科目の1つである。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎、および体育授業の運営と実践的指導力を学修させる。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する知識を深める。

科目の概要

運動を教材として扱うため、授業は実技を交えて展開し、小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。体育科の授業づくりに関する総まとめとして、受講学生が子ども役の仲間を指導する模擬授業も実施する。

学修目標

身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝えたり指導したりするための基本的な知識・技能・指導法を身につけることをねらいとする。

内容

2名の授業担当者が専門分野を生かしたオムニバス形式で授業を進める。

1	オリエンテーション、運動会種目の理解と実践	: 山本、佐藤
2	鉄棒運動（ダルマ回り）、陸上運動（ハードル走 : 跳び方のコツを探る）	: 山本
3	鉄棒運動（腕立て後転）、陸上運動（ハードル走 : チーム対抗の競走）	: 山本
4	陸上運動（リレー競走の工夫、ゴム高跳び）	: 山本
5	器械運動（マット運動：側転、跳び箱運動：開脚とび、台上前転）	: 山本
6	ネット型ボール運動（ソフトバレーボール：基本技能の練習、簡易ゲームの進め方）	: 佐藤
7	ネット型ボール運動（プレルボール：基本技能とゲームの進め方の理解）	: 佐藤
8	表現運動（リズムダンスとその工夫）	: 佐藤
9	表現運動（創作活動と発表会）	: 佐藤
10	模擬授業（器械運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価、指導案作成の復習）	: 山本
11	模擬授業（表現運動、なわとび運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	: 山本
12	模擬授業（前転ボール捕り、跳び箱運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	: 山本
13	ゴール型ボール運動（ボールを持たない動きの理解とその指導法）	: 佐藤
14	ゴール型ボール運動（ドリルゲームとタスクゲームの実践：バスケットを題材に）	: 佐藤
15	レクゲームとボール運動の融合（フリスビーを使ったボール運動、キンボール）	: 佐藤

評価

授業への参加度30%、授業ノート・配付資料整理30%、模擬授業の発表およびレポート40%として、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】シラバスに示した授業内容について、テキスト「小学校学習指導要領解説体育編」の関連ページを確認し、自分なりに内容をまとめておく。各授業に対して60分。発表活動の準備（90分）。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理と振り返りを行うとともに、授業時に紹介された体育授業に関する文献や資料についても各自で学びを深める。各授業に対して60分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成29年度版）

【推薦書】高橋健夫、他編著「すべての子どもが必ずできる 体育の基本」 学研教育みらい

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング	KBC260		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2．3に該当する。

本科目は児童教育学科教育課程編成方針の教育課程及び指導法に関する科目に位置づけ、2年生後期に設定された幼稚園教諭、小学校教諭免許状取得に関する選択必修科目の1つである。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎、および体育授業の運営と実践的指導力を学修させる。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する知識を深める。

科目の概要

運動を教材として扱うため、授業は実技を交えて展開し、小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。体育科の授業づくりに関する総まとめとして、受講学生が子ども役の仲間を指導する模擬授業も実施する。

学修目標

身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝えたり指導したりするための基本的な知識・技能・指導法を身につけることをねらいとする。

内容

2名の授業担当者が専門分野を生かしたオムニバス形式で授業を進める。

1	オリエンテーション、運動会種目の理解と実践	: 山本、佐藤
2	ネット型ボール運動（ソフトバレーボール：基本技能の練習、簡易ゲームの進め方）	: 佐藤
3	ネット型ボール運動（プレルボール：基本技能とゲームの進め方の理解）	: 佐藤
4	表現運動（リズムダンスとその工夫）	: 佐藤
5	表現運動（創作活動と発表会）	: 佐藤
6	鉄棒運動（ダルマ回り）、陸上運動（ハードル走 : 跳び方のコツを探る）	: 山本
7	鉄棒運動（腕立て後転）、陸上運動（ハードル走 : チーム対抗の競走）	: 山本
8	陸上運動（リレー競走の工夫、ゴム高跳び）	: 山本
9	器械運動（マット運動：側転、跳び箱運動：開脚とび、台上前転）	: 山本
10	ゴール型ボール運動（ボールを持たない動きの理解とその指導法）	: 佐藤
11	ゴール型ボール運動（ドリルゲームとタスクゲームの実践：バスケットを題材に）	: 佐藤
12	レクゲームとボール運動の融合（フリスビーを使ったボール運動、キンボール）	: 佐藤
13	模擬授業（器械運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価、指導案作成の復習）	: 山本
14	模擬授業（マット運動、なわとび運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	: 山本
15	模擬授業（前転ボール捕り、跳び箱運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	: 山本

評価

授業への参加度30%、授業ノート・配付資料整理30%、模擬授業の発表およびレポート40%として、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】シラバスに示した授業内容について、テキスト「小学校学習指導要領解説体育編」の関連ページを確認し、自分なりに内容をまとめておく。各授業に対して60分。発表活動の準備（90分）。

【事後学修】授業毎の内容をノートにまとめ、配付資料の整理と振り返りを行うとともに、授業時に紹介された体育授業に関する文献や資料についても各自で学びを深める。各授業に対して60分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成29年度版）

【推薦書】 高橋健夫、他編著 「すべての子どもが必ずできる 体育の基本」 学研教育みらい

科目名	社会		
担当教員名	三藤 あさみ		
ナンバリング	Kbc261		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2に該当する。「社会科」が学校教育の中で、担っている役割を認識し、社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。

科目の概要

社会科は、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」と3分野に分かれるが、各分野で扱う内容（学習の具体的な内容や学習活動）について事例を取り上げ、理解を深めさせると共に、身に付けるべき資質・能力・態度について考察する。

社会科における思考力・判断力・表現力を高めるための資料の取扱いや活用方法について具体的に学ぶと共に、教師が身に付けるべき指導力の具体的な内容について関心を深める。

学修目標

小学校教育における教科としての「社会」の意義や役割、目標について理解を深める。また、学習した内容について、自分なりのとらえ方や考え方を深めることができ、社会的事象に対する関心を高める。

内容

この授業では、毎回の講義内容を基に「自分が授業実践者として、どのように取組むか」という視点をもって自ら学習内容を吟味する機会をもつ。また、自分で考えたことを他の人と共有し、話し合い等を通して授業力を育成する。

- 1 ガイダンス：社会科を学ぶ目的とその役割
- 2 次期学習指導要領の改訂の要点と身に付けさせるべき資質・能力・態度について
- 3 中学年社会科の学習内容 3 学年
- 4 中学年社会科の学習内容 4 学年
- 5 高学年社会科の学習内容 5 学年
- 6 高学年社会科の学習内容 6 学年
- 7 社会科学習における地理的内容について
- 8 社会科学習における図表の活用（1）地図の見方・活用の仕方について
- 9 社会科学習における図表の活用（2）統計資料等の活用の仕方について
- 10 社会科学習における歴史的内容について
- 11 社会科学習における公民的内容について
- 12 社会科における学習活動の具体例（1）
- 13 社会科における学習活動の具体例（2）
- 14 社会科学習で身に付けたい資質・能力・態度

評価

課題レポートなどの提出物60点、授業への取り組み（授業のまとめ、小テスト等）40点、とし総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎回授業最後に提出する振り返りレポートに記された不明点、疑問点について、次の授業の初めに補足説明を行い、理解が深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】授業前に、都道府県名と地図上の位置、年代とその時代を代表する人物の主な事績をそれぞれの授業内容に合わせて予習し、理解しておく。

【事後学修】その時間に理解した内容及び自分の考えをまとめる。
(毎時間30分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」日本文教出版(平成29年度版)

【参考図書】

文部科学省「小学校学習指導要領」東洋館出版社(平成29年度版)

小学校社会科の教科書

科目名	生活		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBC262		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科DP2に該当する。「遊び」や「身近な生活」を通して学ぶ生活科は幼児期の教育と極めて密接な関係をもっている。幼児期の遊びの発達の段階を理解しつつ遊びの中ではぐくまれていく力にも視点をあて、体験や具体的な活動を通して資質・能力を育てる指導者のかかわりを理解する。

科目の概要

幼児期や小学校低学年における遊びの価値や発達の段階を学んだり、身近な自然や社会とのかかわりでもある遊ぶおもちゃを作ったり、表現活動を工夫したりして体験を通して学ぶ学習過程を理解する。

学修目標（＝到達目標）

- ・生活科における遊びや体験の価値についてさまざまな資料から理解することができる。
- ・体験したことを表現する多様な方法のあることを理解し、適切な活用を考えることができる
- ・主体的な学習を促す環境の構成や学習材の吟味などを通して、質の高い気付きが生まれるような学習環境を考えることができる。

内容

この授業は、フィールドワーク、グループワーク、実習などを取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス	2年間を見通した生活科の全体計画
2	十文字の春探し（描画法）	
3	飼育栽培の指導法及び栽培計画（アサガオ、ミニトマト等）	
4	飼育栽培活動	実際に種や苗を植える（アサガオ、ミニトマト等）
5	学校生活に関する活動	「学校探検」を行う際の指導の在り方と実習
6	家庭生活に関する活動	「家族の一員とお手伝い」を行う際の指導の在り方と実習
7	自然や地域行事に関する活動	「春、夏、秋、冬探し」を行う際の指導の在り方と実習
8	身近な自然や物を使って遊びをつくり出す活動	「昔遊び」を行う際の指導の在り方と実習
9	自分自身の成長を振り返る活動	「自分の成長（1年生）」を行う際の指導の在り方と実習
10	飼育栽培活動	「アサガオ、ミニトマト等」の活用を行う際の指導の在り方と実習
11	公共物や公共施設を利用する際の指導の在り方と実習	
12	地域に関する活動	「町探検」を行う際の指導の在り方と実習
13	自分自身の成長を振り返る活動	「自分の成長（2年生）」を行う際の指導の在り方と実習
14	飼育栽培活動	「動物飼育」を行う際の指導の在り方と実習
15	生活科のまとめ/幼稚園との互恵性のある交流・連携	

評価

毎回の授業レポート（30％） 授業での課題レポート、課題作品（50％） 授業への参加度（20％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回で扱う内容について、テキストや資料を読み、キーワードや留意点について調べ、A4 1枚程度にまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】各回の内容についてまとめ、レポートとして提出する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説 生活科編（平成29年7月 文部科学省）

科目名	理科		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBC263		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科のDP2に該当する。専門科目のうち、教科に関する科目「理科」(選択科目)であり、2年次の「教職の基礎理論に関する科目」(「必修」)の一つ「初等理科教育」を履修する上での基礎的な内容を学ぶ。本科目を履修することにより実践的な指導力が身に付く。

科目の概要

小学校理科の学習指導要領に示されている、観察、実験、飼育、栽培について、実際に植物を育てたり、小学校理科で行う実験を行ったりしながら、学校現場で活用できる観察・実験の技能を習得する。特に、本授業では、「物質(粒子)」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論を深め、理科指導に役立てることができるよう内容である。

学修目標 (= 到達目標)

ア、「粒子・エネルギー」「生命・地球」の分野に関する内容の探究を通し、理科の授業の内容や方法についての知識や技能を身に付ける。イ、理科の学習指導案の作成や教材作成を通して、理科の指導に関する理解と教師としての素養を身に付ける。

内容

実際に植物を育てたり、観察や実験を行ったりする。また、「物質(粒子)」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論をグループで協議しながら学びを深めていく。

1	(1) 理科における観察・実験等のガイダンス (2) 全国・学力学習状況調査及び技能の課題
2	(1) 観察・実験の方法 (植物の観察と植物の種蒔き) (2) 実験器具、薬品の扱い方
3	(1) 物質・エネルギー領域 (2) 実験: 「物と重さ」
4	(1) 物質・エネルギー領域 (2) 実験: 「振り子の運動」
5	(1) 生命・地球領域 (2) 観察: 「メダカの卵の観察(継続観察)」
6	(1) 生命・地球領域 (2) 観察: 「植物の発芽、成長、結実(継続観察)」
7	(1) 物質・エネルギー領域 (2) 実験: 「磁石の性質」
8	(1) 物質・エネルギー領域 (2) 実験: 「電気の利用」(プログラミング含む)
9	(1) 生命・地球領域 (2) 観察: 「人の体のつくりと運動」
10	(1) 生命・地球領域 (2) 観察: 「流れる水の働きと土地の変化」
11	(1) 物質・エネルギー領域 (2) 実験: 「水溶液の性質」
12	(1) 物質・エネルギー領域 (2) 実験: 「てこの規則性」
13	(1) 生命・地球領域 (2) 観察: 「太陽と地面の様子」
14	(1) 生命・地球領域 (2) 観察: 「季節と生物」
15	(1) 理科「観察・実験」のまとめ (2) 理科の学びを深める方途

評価

実験毎のワークシート30%，観察・実験のレポート等30%，筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回の観察・実験の指導のポイントについて、A4 1枚程度にまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】各回の実際の観察・実験したことをレポートとしてまとめ、提出する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内容に即した資料を教材とし、提供する。

小中学校の理科の教科書（図書館、リメデアル教育センター、教職課程センターに常備）

【推薦書】塚田昭一他編著『新学習指導要領の展開』明治図書出版

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』（平成29年7月）

科目名	理科		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBc263		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科のDP2に該当する。専門科目のうち、教科に関する科目「理科」（選択科目）であり、2年次の「教職の基礎理論に関する科目」（「必修」）の一つ「初等理科教育」を履修する上での基礎的な内容を学ぶ。本科目を履修することで実践的な指導力が身に付く。

科目の概要

小学校理科学習指導要領に示されている、観察、実験、飼育、栽培について、実際に植物を育てたり、小学校理科で行う実験を行ったりしながら、学校現場で活用できる観察・実験の技能を習得する。

特に、本授業では、「物質（粒子）」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論を深め、理科指導に役立てることができるよう内容である。

学修目標（＝到達目標）

ア、「粒子・エネルギー」「生命・地球」の分野に関する内容の探究を通し、理科の授業の内容や方法についての知識や技能を身に付ける。イ、理科の学習指導案の作成や教材作成を通して、理科の指導に関する理解と教師としての素養を身に付ける。

内容

実際に植物を育てたり、観察や実験を行ったりする。また、「物質（粒子）」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論をグループで協議し学びを深めていく。

1	（１）理科における観察・実験等のガイダンス（２）全国・学力学習状況調査及び技能の課題	
2	（１）観察・実験の方法（植物の観察と植物の種蒔き）（２）実験器具、薬品の扱い方	
3	（１）物質・エネルギー領域	（２）実験：「物と重さ」
4	（１）物質・エネルギー領域	（２）実験：「振り子の運動」
5	（１）生命・地球領域	（２）観察：「メダカの卵の観察（継続観察）」
6	（１）生命・地球領域	（２）観察：「植物の発芽、成長、結実（継続観察）」
7	（１）物質・エネルギー領域	（２）実験：「磁石の性質」
8	（１）物質・エネルギー領域	（２）実験：「電気の利用」（プログラミング含む）
9	（１）生命・地球領域	（２）観察：「人の体のつくりと運動」
10	（１）生命・地球領域	（２）観察：「流れる水の働きと土地の変化」
11	（１）物質・エネルギー領域	（２）実験：「水溶液の性質」
12	（１）物質・エネルギー領域	（２）実験：「てこの規則性」
13	（１）生命・地球領域	（２）観察：「太陽と地面の様子」
14	（１）生命・地球領域	（２）観察：「季節と生物」
15	（１）理科のまとめ	（２）理科の学びを深める方途

評価

実験毎のワークシート30%，観察・実験のレポート等30%，筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回の観察・実験のポイントについて、A4 1枚程度にまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】各回の実際の観察・実験したことをレポートとしてまとめ、提出する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内容に即した資料を教材とし、提供する。

小中学校の理科の教科書（図書館、リメデアル教育センター、教職課程センターに常備）

【推薦書】塚田昭一他編著『新学習指導要領の展開』明治図書出版

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領解説-理科編』（平成29年7月）

科目名	家庭		
担当教員名	富永 弥生		
ナンバリング	KBC264		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1.2.4に該当する。

本科目は、教科専門分野の教科に関する科目である。

科目の概要

小学校における「家庭」の授業実践に必要な実践的な知識・技能と、家庭科に関連する背景的な知識を身に付ける。

学修目標（＝到達目標）

小学校における「家庭」の授業を担当するために必要な実践的な知識・技能を、授業場面を意識しながら身に付ける。

特に、小学校学習指導要領解説家庭編に示されている内容の取扱いと指導上の配慮事項および実習の指導について具体例から学び、子どもたちが生活をよりよくしようと工夫する資質・能力をどのように育成するか理解する。

内容

この授業は、演習・講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス、家庭科の目標と内容構成
2	空間軸・時間軸の視点からとらえる家庭科の学習対象
3	A「家族・家庭生活」の学習内容 - 自分の成長・家庭生活と家族の大切さ -
4	B「衣食住の生活（食生活）」の学習内容 - 食事の役割 -
5	B「衣食住の生活（食生活）」の学習内容 - 調理の基礎・留意点と配慮点 -
6	B「衣食住の生活（食生活）」の実習 - ゆでる調理といためる調理 -
7	B「衣食住の生活（食生活）」の実習 - 米飯とみそ汁の調理 -
8	B「衣食住の生活（食生活）」の学習内容 - 栄養を考えた食事 -
9	B「衣食住の生活（衣生活）」の学習内容 - 衣服の着用と手入れ -
10	B「衣食住の生活（衣生活）」の学習内容 - 布を用いた製作 -
11	B「衣食住の生活（衣生活）」の実習 - 手縫いの技能・ミシン縫いとの比較 -
12	B「衣食住の生活（衣生活）」の実習 - ミシン縫いの技能・留意点と配慮点 -
13	B「衣食住の生活（住生活）」の学習内容 - 健康・快適・安全な住まい方の工夫 -
14	C「消費生活・環境」の学習内容 - 持続可能な社会の構築に向けた消費生活と環境 -
15	A「家族・家庭生活」及びC「消費生活・環境」の学習内容 - 小・中学校の系統性 - , まとめ

評価

授業への積極的参加（持ち物〔エプロン、三角巾、食器用ふきん、手拭きタオル、調理実習室用上履き、糸きりばさみ〕の用意を含む）：30% 課題論述レポート（知識・理解・論述・表現）：40% 調理および被服製作の技能：30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】課題のフィードバックは、次回以降の授業でコメント・返却する。

授業外学習

【事前準備】教科書のうち、次時の内容にあたる箇所を読む。次時に必要な学習用具をそろえる。自分の生活経験をふり返り、学生同士でディスカッションする。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容をふり返り、理解を深める。実生活の中で技能を高める。学習内容を自分の生活にどのように活用するか、学生同士でディスカッションする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】・文部科学省『小学校学習指導要領解説家庭編』東洋館出版社、2017

・『小学校わたしたちの家庭科5・6』開隆堂出版、2015

【参考図書】・『新編 新しい家庭5・6』東京書籍、2015

・流田直他『家庭科の基本』学研教育みらい、2012

科目名	知的障害の心理・生理・病理		
担当教員名	細谷 忠司、奈倉 道明		
ナンバリング	Kbc266		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科 ディプロマポリシー1, 3, 4に該当する。

この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要

ヒトの知的活動に関わる神経メカニズムについて解説し、脳損傷によって生じるさまざまな知的障害との関連について知識を深める。さらに、知的機能を評価する方法を学び、教育的支援等に展開するための基礎を養う。

学修目標

知的障害に関する脳機能および心理学的な特徴を知り、知的障害(児)者の教育や支援に役立てる知識を習得する。

内容

この授業は講義を中心のグループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーを取り入れて行う。

- 第1回 知的障害児の発達とその特徴（細谷）
- 第2回 中枢神経系の解剖（奈倉）
- 第3回 中枢神経系の機能（奈倉）
- 第4回 知的障害のアセスメント（細谷）
- 第5回 脳と言語（奈倉）
- 第6回 知的障害と言語（奈倉）
- 第7回 知的障害児の心理的特徴（感覚・知覚・運動等）（細谷）
- 第8回 知的障害者の心理的特徴（言語・記憶・思考等）（細谷）
- 第9回 知的障害に関連する諸障害（自閉症スペクトラム障害）（細谷）
- 第10回 知的障害に関連する諸障害（ダウン症）（細谷）
- 第11回 知的障害に関連する諸障害（てんかん）（細谷）
- 第12回 知的障害に関連する病理（奈倉）
- 第13回 知能と発達（細谷）
- 第14回 発達検査・知能検査（細谷）
- 第15回 知的障害のある児童生徒のキャリア教育（細谷）

評価

授業中のディスカッション参加度(10%)、レポートによる評価(20%)、リアクションペーパー(30点)、試験による評価(40%)の結果を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

リアクションペーパーには自分自身が授業で理解したことや関心があること、疑問について記載する。疑問、質問について

は次回の授業時にフィードバックを行なう。

授業外学習

【事前予習】 知的障害に関連する文献や図書を読んでおく。

【事後学修】 授業で配布された資料をもとにノートを整理し、授業で紹介した書籍等を読み理解を深めておく。また、自分自身の卒業研究を意識し、資料を集め、整理を行い、自らの考えを深めるために各自研究ノートを作成しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書・参考書】 授業の中で適宜紹介する。

科目名	肢体不自由の心理・生理・病理		
担当教員名	松井 雄一、奈倉 道明		
ナンバリング	KBc267		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科 ディプロマポリシー1, 3, 4に該当する。

この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要

肢体に障害を持つ乳児、児童・生徒、成人を対象として、生理的、病理的、心理的な特徴を学び、教育的支援や社会的支援について理解を深める。

学修目標

肢体不自由に関する医学的および心理学的な特徴を知り、教育や療育、リハビリテーションの場で肢体不自由(児)者の指導・支援に役立てる知識と技能を習得する。

内容

この授業は講義を中心のグループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーを取り入れて行う。

- 第1回 筋骨格の生理学と肢体不自由児の障害の概要（松井）
- 第2回 教科指導における肢体不自由児の困難とその支援方法（松井）
- 第3回 神経と運動のコントロールと肢体不自由児の障害の状況（松井）
- 第4回 肢体不自由の病理 脳性麻痺（奈倉）
- 第5回 肢体不自由の病理 二分脊椎（奈倉）
- 第6回 脳性まひ児の困難とその支援（知的障害を併せて有する児童を中心に）（松井）
- 第7回 基礎感覚の発達とその支援（重度重複障害児の心理と支援を中心に）（松井）
- 第8回 肢体不自由児の運動機能の発達（松井）
- 第9回 肢体不自由の病理 水頭症（奈倉）
- 第10回 肢体不自由の病理 神経疾患（奈倉）
- 第11回 肢体不自由の病理 筋ジストロフィー（奈倉）
- 第12回 呼吸の困難と医療的ケア（松井）
- 第13回 摂食嚥下及び排泄の機能（松井）
- 第14回 摂食嚥下及び排泄の困難と指導・支援（松井）
- 第15回 肢体不自由児の医療と福祉と教育（まとめ）（松井）

評価

授業中のディスカッション参加度(10%)、レポートによる評価(20%)、リアクションペーパー(30点)、試験による評価(40%)の結果を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

リアクションペーパーには自分自身が授業で理解したことや関心があること、疑問について記載する。疑問、質問について

は次回の授業時にフィードバックを行なう。

授業外学習

【事前予習】 肢体不自由に関連する文献や図書を読んでおく。

【事後学修】 授業で配布された資料をもとにノートを整理し、授業で紹介した書籍等を読み理解を深めておく。また、自分自身の卒業研究を意識し、資料を集め、整理を行い、自らの考えを深めるために各自研究ノートを作成しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書・参考書】 授業時に適宜紹介する

科目名	病弱の心理・生理・病理		
担当教員名	細谷 忠司		
ナンバリング	KBc268		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科 ディプロマポリシー1, 3, 4に該当する。

この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要

疾病により子どもたちが受ける教育場面での生理学的、病理学的、心理学的変化について学習する。

学修目標

病気や障害がある人に関して様々な側面の理解を深め、それらを認識して適切な支援に役立てる知識を習得する。

内容

この授業は講義を中心のグループワーク、ディスカッション、リアクションペーパーを取り入れて行う

1	総合 病気の子供たちの現状
2	総合 さまざまな病弱教育
3	心理 教科別の指導
4	心理 自立活動
5	生理・病理 慢性疾患
6	生理・病理 慢性疾患
7	生理・病理 慢性疾患
8	生理・病理 精神疾患
9	生理・病理 精神疾患
10	心理 ターミナル期の心理
11	心理 行事等
12	心理 センターの機能
13	心理 合理的配慮
14	総合 総合解説
15	総合 総合解説

評価

授業中のディスカッション参加度(20%)、レポートによる評価(20%)、リアクションペーパー(20点)、試験による評価(40%)の結果を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

リアクションペーパーには自分自身が授業で理解したことや関心があること、疑問について記載する。疑問、質問については次回の授業時にフィードバックを行なう。

授業外学習

【事前予習】 健康や疾患に関連する文献や図書を読んでおく。

【事後学修】 授業で配布された資料をもとにノートを整理し、授業で紹介した書籍等を読み理解を深めておく。また、自分自身の卒業研究を意識し、資料を集め、整理を行い、自らの考えを深めるために各自研究ノートを作成しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない

【推薦書・参考書】 授業のときに適宜紹介する。

科目名	学習指導と学校図書館		
担当教員名	村山 正子		
ナンバリング	KBd368		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1.2.4 に該当する。

学習指導要領に基づき、学校図書館の活用が活発に行われ、主体的・対話的で深い学びが実施されるためには、適切な情報メディアを選択・収集し、活用し、発表する情報活用能力の育成が求められる。当科目は、児童生徒に対する情報活用能力の育成指導の方法、主体的・対話的な探究学習を実施する方法、学校図書館を活用した学習指導を展開する教員への支援のあり方などの習得を目標とする。

科目の概要

学習指導と学校図書館との関りを中心に、児童生徒の情報活用能力育成のための基本と実践例を論じる。また、発達段階に応じた学校図書館メディアの選択や授業支援のあり方について取り上げ、授業づくりをサポートする司書教諭の役割と任務、学校司書との連携について具体的な理解を図る。

学修目標

- 1) 学習活動における学校図書館の役割と機能を理解する。
- 2) 情報活用能力の育成を図るスキルを学ぶ。
- 3) 授業の展開に寄与するための発達段階に応じた学校図書館メディアの活用方法を学ぶ。
- 4) 主体的・対話的で深い学びとなる探究学習の展開方法を学ぶ。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	教育課程と学校図書館	情報リテラシー教育
2	探究的な学習と情報活用能力の育成	テーマ設定
3	探究的な学習と情報活用能力の育成	情報収集
4	探究的な学習と情報活用能力の育成	整理・分析
5	探究的な学習と情報活用能力の育成	まとめ
6	探究的な学習と情報活用能力の育成	発表と相互評価
7	情報メディアの種類と発達段階に応じた活用	
8	学習活動を支援する情報サービス	
9	教育活動における学校図書館活用	教科・支援教育 他
10	教育活動における学校図書館活用	総合・特別活動 他
11	教育活動における学校図書館活用	学校司書との協働
12	学校図書館を活用した授業づくり	計画
13	学校図書館を活用した授業づくり	意見交換
14	学校図書館を活用した授業づくり	発表
15	まとめ	

評価

毎回の講義でのレポート 40%、課題等の作成・発表 30%、まとめレポート 30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】講義に関する資料を指示するので調べて読んでおく。(各授業に対して60分)

【事後学修】講義で紹介されたホームページや図書等を調べたり、指示した発展的な課題を、レポートにまとめ次週提出。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じて資料を配布する。

【推薦書】 放送大学教材『改訂新版 学習指導とと学校図書館』堀川照代 塩谷京子 『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携 理論と実践 改訂版』公益社団法人全国学校図書館協議会 悠光堂 『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』堀川照代 公益社団法人全国学校図書館協議会 悠光堂 『図書館で調べ学習をやってみよう!子どもはハテナでぐんぐん育つ 指導法と実践例』 調べ学習研究会「調之森」 岩崎書店

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名	久保田 葉子、狩野 浩二		
ナンバリング	KBd169		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

児童教育学科の学位授与方針 1, 2 に該当します。この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（斎藤喜博 / 詩、近藤幹雄 / 曲）「利根川」に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらおう会を持ちたいと思っています。また、夏に行われる免許状更新講習や新座市3年経験者教員研修会においても、発表する機会を持ちます。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

内容

この授業はグループ練習、個人練習の他、ディスカッションと発表を取り入れながら、学びを深めていきます。

以下、授業内容について列記します（順不同）。第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）60%、レポート課題40%により評価を行い、総合評価60点以上を

合格とします。

【フィードバック】取り組みの成果を発表し、変化したこと、上達したこと、課題などを言語化・共有し、振り返りの省察を行います。

授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。特に腹式呼吸法の練習を毎日しましょう。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義中の練習を踏まえて、歌唱や朗読の練習をします。（各授業に対して30分）

振り返りのレポートを最後に作成します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名	久保田 葉子、狩野 浩二		
ナンバリング	KBd169		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

児童教育学科の学位授与方針 1, 2 に該当します。この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（斎藤喜博 / 詩、近藤幹雄 / 曲）「利根川」に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらおう会を持ちたいと思っています。また、夏に行われる免許状更新講習や新座市3年経験者教員研修会においても、発表する機会を持ちます。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

内容

この授業はグループ練習、個人練習の他、ディスカッションと発表を取り入れながら、学びを深めていきます。

以下、授業内容について列記します（順不同）。第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）60%、レポート課題40%により評価を行い、総合評価60点以上を

合格とします。

【フィードバック】取り組みの成果を発表し、変化したこと、上達したこと、課題などを言語化・共有し、振り返りの省察を行います。

授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。特に腹式呼吸法の練習を毎日しましょう。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義中の練習を踏まえて、歌唱や朗読の練習をします。（各授業に対して30分）

振り返りのレポートを最後に作成します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	表現活動（応用）		
担当教員名	久保田 葉子、狩野 浩二		
ナンバリング	KBd369		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

児童教育学科の学位授与方針 2，3 に該当します。この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。

小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品「かたくりの花」 横須賀薫・詩、梶山正人・曲 に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、

心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

表現活動既修者が皆さんを指導する場面をつくります。先輩たちとともに、表現活動の指導法について学びあって欲しいと思います。

内容

この授業は全体練習・グループ練習・個人練習の他、ディスカッションと発表を取り入れながら、学びを深めていきます。以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

前期において「表現活動（基礎）」を受講した人がいた場合には、内容が変わります。

下記は一般的な内容です。実際には、参加メンバーに応じて変更します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる

14. 表現活動の指導 まとめ

15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（主体性、教材解釈、表現力）60%、レポート課題40%により評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】取り組みの成果を発表し、振り返りの会で省察を行います。

授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。腹式呼吸法の練習を毎日します。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義中の課題を踏まえて、更に朗読や歌唱表現の練習をします。（各授業に対して30分）最終発表会のあとで、振り返りのレポートを作成します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	教職基礎演習		
担当教員名	綾井 桜子、日出間 均、富山 哲也		
ナンバリング	KBd170		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校教員の職務や担任教師の動きを「学校教育計画」をもとに理解するとともに、学校現場でその実際を知る。また、担任教師として求められる児童理解や人間理解のありかたを知り、対応のしかたを学ぶ。児童教育学科の学位授与方針 1, 3 に該当する。

科目の概要

小学校教員の職務の基礎的な事項について演習形式で学ぶ。学校現場における学校行事や学校安全の取り組みが、計画的に、組織的に実施されていることを学校現場の実践をもとに具体的に理解していく。また、教職にとっての基礎となる児童・人間理解、信頼関係の構築、学級問題について、事例を交えながら演習形式で学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 計画書等を作成し、学校現場について知る。
- ・ 小学校教員の職務を理解し、自分の適性についての判断材料や判断基準を得る。

内容

本授業は、以下の内容について、グループワーク、学校現場での観察等を通して学びを深める。

- 学校の 1 年を、学校教育計画をもとに理解する。
- 担任教師の 1 年の実際の取り組みを、学校現場の調査・観察をもとに体験的に学びを進める。
- 学校現場における学校行事や学校安全の取り組みの調査・観察をもとに学ぶ。
- 教師におけるコミュニケーションを通じての信頼関係の構築、および学級問題について事例を通して学ぶ。

オリエンテーション (学校インターンシップの目的)

学校の目的、学校の 1 年間、教師の 1 年間	富山
学校行事の目標と内容	日出間
学校行事の効果的な取組	日出間
学校安全の目標と内容	日出間
学校安全の効果的な取組	日出間
学校教育計画について	富山
学校教育計画をもとに、計画書の作成演習 1 (例：清掃などの当番活動)	富山
学校教育計画をもとに、計画書の作成演習 2 (例：給食の時間の指導)	富山
学校教育計画をもとに、計画書の作成演習 3 (例：始業式・終業式)	富山
教師における信頼関係の構築とコミュニケーション その 児童	綾井

教師における信頼関係の構築とコミュニケーション	その	教員間・保護者	綾井
学級問題について			綾井
学級問題の早期発見、防止の具体例			綾井
まとめ			綾井

評価

毎時間の学修票の作成（30点）、学習態度・積極性・発言等（30点）、まとめの試験（40点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）していく。

授業外学習

【事前準備】授業で扱う前提となる事項について『小学校学習指導要領解説（総則編）』、『小学校学習指導要領解説（特別活動編）』を読み、教育時事について情報を収集する。（あわせて60分）

【事後学修】インターンシップでの体験を授業の内容と関連づけ、教職（とくに学校・教職・学級）についての理解を深める。授業にて配布の資料を再読し、ノートを整理し、まとめる（あわせて60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

小学校学習指導要領, 小学校学習指導要領解説(総則編), 小学校学習指導要領解説(特別活動編)

【推薦書】「小学校キャリア教育の手引き」（教育出版）

【参考図書】授業時に指示する。

科目名	教職発展演習		
担当教員名	松岡 敬明、狩野 浩二、三藤 あさみ、山本 悟 他		
ナンバリング	KBd370		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1.3.4 に該当する。

専門科目のうち、教科・教職融合分野の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」に当たります。小学校教育の現状や課題を把握し、教育に対する考えを深めます。また、体験活動については、集団宿泊行事の模擬指導を通して、学校教育における実践的な資質、能力、知識、方法論を理解します。

科目の概要

講義を受けるとともに、主体的に事例を調べ発表し合う中で小学校教育に関する理解を深め表現力を高めます。前期は体験学習を通して実践的に学びます (夏期休暇中に2泊3日で実施)。後期は、集中授業の扱いとして、前期に実施した体験学習のまとめや、学校インターンシップの振り返り等を行い、教職に関する資質・素地を養います。

学修目標 (= 到達目標)

次の3点を授業のめあてとします。

- ・ 宿泊を伴う校外学習の進め方、配慮事項を体験的に学び、基礎基本を修得する。
- ・ 学習活動や子どもとの接し方に関する諸問題に関心を持ち、その現状を調べて教職に関する自分なりの考えを整理する。
- ・ バスセッション等を用いた討論の進め方を身につけ、自分の意見を発表できるようにする。

内容

グループワークを中心に、特別活動 (学校行事) の企画・立案・運営を学んだり、学校インターンシップ活動の成果をまとめたりする。

前 期

- 1 回目 オリエンテーション。年間活動計画と自然体験活動の内容確認。
学校インターンシップ活動のガイダンス説明 (1 ~ 3 年生合同) : 担当者全員
- 2 回目 宿泊行事の位置づけ、指導方法、生活指導、安全管理等を調べる。 : 山本・松岡・高岩
- 3 回目 集団宿泊的行事の進め方の確認、班編成 : 山本・松岡・高岩
- 4 ~ 6 回目 集団宿泊的行事の計画書作成 : 山本・松岡・高岩
- 7 回目 集団宿泊的行事の事前指導 (しおりをもとに発表活動) : 山本・松岡・高岩
- 8 ~ 15 回目 : 担当者全員
赤城山での体験活動と模擬指導 (8月29日 ~ 8月31日 : 2泊3日で実施予定)
 - ・ 宿泊を伴う行事の運営と安全管理、生活指導と健康管理
 - ・ 体験活動 : 登山、ハイキング、野外炊事、キャンプファイアー等
 - ・ 移動時 (交通機関を含む) における安全管理

後 期

- 1 ~ 3 回目 集団宿泊的行事の実践報告とまとめ : 担当者全員
- 4 回目 学校インターンシップ活動の中間報告会 (1 ~ 3 年生合同) : 担当者全員
- 5 ~ 14 回目

学習指導要領及び学校インターンシップ活動の実践より課題を設定し、バズセッション等による意見交換を通して教職に関わる基本的な知識や技能の修得を図る。

- ・学校インターンシップ活動の振り返りと発表活動 : 狩野、山本
- ・すぐれた教育実践から学ぶ(授業づくりの素地を深める) : 塚田、高岩
- ・最新教育問題を考える : 塚田

15回目 まとめ(学校インターンシップ活動の最終報告会:1~3年生合同) : 担当者全員

評価

前期の集団宿泊行事に関する事前活動(計画書、指導案作成)やその実践的体験活動(模擬指導)および発表活動を50点、後期の発表活動とレポート等作成を50点として総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】発表活動とレポートに対して、コメントを行う。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。集団宿泊的行事の計画書作成、各プレゼン活動の準備と発表資料作成。(各授業に対して30分)

【事後学修】授業内容を整理するレポート作成。授業で紹介した推薦書、参考図書の自主的講読。(各授業に対して30分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省「小学校学習指導要領」(最新版)

文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別活動編」(最新版)

【推薦書】【参考図書】授業の中で適宜、紹介する。

科目名	教職応用演習		
担当教員名	山本 悟、日出間 均、星野 敦子、綾井 桜子 他		
ナンバリング	KBd470		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

本科目は、「児童教育学科の教育の理論及び実践の応用に関する科目」に位置づけ、4年生前期に設定された選択科目である。

科目の概要

4年生で履修する「教育実習」と並列に開設し実習の効果的な実践を補完するとともに、教職に就くための資質・能力を伸ばして即戦力として活躍できる教員となるための基礎を学修する。特に、教育の最新事情や教育課題の解決を意図した演習を行い、履修する学生が各々の児童観や指導観、教育観を構築するしていくことを支援する。

学修目標

教科指導、生徒指導、学級経営等の職務を的確に実践できる力、及び学力向上、豊かな心を育成するための応用力を身につける。さらにいじめ、暴力行為、不登校等の生徒指導に関連した基本的な知識や適切な対処法を理解するとともに、自分の考えを文章や言葉で表したり、他者と巧くコミュニケーションできる表現力等を高めることをねらいとする。

内容

1	授業ガイダンス、教育実習準備活動 (実習についての講話：松岡) : 山本、綾井、齋藤
2	教育実習準備活動 (教職関連の講話：塚田) : 綾井、齋藤、山本
3	教育実習準備活動 (教育実習講話：外部講師) : 山本、綾井、齋藤
4	教育実習における実践 (教職関連の講話：三藤) : 山本
5	教育実習における実践 : 綾井
6	教育実習における実践 : 齋藤
7	教育実習における実践 : 綾井
8	教育実習における実践、教育実習の振り返り (教職関連の講話：久保田、狩野) : 山本
9	教育実習における実践、教育実習の振り返り (教職関連の講話：日出間) : 齋藤
10	教育実習における実践、教育実習の振り返り (教職関連の講話：綾井) : 綾井
11	教育実習における実践、教育実習の振り返り (教職関連の講話：星野) : 山本
12	教育実習における実践、教育実習の振り返り (教職関連の講話：齋藤) : 齋藤
13	教育実習の振り返り、卒業研究中間発表 (採用試験関連の講話：中西) : 綾井
14	教育実習まとめ : 山本
15	まとめ (教育実習省察レポート作成) (講話：富山) : 綾井、齋藤、山本

評価

授業への参加度20%、毎回のリアクションペーパー20%、発表活動20%、まとめレポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。提出したレポートはコメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】授業で扱う内容に関連したテキストの自主的購読(30分)。プレゼン活動の準備(30分)。

【事後学修】授業で得た知識や授業内容のノート整理、配付資料の再考と整理(60分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「小学校学習指導要領」(平成29年度版)東洋館出版社」

【推薦書】授業内で適宜、指示する。

科目名	学級経営と教科指導		
担当教員名	中西 郁、日出間 均、三藤 あさみ		
ナンバリング	KBd471		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1,2,3,4に該当する。本科目は、学位授与方針の 教員の在り方、 各教科等における実践的な指導力、 学級経営に関する知識・技能の基礎的な事項を理解することが求められている。さらに、学級担任として児童一人ひとりが学校生活に喜びと期待を育むことができる指導力を身に付けることを目的とする。

科目の概要

学級経営の基盤は教科の指導においてない。現場の教師が作成した具体的な資料をもとに、学校現場に密着した実践的な学級経営や教科指導について考察をする。担任として、自信を持って児童や保護者に接することができるよう様々な事例の検討を通して指導力を身に付けていく。

学修目標（ = 到達目標 ）

- 1.学級経営のねらいを理解し、学級経営計画を作成できるようになる。
- 2.学力向上に向けた取組方策を理解する。
- 3.特別支援教育を基盤にした学級経営、教科指導を理解する。
- 4.保護者対応の基本的事項等について理解する。

内容

本授業は講義を基本にグループディスカッション、課題のプレゼン、演習を取り入れながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション、学校インターンシップの意義 【日出間 中西 三藤】
2	これからの特別支援教育に望まれること 【中西】
3	これからの学校教育に望まれること（チーム学校の実現） 【三藤】
4	学校教育目標の実現方策の立案 【三藤】
5	学級経営計画の作成（学級目標、学級経営方針、学級の実態把握） 【三藤】
6	学力の構造や学力調査の概要、学力の向上方策 【三藤】
7	学習のつまづきの把握と対策 【三藤】
8	特別支援教育を大切にした学級経営の実際 【中西】
9	特別支援教育を大切にした学級経営の充実方策 【中西】
10	特別支援教育を大切にした教科指導の実際 【中西】
11	個別の指導計画の意義と作成（演習） 【中西】
12	朝の会や帰りの会の進め方 【日出間】
13	保護者へのお知らせや学級通信の書き方と留意点 【日出間】
14	学校インターンシップのまとめと来年度への引継ぎ 【日出間】
15	まとめ 【日出間】

評価

課題（レポート）による評価（20%）、試験（60%）、学習態度・積極性・発言等（20%）によって総合的に評

価する。総合評価60点以上を合格とする。授業の中で試験、課題の振り返りを行う。

【フィードバック】提出された小レポート等は、翌週以降の授業内で活用（紹介）し、前回の学習内容を振り返り、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】シラバスを参考に、授業内容に関連する1年生の学校インターンシップの成果と課題について整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】配布された資料により各自で振り返りを行うとともに、提示された課題に取り組み、授業で学んだことを整理し、理解を深めておく。（各授業に対して90分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

教科書を使用せず、授業時にプリントを配布する。

【推薦書】

よくわかるインクルーシブ教育～小学校学級担任のための基礎講座～ 開隆堂

【参考図書】

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）文部科学省、その他必要に応じて授業時に随時紹介する。

科目名	外国語活動		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBd372		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1.2 に該当する。

教育職員免許法及び同施行規則に定められた教科又は教職に関する科目に当たり、選択科目となっています。児童にとっての外国語活動とは何かを考察し、児童が学ぶ実践的な場面を考え中高の外国語学習とは異なることを学びます。

科目の概要

外国語活動全般に関する知識を身に付け、児童に外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を育てる指導技術を学びます。

学修目標（ =到達目標）

小学校学習指導要領における外国語活動の趣旨を理解し、指導計画の作成はじめ、実践的指導力を養います。

内容

小学校外国語活動の目標及び内容等を理解し、"Let's Try!"（文部科学省）の活用の仕方を学びながら実践的指導力を身に付けることを目指します。授業は、講義と演習を交えて進めていきますが、グループワークを中心に、学習者相互の省察を生かし、指導技術の向上を図ります。授業全般を通じて、コミュニケーションとは何かということを追及していきます。

1	オリエンテーション
2	外国語活動導入の経緯
3	小学校外国語活動の役割
4	基本的な外国語指導法
5	"Let's Try! 1" の内容と年間指導計画
6	"Let's Try! 2" の内容と年間指導計画
7	"Let's Try!"を活用した指導の在り方（1）
8	"Let's Try!"を活用した指導の在り方（2）
9	言語活動（1）（歌、チャンツ）
10	言語活動（2）（ゲーム）
11	言語活動（3）（アクティビティ）
12	指導案の作成について
13	模擬授業（1）
14	模擬授業（2）
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、レポート50%、模擬授業30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回のレポートをシェアリングする。

授業外学習

【事前予習】前時に示されたワークシート等（各授業に対して30分）

【事後学修】Classroom English の反復練習（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Let's Try! 1 & 2 ・文部科学省

小学校学習指導要領解説外国語活動編・文部科学省(平成29年7月)

【推薦書】授業時に紹介する。

【参考図書】小川隆夫、東仁美・小学校英語はじめる教科書・mpi

科目名	総合学習の授業づくり		
担当教員名	星野 敦子、綾井 桜子、三藤 あさみ、大友 みどり		
ナンバリング	KBd373		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針の1,2,3,4に該当する。体験的な学習に配慮しつつ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動となるように指導に配慮し、子供たちの思考力・判断力、表現力等を育むと共に、各教科における基礎的・基本的な知識・技能の習得に資するなど、教科と一体となって子どもの力を伸ばすものである。

科目の概要

「生きる力」を育むために、横断的・総合的な学習のみならず探究的な学習の実現を目指す。また、体験的な学習活動の充実にも配慮し、学習活動を通して。そのためには、こうした学習に不可欠の資質・能力の育成を重視し、学び方やものの考え方を身に付ける学習活動の工夫を図った指導案や活動計画をつくる力の育成を目指した指導の在り方を明らかにする必要がある。

学修目標（＝到達目標）

総合的な学習の時間の充実のために必要な、課題発見、課題解決、目標の共有、地域との連携、共同的な学びの実現といった活動に必要な資質・能力・態度の具体的な育成や活動内容の工夫を協力して考えることができる。

内容

前半は講義を中心として実施、後半はグループワークを中心として、模擬授業を構築し、実践を行う。

1	ガイダンス：総合的な学習の時間の現状と課題（綾井・星野・三藤・大友）
2	「総合的な学習の時間」の歴史的経緯と現状（大友）
3	「総合的な学習の時間」で育てる資質・能力・態度（大友）
4	「総合的な学習の時間」での多様な授業実践例から学ぶ（大友）
5	「総合的な学習の時間」の時間と地域連携（新座市との連携について）（星野）
6	「総合的な学習の時間」の指導案づくり（三藤）
7	「総合的な学習の時間」の指導案づくり（三藤）
8	「総合的な学習の時間」の時間の授業づくり（星野）
9	「総合的な学習の時間」の時間の授業づくり（星野）
10	「総合的な学習の時間」の時間の出前授業（星野・三藤）
11	「総合的な学習の時間」の時間の出前授業（星野・三藤）
12	「総合的な学習の時間」の時間の出前授業（星野・綾井）
13	「総合的な学習の時間」の時間の出前授業の評価（綾井）
14	「総合的な学習の時間」の時間の出前授業の評価（綾井）
15	まとめ（綾井・星野・三藤）

評価

「平常点」を10%、「授業に対する意欲・関心・態度」を10%、「提出物」を20%、「試験」を60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】次時の学習内容を伝え、次時の学習までに調べる課題を提示する。

【事後学修】本時の学習で学んだことをレポートにまとめさせ、提出させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業時に指示

科目名	ICT教育と教科指導		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング	KBd374		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2に該当し、「教科・教職融合分野 教育の理論及び実践の応用に関する科目」の専門選択科目である。

科目の概要

授業でのICT活用が着実に進展し、次期学習指導要領において情報教育の充実やアクティブ・ラーニングへのICT活用が議論される一方で、ICT機器等の整備や教員のICT指導力の点で課題も明らかになっている。本科目では、ICT教育についての理論と実際に授業で活用できる技術を身につけ、教員としての指導力育成に取り組む。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ ICT活用教育、並びに教育の情報化、情報教育に関する理論や考え方が分かる。
- ・ 自ら主体的にICT活用を前提とした教材研究を行うとともに、それを活かした学習指導案を作成することができる。
- ・ 基本的なICT活用の指導技術を身に付けるとともに、関心・意欲を喚起する授業を行うことができる。

内容

講義による解説とグループによる討論活動を取り入れる。

1	情報化の進展と教育の情報化
2	学習指導要領における教育の情報
3	教科指導におけるICT活用
4	情報教育の体系的な推進
5	学校における情報モラル教育と家庭・地域との連携
6	校務の情報化の推進・教員のICT活用指導力の向上、学校におけるICT環境整備
7	情報活用能力の調査、評価
8	未来へ向かったのICT活用の在り方
9	ICT機器活用体験 (電子黒板・デジタル教科書など)
10	プログラミング教育の在り方
11	プログラミング教育の実際
12	ICTを活用した教材設計
13	ICTを活用した教材開発
14	ICTを活用した教材の評価
15	まとめ

評価

平常点(30%)、授業で課すレポート(35%)及び教材開発(35%)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】事前配布する資料の確認、不明なキーワードを調べる。(60分)

【事後学修】授業で課す、レポート課題、指導案作成、教材開発等を行う。(120分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】学習指導要領など

他授業時間内で指示する

科目名	理科実験・観察演習		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBd375		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科のDP2に該当する。専門科目の内、「教科・教職融合分野」の一つ「教育の理論及び実践の応用に関する科目」である。小中学校の学習内容である理科の観察・実験を効果的に行い、安全な観察・実験の技能、科学的な概念を育成する方途等、実践的指導力を身に付ける。

科目の概要

理科教育の特質は、実際の観察・実験により、科学的思考力を身に付けさせるところにある。安全でしかも効率よく観察実験を行い、児童の科学的思考力や表現力を高めるため、実際に観察・実験器具の準備や、薬品等の希釈、実験操作等を行う。また、事前の準備や実際の実験など、中学校における理科の内容も扱い、小中の教育課程の接続も踏まえて行う。

学修目標 (= 到達目標)

小学校段階における問題解決の方法に加え、中学校段階における分析・解釈について、実際に観察・実験を行い、理科の学習指導方法や観察・実験の技能を身に付ける。また、観察・実験の事故防止や薬品の希釈・濃度調整など、実際に行うことができる。

内容

小学校の学習内容と特に系統的に関連のある中学校の学習内容について、基礎的な観察・実験技能の習熟を図ることを目的とし、グループにより協同しながら演習を行い、理科(科学)に関する基礎的な技術や知識を習得する。

1	理科学習(観察・実験)を楽しく学ぶ方法と教え方(ガイダンス)
2	観察・実験方法1 花のつくりとはたらき(虫眼鏡・ルーペの使い方)
3	観察・実験方法2 光合成の仕組み(顕微鏡・双眼実体顕微鏡の使い方)
4	観察・実験方法3 物の燃焼(気体検知管・気体センサーの使い方)
5	観察・実験方法4 酸とアルカリの反応(薬品の希釈・濃度調整・メスシリンダー)
6	観察・実験方法5 電池の仕組み(電池とイオン)
7	観察・実験方法6 仕事とエネルギー(衝突実験・位置エネルギー)
8	観察・実験方法7 身の回りのてこ(第1、2、3種のてこの仕組み)
9	観察・実験方法8 空気と水の性質(体積変化/状態変化)
10	観察・実験方法9 電流とその働き(電流による発熱)
11	観察・実験方法10 エネルギー変換(ペルチェ素子・風力・水力等の発電実験)
12	観察・実験方法11 音と振動(振幅/振動数)
13	観察・実験方法12 気象とその変化(気象観測)
14	観察・実験方法13 天体の運動を観察(モデル実験)
15	日常生活と理科の学習の関連について(理科の意義や有用性)・まとめ

評価

事前の観察・実験のレポート（ワークシート）20点、観察・実験のパフォーマンステスト30点、基礎的・基本的な知識・技能の理解度テスト40点、観察・実験の意欲・態度10点、総合評価60点を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】次時の学習課題（観察・実験のねらいと内容）について、調べたり、自らの学習経験を反映させた小レポートA4 1枚程度を作成し、授業開始時に提出する。（各授業に対して60分）

【事後学修】実際に行った観察・実験技能や結果の整理等についてまとめ、レポートとして提出する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説「理科編」（平成29年7月）、中学校学習指導要領解説「理科編」（平成29年7月）

科目名	教育行政概論		
担当教員名	小松 親次郎		
ナンバリング	KBd476		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

専門科目・D教科・教職総合分野の「教育の理論及び実践の応用に関する科目」領域にある科目である。

科目の概要

教育行政の仕組みを学ぶとともに、具体的な施策事例について研究し、その目的と方策について考察する。行政と教育との関わりという視点から学校教育について考えるとともに、主体的に教育行政施策を検討する。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) 教育行政について、自分で問いを立て、他者と協働して考察できる。
- 2) 教育行政からの視点を持つことにより、より多面的に考えることができる。

内容

前半は教育行政全体の仕組みについて多角的に学び、後半は国、地方公共団体が実施している政策やその背景について、事例を通して学ぶ。

講義を基本としつつ、個人やグループで考え、意見交換しながら、学びを深めていくことを目的として、クラス全員とグループ学習の方式を組み合わせる。

1	ガイダンス 学修の目的、目標、課題や学修の形態、方法など科目に関する基礎理解の形成
2	私達の身近な暮らしと行政、教育
3	国と地方の教育行政の体系
4	教育法規と教育行政
5	教育財政の構造
6	教育人材政策と学校組織運営
7	教育課程に関する行政
8	児童生徒に関する行政
9	総合的な教育振興プランの策定
10	事例を通して学ぶ (国の教育行政から)
11	事例を通して学ぶ (県の教育行政から)
12	事例を通して学ぶ (市町村の教育行政から)
13	事例を通して学ぶ (幼児教育行政)
14	事例を通して学ぶ (エビデンスに基づく教育行政)
15	全体まとめ 学修内容の確認、今後の課題への展望等

評価

毎回の授業の取組状況 (40点)、毎回の振り返りシート (30点)、レポート (30点) とし、総合評価60点以上を合

格とする。

【フィードバック】毎回の授業の取組状況と振り返りシートの点数を随時、フィードバックする。

授業外学習

【事前準備】前回の授業で提示された課題、記事、キーワード等について調べ、考察する。（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回の授業後、授業内容を、授業時に紹介された文献、記事等も補助としつつ復習するとともに、振り返りシートを完成して提出する。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。授業ごとにプリントを配布する。

【参考図書】『教育委員会改革 「地方教育行政法」のどこが変わったのか 5つのポイント』村上祐介編著、学事出版、1,800円

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業における取り組み (30%) により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」(ドレミ楽譜出版社)

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1，2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業における取り組み（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業における取り組み (30%) により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」(ドレミ楽譜出版社)

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業における取り組み (30%) により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」(ドレミ楽譜出版社)

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業における取り組み (30%) により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」(ドレミ楽譜出版社)

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業における取り組み (30%) により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」(ドレミ楽譜出版社)

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業における取り組み (30%) により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」(ドレミ楽譜出版社)

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業における取り組み (30%) により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」(ドレミ楽譜出版社)

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業における取り組み (30%) により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」(ドレミ楽譜出版社)

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1，2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業における取り組み（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1，2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業における取り組み（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Mクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1，2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業における取り組み（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Nクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1，2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業における取り組み（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Pクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1，2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業における取り組み（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Qクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1，2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業における取り組み（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業における取り組み (30%) により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」(ドレミ楽譜出版社)

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名			
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1，2に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業における取り組み（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1，2に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業における取り組み（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業における取り組み (30%) により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」(ドレミ楽譜出版社)

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業における取り組み (30%) により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」(ドレミ楽譜出版社)

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業における取り組み (30%) により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」(ドレミ楽譜出版社)

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名			
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年		ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業における取り組み (30%) により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」(ドレミ楽譜出版社)

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名			
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年		ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業における取り組み (30%) により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習 (練習) 時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」(ドレミ楽譜出版社)

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名			
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年		ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1，2に該当する。

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度の難易度のピアノ演奏技術と弾き歌いの方法を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

小学校の教員を目指す学生は、小学校教科書の歌唱・器楽・伴奏の演奏および指導ができるようになることを目指す。

幼稚園で実習を行う学生は、子どもの歌・季節の歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。初心者も半年～1年でピアノ奏法の基礎と読譜力を身につける。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室を予約して練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業における取り組み（30％）により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席することで実技試験を受けることができる。

【フィードバック】毎回の授業において個々の課題や質問に対してその場で返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所を毎日練習し、余裕を持って弾き歌いができるようにする。また、身につけた技術を他の曲でも応用できるようにする。必要な学習（練習）時間は経験などにより異なる。

【事後学修】授業で扱った内容の復習をして、レパートリーとして定着させること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]

「現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門」（ドレミ楽譜出版社）

初心者はまず読譜と弾き歌いの基礎をこの教材で学習することを勧める。

経験者は小学校共通教材など、適宜、担当教員と教材を相談しながら進めていく。

科目名	書写・文章表現演習（基礎）		
担当教員名	富山 哲也、綾井 桜子		
ナンバリング	KBd278		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2，4 に該当する。小学校教員として文字指導を行うための基礎と，文章を書くため基礎を身に付ける。

科目の概要

小学校国語の書写に関する指導内容に即し，文字指導に必要な用具（硬筆を中心とする）の扱いや運筆，文字についての知識等を学ぶ（実技を含む）。また，チョークによる板書を通して教師の書く文字についてもそのポイントを学習するとともに，ICTを用いた教材の作成などにも取り組む。

文章表現では，話し言葉と書き言葉の違い，分かりやすい表現など，文章を書くための基礎を身に付けるほか，問いに正対して書くなど，小論文を書く基本を学習する。

学修目標（＝到達目標）

- 1.文字表現に関心をもち，進んで文字や文章を書こうとする。
- 2.文字指導を行うための基本的な知識を身に付け，板書やプリント作成に生かす。
- 3.文章を書くための基礎を身に付け，小論文を書く。

内容

この授業は演習を中心とし、グループワーク、ディスカッションを取り入れて学びを深めていく。

1	ガイダンス，文章表現 ～話し言葉と書き言葉～（綾井）
2	文章表現 ～文章表現の基礎、優れた表現から学ぶ～（綾井）
3	文章表現 ～分かりやすい文章を書く～（綾井）
4	文章表現 ～実用的な文章を書く～（綾井）
5	文章表現 ～問いに正対した文章を書く～（綾井）
6	書写 ～文字指導の概要，学習指導要領の理解，姿勢や筆記具の持ち方，平仮名1～（富山）
7	書写 ～平仮名2～（富山）
8	書写 ～平仮名3，板書の基本・チョークの持ち方～（富山）
9	書写 ～片仮名～（富山）
10	書写 ～学習指導要領「書写」の内容，漢字1：点画の種類と筆順～（富山）
11	書写 ～漢字2：文字の組み立て～（富山）
12	書写 ～漢字3：文字の大きさや配列～（富山）
13	書写 ～読みやすい板書を考える～（富山）
14	書写 ～書写指導の教材を作る（ICT機器を利用）～（富山）
15	まとめと振り返り，文章表現の工夫，文字指導について考える～（富山）

評価

演習等への参加状況及び作成物の状況70%，最終的な論述レポート30%とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】シラバス及び次回予告に即して、テーマに関する資料を集めたり、自身の課題を把握したりする（各授業に対して45分）。書写の学修においては，Bまたは2Bの鉛筆を準備すること。

【事後学修】実技を伴う学修においては復習するとともに、日常生活での活用を意識的に行う（各授業に対して45分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』

【推薦書】教室で紹介する。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	書写・文章表現演習（応用）		
担当教員名	富山 哲也、綾井 桜子、小口 かおり		
ナンバリング	KBd378		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2，4に該当する。

小学校教員として文字指導を行うための知識と技能，社会人として必要な論理的な文章を書くための知識と技能を身に付ける。

科目の概要

小学校国語の書写に関する指導内容に即し，文字指導に必要な用具（毛筆を中心とする）の扱いや運筆，文字についての知識等を実技を通して学ぶ。自身の文字を書く技能を高めるとともに，毛筆・硬筆を用いた書写の指導と評価の在り方について理解を深める。

文章表現では，論理的な文章を書くことの基礎を学ぶとともに，レポートと小論文を実際に作成しながら，探求したことを適切に文章化するための知識・技能を高める。

学修目標（＝到達目標）

- 1.文字を手書きすることに関心をもち，教育現場や社会で通用する文字や文章を書こうとする。
- 2.毛筆による書写の指導と評価を行うための基本的な知識と技能を身に付ける。
- 3.精度の高い論理的な文章を書くとともに，レポートと小論文を書くための知識・技能を身に付ける。

内容

この授業は、毛筆を中心とした書写、論理的な文章を書くことについて実践的な演習を中心に学修を進めていく。

1	ガイダンス，文章表現 ～論理的な文章を書く基本～（富山）
2	文章表現 ～批判的に読んで考えを書く～（富山）
3	文章表現 ～根拠と意見を踏まえて考えを書く～（富山）
4	文章表現 ～多様な意見を踏まえて自分の考えを書く～（富山）
5	文章表現 ～「引用」した文章を書く～（綾井）
6	文章表現 ～よりよいレポートを書くために～（綾井）
7	文章表現 ～小論文を書く（1）よい小論文とは～（綾井）
8	文章表現 ～小論文を書く（2）実践編～（綾井）
9	書写 ～毛筆と硬筆に関連した基本的な執筆法～（小口）
10	書写 ～用具・用材とその扱い方～（小口）
11	書写 点画の書き方，画の組み立て方～（小口）
12	書写 ～文字の組み立て方～（小口）
13	書写 ～平仮名・片仮名の書き方～（小口）
14	書写 ～文字の大きさ・配列・字配り～（小口）
15	書写 ～学習指導要領と指導計画，評価について～（小口）

評価

演習等への参加状況と毎回の提出物の状況60%、最終的な作成物40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

書写の内容については毎回実技を行うので、道具（毛筆、墨、硯、半紙）を必ず持参すること。

提出物については次回以降の授業で返却し、質問等にも回答する。

授業外学習

【事前準備】シラバス及び予告で示した課題に基づき、必要な事前準備を行う（各授業に対して45分）。書写の内容については、毛筆等の道具を持参すること（「評価」の欄、参照）。

【事後学修】返却された課題や作品に基づいて、復習をする（各授業に対して45分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語編』

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	書写・文章表現演習（応用）		
担当教員名	富山 哲也、綾井 桜子、高橋 英明		
ナンバリング	KBd378		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2，4に該当する。

小学校教員として文字指導を行うための知識と技能，社会人として必要な論理的な文章を書くための知識と技能を身に付ける。

科目の概要

小学校国語の書写に関する指導内容に即し，文字指導に必要な用具（毛筆を中心とする）の扱いや運筆，文字についての知識等を実技を通して学ぶ。自身の文字を書く技能を高めるとともに，毛筆・硬筆を用いた書写の指導と評価の在り方について理解を深める。

文章表現では，論理的な文章を書くことの基礎を学ぶとともに，レポートと小論文を実際に作成しながら，探求したことを適切に文章化するための知識・技能を高める。

学修目標（＝到達目標）

- 1.文字を手書きすることに関心をもち，教育現場や社会で通用する文字や文章を書こうとする。
- 2.毛筆による書写の指導と評価を行うための基本的な知識と技能を身に付ける。
- 3.精度の高い論理的な文章を書くとともに，レポートと小論文を書くための知識・技能を身に付ける。

内容

この授業は、毛筆を中心とした書写、論理的な文章を書くことについて実践的な演習を中心に学修を進めていく。

1	ガイダンス，文章表現 ～「引用」した文章を書く～（綾井）
2	文章表現 ～よりよいレポートを書くために～（綾井）
3	文章表現 ～小論文を書く（1）よい小論文とは～（綾井）
4	文章表現 ～小論文を書く（2）実践編～（綾井）
5	文章表現 ～論理的な文章を書く基本～（富山）
6	文章表現 ～批判的に読んで考えを書く～（富山）
7	文章表現 ～根拠と意見を踏まえて考えを書く～（富山）
8	文章表現 ～多様な意見を踏まえて自分の考えを書く～（富山）
9	書写 ～毛筆と硬筆に関連した基本的な執筆法～（高橋）
10	書写 ～用具・用材とその扱い方～（高橋）
11	書写 点画の書き方，画の組み立て方～（高橋）
12	書写 ～文字の組み立て方～（高橋）
13	書写 ～平仮名・片仮名の書き方～（高橋）
14	書写 ～文字の大きさ・配列・字配り～（高橋）
15	書写 ～学習指導要領と指導計画，評価について～（高橋）

評価

演習等への参加状況と毎回の提出物の状況60%、最終的な作成物40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

書写の内容については毎回実技を行うので、道具（毛筆、墨、硯、半紙）を必ず持参すること。

提出物については次回以降の授業で返却し、質問等にも回答する。

授業外学習

【事前準備】シラバス及び予告で示した課題に基づき、必要な事前準備を行う（各授業に対して45分）。書写の内容については、毛筆等の道具を持参すること（「評価」の欄、参照）。

【事後学修】返却された課題や作品に基づいて、復習をする（各授業に対して45分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	ことばのしくみ		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBe379		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2に該当する。

本科目は、英語教諭資格関連分野の英語学に関する科目である。統語論・意味論・形態論・語用論等の言語学の諸分野については「英語学」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学Ⅰ・Ⅱ」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

科目の概要

対象言語としては主に英語を取り上げながら、心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- ・心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を理解する。
- ・言語学のいくつかの分野に関する基本的な考え方に触れることを通して、「ことば」を科学的に分析するとはどうことかを学ぶ。

内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行う。理解を深めるための演習・課題の提出・ペアワークにより、学びを深める。また、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストを行う。

1	言語学のめざすもの
2	言語とは何か(1)：(人間)言語の特性
3	言語とは何か(2)：生成文法理論の考え方
4	言語とは何か(3)：動物の「言語」と人間言語
5	言語の習得<心理言語学(1)>：言語獲得の特性
6	言語の習得<心理言語学(2)>：言語獲得に関する諸説
7	言語の習得<心理言語学(3)>：言語獲得研究
8	言語の習得<心理言語学(4)>：各モジュールの習得課程
9	言語の多様性<社会言語学>(1)：社会言語学の対象
10	言語の多様性<社会言語学>(2)：言語内的要因
11	言語の多様性<社会言語学>(3)：言語外的要因
12	言語の多様性<社会言語学>(4)：言語変化のメカニズム
13	言語と脳<神経言語学>(1)：言語領域と機能局在
14	言語と脳<神経言語学>(2)：言語信号の伝達
15	まとめ

評価

期末試験70%，小テスト（毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います）30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回授業の最後に回収するリアクションペーパーを翌週にコメントをつけて返却する。また、疑問点等については授業の冒頭で解説し、学習の理解を深める。

授業外学習

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。(20分程度)

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。また、深く学びたいと思った点については推薦書・参考文献を読むこと。(30分程度)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

『言語の獲得と喪失』，橋田浩一他著，岩波書店，3400円．

科目名	英語学		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBe380		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2に該当する。

本科目は、英語教諭資格関連分野の英語学に関する科目である。言語学の関連分野については「ことばのしくみ」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学I・II」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

科目の概要

英語を科学的に分析・研究する対象として扱い、英語学の中核をなす形態論 (英語の単語の構造)、統語論 (英語の文の構造)、意味論 (意味の構造) を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学ぶ。適宜、大多数の学生の母語である日本語と比較することにより英語という言語の持つ特徴を浮き彫りにできるようにしたい。

学修目標 (= 到達目標)

(i) 英語学の中核をなす形態論、統語論、意味論を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学ぶ。(ii) 言語を学習の対象ではなく科学的な分析の対象として捉える。

内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行う。理解を深めるための演習・課題の提出・グループワークにより、学びを深める。また、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストを行う。

1	言語を科学的な分析の対象として捉える方法
2	形態論(1): 形態論のめざすもの
3	形態論(2): 語の特徴
4	形態論(3): 形態素分析
5	形態論(4): 語形成過程 (造語・借用・逆形成・短縮・頭文字語・混成)
6	形態論(5): 語形成過程 (派生・屈折・複合・転換)
7	統語論(1): 統語論とは
8	統語論(2): 文法性の判断
9	統語論(3): 句構造1 (構成素・品詞)
10	統語論(4): 句構造2 (句構造標識・句構造の型・文の無限性)
11	統語論(5): 文法操作
12	意味論(1): 意味論のめざすもの
13	意味論(2): 語や文の意味の記述
14	語用論: 言語はどのように使用されるのか・発話行為・会話の含意
15	まとめ

評価

期末試験70%，小テスト（毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います）30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回授業の最後に回収するリアクションペーパーを翌週にコメントをつけて返却する。また、疑問点等については授業の冒頭で解説し、学習の理解を深める。

授業外学習

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。(20分程度)

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。(30分程度)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

『文法』，益岡隆志他著，岩波書店，3400円． 801.08/1/5

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

科目名	英語音声学（子音と母音）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	KBe381		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

児童教育学科ディプロマポリシー2に該当する。特に、英語の「教材研究、教材解釈と授業づくり」の力の一部となる、英語音声に対する理解を深め、実践力を向上させる。

児童生徒は外国語音声を聞いた通りに再生できる場合があるが、大人である教師は、紛らわしい音同士の構音上の違いを意識して練習することが重要である。理解に基づく自信をもって、伝わり易い英語を指導できるようにする。

1. 音と文字を区別する
2. 子音の構音上の諸特徴を理解する
3. 個々の言語は母音空間を異なる方法で切り分けていることを理解する
4. 半母音・弱母音の構音上の特徴を理解する

内容

用意された質問紙にそって、ペアで教えあうことによって理解を深める。Quizzes・Exercize・Comparisonをペアで発音し分け、ききあってコメントしあいながら進める。

1	音声器官・英語の閉鎖音 /p, t, k: b, d, g/
2	英語の /t/ の発音・気音
3	英語の鼻音（ /m, n/ と軟口蓋鼻音）
4	英語の摩擦音（ /f, s, h; v, z/ と歯摩擦音、硬口蓋歯茎摩擦音）
5	英語の子音の発音仕分け（ /s; z/ と歯摩擦音、 /b/ と /v/ など）
6	綴り字と発音（子音字の読み方）
7	綴り字と発音（母音字1字の短音読み）
8	英語の短母音
9	綴り字と発音（母音字1字の長音読み）
10	英語の二重母音
11	英語の長母音・母音字 a, i の大陸読み
12	綴り字と発音（母音字2字）
13	英語の r の二重母音
14	母音・子音・半母音と音節、弱母音
15	まとめ

評価

授業での参加度20%、毎回のレポート30%、録音20%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートはコメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】教科書の各回の指定ページの太字語句の定義・例・不明点をA4紙1～2枚にまとめ、授業で提出する（各授業に対して45分）

【事後学修】英語の映画やテレビの英語音声を聴いて、各回の授業で学んだ音声の特徴が観察できるかどうかをA4紙1枚にまとめ、授業で提出する（各授業に対して45分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】竹林滋 / 斎藤弘子（2008），新装版『英語音声学入門』（音声CD付），大修館書店．

【推薦書】牧野武彦（2005），『日本人のための英語音声学レッスン』（音声CD付），大修館書店．

科目名	英語音声学（発話実践）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	KBe381		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

児童教育学科ディプロマポリシー2に該当する。特に、英語の「教材研究、教材解釈と授業づくり」の力の一部となる、英語音声に対する理解を深め、実践力を向上させる。

英語のイントネーションは、「語句のまとまり付け・焦点位置選択・ピッチ変化の形の選択」に分解すれば、学習が可能となる。理解に基づく自信をもって、自然なイントネーションで英語を話し、指導できるようにする。

1. 英語の音節構造を理解し、日本語の拍との違いを意識できるようにする
2. 複合語アクセントと句アクセントを区別して発音できる
3. 文脈に応じて、適切な音節に焦点を当てて発話できる
4. 発話の中の弱音節を弱く速く発音できる

内容

用意された質問紙にそって、ペアで教えあうことによって理解を深める。Quiz・Exercise・Comparisonをペアで発音し分け、ききあってコメントしあいながら進める。下の内容は推薦書の後半の内容であり、教科書確定（出版）後に変更される可能性がある。著者からは教科書としての利用許可の内諾を得た。

1. 個々の音（子音・母音）についての概観
2. 英語の音節とは
3. 英語の子音連続内の半母音の発音
4. 暗い//の発音
5. 鼻腔開放・側面開放
6. 単語間のつながり
7. 弱母音
8. 脱落・同化
9. 複合語アクセント・句アクセント
10. 音調群
11. 上昇調の音調群
12. 下降調の音調群
13. 下降上昇調の音調群
14. 特殊なイントネーション
15. まとめ

評価

授業での参加度20%、毎回のレポート30%、録音20%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートはコメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】教科書の例文をドリル音読すること（各授業に対して45分）

【事後学修】英語の映画やテレビの英語音声聴いて、各回の授業で学んだ音声の特徴を観察できるかどうかをA4紙1枚にまとめ、授業で提出する。（45分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指示する。これから出版が予定されている電子書籍の利用を著者の許諾を得て検討中。

【推薦書】竹林滋 / 斎藤弘子 (2008), 新装版『英語音声学入門』（音声CD付）, 大修館書店.

科目名	ことばへの気づきワークショップ		
担当教員名	向後 朋美、設楽 優子		
ナンバリング	KBe382		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科学位授与方針2に該当する。

本科目は、英語教諭資格関連分野の英語学に関する科目である。「ことばのしくみ」と「英語音声学I」で学んだことをふまえるため、この2科目を履修していることが履修の条件となる。また、少なくとも「英語学」「英語音声学II」と同時か、または、履修後に履修することが望ましい。

科目の概要

ことばのしくみや働きについての関心を深め、ことばの楽しさ、豊かさに気づくことができるように、協同学習を取り入れた授業を行う。また、小学校外国語活動とのつながりや活用法についても解説を加える。

学修目標 (= 到達目標)

ことばとは何かを知るため、まずは母語である日本語を観察し、次にそれを英語と比較しながら、両者の仕組みや働きの共通性と相違性を明示的に示せるようになることを目指す。また、ことばの音は文字と同じではないことを知り、発音と正書法の関係の日・英それぞれで比べ、言語音声一般に関する基本的理解を養う。

内容

レポーターの学生の発表、グループワーク、ディスカッションを取り入れた授業を行う。

1	ガイダンス：向後
2	語のしくみ (いろいろな意味を持つ言葉・同じ読み方の漢字)：向後
3	語のしくみ (似た意味の言葉・和語・漢語・外来語・反対の意味の言葉)：向後
4	語のしくみ (なかまの言葉と漢字・熟語の意味と成り立ち)：向後
5	語のしくみ (複合語)：向後
6	文字 (日・英)：設楽
7	日本語沖縄諸方言 (母音の観察)：設楽
8	単音節語フォニックス (英)：設楽
9	多音節語綴り字規則 (英)：設楽
10	複合語の発音 (日・英)：設楽
11	節 / 文の発音 (英中心)：設楽
12	文のしくみ (言葉を分類する・主語と述語)：向後
13	文のしくみ (ようすをあらわすことば・修飾語)：向後
14	文のしくみ (文の組み立て・ことばの法則と例外)：向後
15	まとめ (音声・ことばの規則性に関する考察)：設楽

評価

平常点（課題、授業への参加度）50%、授業内の発表・教材作成50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回授業の最後に回収するリアクションペーパーを翌週にコメントをつけて返却する。また、疑問点等については授業の冒頭で解説し、学習の理解を深める。

授業外学習

【事前準備】ワークショップ形式の授業の前には、発表できるような形の資料の準備をすること(1時間程度)

【事後学修】授業で使用したパワーポイント・資料は授業用フォルダに保存しておくので各自確認すること。授業内でスマホを使用したパワーポイントの撮影は認めない。(20分程度)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

大津由紀雄・窪園晴夫(2008), 『ことばの力を育む』, 慶應義塾大学出版会, 1600円+税.

国際交流基金(2009), 日本語教授法シリーズ第2巻『音声を教える』, ひつじ書房, 1500円.

松香洋子(2008), 『フォニックスってなんですか?』, mpi Inc., 1800円.

ジョリーラーニング社著・山下桂世子訳(2017), 『はじめてのジョリーフォニックス ティーチャーズブック 』

小学校『国語』, 光村図書出版.

科目名	英米文学の流れ		
担当教員名	榊原 理枝子		
ナンバリング	KBe383		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

(科目の性格、概要) (1)児童教育学科の学位授与方針1・2・3・4に該当します。(2)教育職員免許法施行規則に定める中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教科に関する科目」の「英米文学」に当たり、英語教諭資格関連分野の「英米文学に関する科目」に関する科目です。英語の教職課程を履修している学生は「英米文学の流れ」(前期開講)、「英米小説と女性」(後期開講)の2科目を両方必ず履修してください。(3)英語教職課程とは関係なく履修することもできます。

(学修目標) 英米文学の流れ、つまり英米文学史の知識を習得してもらいます。英米文学を理解するには、その歴史、すなわち文学史の知識は必須です。

内容

I:文学は歴史、社会、文化と密接に関わっており、英米文学史を学ぶことによって英米文化圏について知ることができます。狭い意味での文学だけではなく、英米文化全般に関心があれば、教職履修者でなくても学ぶ喜びを感じられると思います。1回目から6回目はアメリカ文学史を、7回目から15回目はイギリス文学史を学びます。

II:アクティブラーニングの実践として学生に発表等をしてもらいますし、能動的な授業参加という観点から小テスト等もします。そのうえで、学生の関心等により、以下の授業予定、扱う作家や作品、順番などを変更することがあります。

III:テスト等は別日程では受けることはできません。発表等も別日程ではできません。健康管理等には注意してください。テスト、発表時にやむを得ない事情で欠席する場合は、指定したアドレスに指定した時刻までに連絡がないと単位は無理。

IV:授業予定

(1回目)ガイダンス:英米文学と英米の歴史、アメリカ文学黎明期(2回目)Franklinなど(3回目)Poe, Hawthorneなど(4回目)Melville, Twainなど(5回目) Dickinson, Dreiser

など(6回目)Fitzgerald, Faulkner, Salingerなど。アメリカ文学まとめ。映画

『フォレスト・ガンブ』を見て、アメリカ1950年代以降の歴史やアメリカ的なメンタリティを概観。

(7回目)イギリス文学導入、Chaucerなど (8回目)Shakespeare(9回目)Milton, Pope, Defoe, Swiftなど (10回目)Fielding, Blakeなど (11回目) Wordsworth, Coleridge, Shelley, Keatsなど(12回目) Austen, Dickens

, Thackeray, Brontë, Carrollなど(13回目)Hardy, Wilde, Conrad, Shaw, Kipling, Yeatsなど。また、16世紀から20世紀までのイギリス文学史をヴァージニア・ウルフ『オーランド』とその映画化作品に見る。(14回目)Joyce, Woolf, Lawrence, T. S. Eliot, Forsterなど。(15回目)Maugham, Orwell, Greeneなど。イギリス文学まとめ。

評価

総合評価60点以上が合格。(1)発表等、授業への取り組み:40%(2)発表、レポート等や英米小説の知識等のテスト、定期試験:60%(レポート等は学期途中。授業でコメント等を行う。テスト類は採点して返却解説。)(3)万が一

定期試験を欠席する際は診断書等の証明と、指定した時刻までに指定したアドレスへのメールが必要。なければ単位は無理

。

授業外学習

(事前学修)教科書、プリント等の指定範囲を勉強する。小テストや発表等の準備。(事後学修)教科書、プリント等の復習。<事前、事後学修合わせて毎日20分から40分程度。>

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

(教科書)福田『イギリス・アメリカ文学史』(南雲堂)(フジショップ扱い)(一生使える良書で定価2600円はお得。)+プリント等。(推薦書など)授業で指示。(その他)英米文学史の授業なので辞書は毎回必要。

科目名	英米小説と女性		
担当教員名	榊原 理枝子		
ナンバリング	KBe384		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

(科目の性格、概要) (1)児童教育学科の学位授与方針1・2・3・4に該当します。(2)教育職員免許法施行規則に定める中学校・高等学校教諭の免許取得に必要な教職に関する科目のうち、「教科に関する科目」の「英米文学」に当たり、英語教諭資格関連分野の「英米文学に関する科目」に関する科目です。英語の教職課程を履修している学生は「英米文学の流れ」(前期開講)、「英米小説と女性」(後期開講)の2科目を両方必ず履修してください。(3)英語教職課程とは関係なく履修することもできます。

(学修目標) 英米小説、そしてそれを取り巻く歴史や文化などに関する知識を習得してもらいます。ただし、「英米小説」というテーマはあまりに大きいので、この授業では「女性」という観点から英米小説に取り組みます。

内容

I: 英米小説を「女性」という観点から学ぶ際に看過できない問題である社会、家族、恋愛、結婚、相続などを考慮して、主にジェイン・オースティン『高慢と偏見』(『自負と偏見』の訳もある)とシャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』を取り上げます。それぞれの作品の映像化作品も見て、理解を深めてもらいます。英米文学やジェンダーの問題に関心があれば教職履修者でなくても学ぶ喜びを実感できると思います。

II: アクティブラーニングの実践として学生に発表等してもらいます。そのうえで、学生の関心などにより、以下の授業予定を変更することもあります。

III: テスト等は別日程では受けることはできません。また発表等も別日程ではできません。健康管理等には注意してください。テスト、発表時にやむを得ない事情で欠席する場合は、指定したアドレスに指定した時刻までに連絡がないと単位は無理。

IV: 1回目から8回目までは主に『高慢と偏見』を、9回目から15回目までは主に『ジェイン・エア』を扱います。それぞれの作品は、抜粋をプリントで配布して読みます。

V: 授業予定

(1回目) ガイダンス: 英米文学と女性について。『高慢と偏見』への導入。(2回目) オースティンについて。相続と女性。ベネット夫妻とベネット5人姉妹。(3回目) 恋愛、結婚と女性。長女ジェインの恋。(4回目) 相続と結婚。(5回目) 当時のイギリス社会における結婚と女性。(6回目) 誤解と行き違い。高慢、自負がどう変わるか。(7回目) それぞれの成長。映画化作品『プライドと偏見』を見て、当時の人々の生活や服装などを映像で見てもらう。(8回目) 『高慢と偏見』最終章。登場人物たちのその後。

(9回目) 『ジェイン・エア』導入。孤児ジェインの不遇な少女時代。(10回目) ジェインと学問。女性の自己実現と当時のイギリス社会。(11回目) ガヴァネス(住み込み家庭教師)について。(12回目) ジェインの恋。BBCドラマ Jane Eyreを見て、建物などを映像で見てもらう。(13回目) ヴィクトリアニズムについて。(14回目) ジェインの選択。(15回目) 『ジェイン・エア』最終場面。女性と英米小説、まとめ。

評価

総合評価60点以上が合格。(1)発表等、授業への取り組み:50%(2)レポート等や英米小説の知識等のテスト、定期試験:50%(レポート等は学期途中。授業でコメントなどを行う。テスト類は採点して返却解説。)(3)万が一が一定期

試験を欠席する際は診断書等の証明と、指定時刻までに指定したアドレスへのメールが必要。なければ単位は無理。

授業外学習

(事前学修) プリント等の課題を授業前に勉強。発表等の準備。(事後学修) プリント等を読んで復習。英語の語句、表現等を覚える。<事前、事後学修合わせて毎日20分から40分程度。>

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

(教科書) Jane Austen, *Pride and Prejudice* / Charlotte Bront

?, *Jane Eyre*の抜粋プリント。その他、プリント等を配布。(推薦図書) 授業内で適宜紹介(その他) 英文を読むので辞書は毎回必要。

科目名	異文化コミュニケーション		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング	KBe385		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童教育学科学位授与方針 1 に該当する。

学科選択科目として、異文化コミュニケーションの特徴を学ぶ。

異なる文化的背景を持つ人と出会ったとき、私たちはうまくコミュニケーションができないと感ずることがある。それは、手段 (言語、非言語) が充分でないからなのか、それとも、考え方 (文化) が違うからなのだろうか。授業では、特に英語圏の文化を比較の対象としながらコミュニケーションの方法と文化のつながりについて考え、異文化間のコミュニケーションの特徴を探る。さらに、「ネット社会」の急速な発展など最近の社会の変化が、異文化コミュニケーションのあり方に及ぼしている影響についても考えてみたい。

文化の違いとは何かを理解すると同時に、自文化についても考え直すきっかけとする。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	異文化コミュニケーション研究の歴史 (1) : 外なる異文化
2	異文化コミュニケーション研究の歴史 (2) : 内なる異文化
3	コミュニケーション : 何を伝えるか
4	コミュニケーション : どうやって伝えるか
5	異文化 : 文化とは何か
6	非言語コミュニケーション (1) ; 動作
7	非言語コミュニケーション (2) : 外見
8	言語によるコミュニケーション (1) : 英語と日本語
9	言語によるコミュニケーション (2) : 思考
10	コミュニケーション・スタイル
11	異文化理解
12	メディアと異文化
13	国際社会における異文化コミュニケーション : 国際公用語としての英語
14	多文化世界 : 異文化の融合と共生
15	まとめ

評価

レポート (50%)、試験 (50%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

授業外学習

【事前予習】身の回りで異文化と感じたことを記録しておく（各授業に対して45分）

【事後学修】授業での説明を参考に、それが異文化と感じた理由を確認する（各授業に対して45分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】石井敏他 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣 2013年

【推薦書】石井敏 他 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣選書 1997年 361.54/1

【参考図書】古田暁 他 『異文化コミュニケーション・キーワード 新版』有斐閣双書 2001年

科目名	比較文化論		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	KBe386		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。

本科目は「専門選択科目」の「総合文化領域」の科目のひとつである。「学際的な基礎知識を主体的に身につける」、「学際的な専門知識を主体的に身につける」、「多様な文化を総合的に捉える」ことが求められる。また、本科目は中学校、高等学校教諭一種免許状 (英語) の「教科に関する科目」の「異文化理解」の区分に属する科目でもある。

科目の概要

グローバル社会においては異なる文化をもつ人々への理解と尊重が必要となってきた。英語圏の文化の思考や様式に関する知識を身につけるとともに、英語による表現力への理解を深めていく。また、多文化社会の現状と課題にも触れながら自文化の持つ非常識・常識の概念を見つめなおし多様な文化を複眼的にとらえる力も養う。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 多文化社会における異文化コミュニケーションの現状、課題、問題点について理解すること
- (2) 文化の多様性、異文化交流の意義について理解すること
- (3) 英語圏の歴史、文化、社会についての理解を深める

内容

異文化 (英語圏) の日常的な文化事象を取り上げながら、日本文化における類似の事象や日本人のとらえかたについて理解するとともに、その背景にある事情について考察していく。講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れながら学びを深める。

1	ガイダンス (授業の進め方、自己紹介など)
2	文化とは何か、比較文化とは何か
3	英語圏文化の特色
4	日本文化の特色
5	言語に表れる文化の差異 (英語圏)
6	言語に表れる文化の差異 (日本語)
7	異文化コミュニケーションにおける問題と課題
8	教育システムの比較
9	社会生活とマナーについての比較
10	宗教と年中行事
11	娯楽の比較 (演劇、映画、伝統芸能)
12	芸術文化 (日本ブーム、日本で人気の英文学作品)
13	世界から見た日本
14	まとめ
15	プレゼンテーション

評価

授業への参加度30%、毎回のコメント10%とし、発表内容60%で総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】各回で取り上げるトピックやキーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容のみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点についても調べてA41枚にまとめる。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントすること。

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 , 3 , 4 に該当する。

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマのもち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等（各授業に対して60分程度）。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備（各授業に対して60分程度）。

【事後学修】質疑応答の内容、教員や同じゼミの学生からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる（各授業に対して60分程度）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	教員未設定		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科 ディプロマポリシー1, 4に該当する。

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究の準備段階として自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。

科目の概要

各自の興味関心のある研究分野から問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報收拾と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

本授業では自らの学びをプレゼンテーションし、聴衆とディスカッションしながら学びを深めていく。

前期

- 1)各自、興味があるテーマについて文献を調べ、検索したものを抄読し、研究の進め方の基礎を学ぶ。
- 2)研究計画の立て方の基本を学び、研究テーマに応じた研究計画書を作成する。
- 3) 業研究の内容を絞り込むために研究計画の発表、質疑応答、討論を行ない、研究テーマを明確化させる。

後期

- 1)調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法を共有する
- 2)研究を進める上で、倫理的な配慮について学ぶために倫理審査に必要な書類を作成する。
- 3)学外で授業の機会も設けることがある

評価

研究テーマに取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーション等を評価の対象とする。レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)、文献検索や情報収集など研究に取り組み方(40%)で評価し、総合評価60点以上とする。

授業外学習

事前準備：文献検索、学外での情報収集、方法の検討、統計分の復習、レポートやプレゼンテーションの準備などを行う。

事後学習：自らの研究計画に従い、研究を発展させる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】研究計画書の考え方 妹尾堅一郎 ダイヤモンド社

理科系の作文技術 木下是雄 中公新書

【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1、2、3 に該当する。

本科目は、児童教育学科教育課程編成方針の演習に位置づけ、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解し、4年に向けての自己の学修課題やテーマを設定する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

卒業研究のテーマと内容について、個別に指導する時間を設けて、内容を深める。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

卒業研究のテーマと内容について個別に指導する時間を設けて、内容の修正を重ねていく。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。(毎週1時間程度)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針の3,4に該当する。この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習(ゼミ)では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び

提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。
- 後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。
- 【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
- 【推薦書】
- 【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の学位授与方針4に該当する。

本科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動する。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解する。
2. 4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習(ゼミ)では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は、ディスカッションやプレゼンテーションを中心に進める。担当教員の専門分野をもとにしつつ、学生が自らテーマを設定する。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。共通するテーマについては、共通の文献・資料を紹介するので、読み、議論を行う。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期は、前期で学んだことを活かして文章化し、論文作成につなげる。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献(先行研究)の収集を行う。

自分の問いを明確化し、研究を進める準備に取りかかる。自分の問いを文章化し、問いについて明らかにする過程をゼミの中で発表する。研究・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物（60点）、ゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢・進捗状況を定期的に報告する（40点）、とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】課題への取り組み（文章化）については、コメントを記載し、次回以降の授業にて返却する。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備（毎週、2時間程度）。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる(文章化する)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。

【推薦書】その都度、提示する。

【参考図書】教育思想史学会編『教育思想事典（増補改訂版）』勁草書房、2017年。日本比較教育学会編『比較教育学事典』東信堂、2012年。ポーラ・S・ファス編『世界子ども学大事典』原書房、2016年。ほか、授業時に提示する。

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。

本科目は、児童教育学科教育課程編成方針演習に位置づき、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、受講生自らが興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。故に、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解し、自己の学修課題やテーマを設定する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

卒業研究ゼミナールでは、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

卒業研究のテーマと内容について個別に指導する時間を設けて、内容を深める。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会を設ける予定である。また、卒業研究のテーマの絞り込みと内容の決定に向けて次のような活動を展開し、卒業研究の骨子を確立していく。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備を進める。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

卒業研究のテーマと内容について個別に指導する時間を設けて、内容の修正を重ねていく。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認と質疑に返答し、学習理解を深めるようにする。

授業外学習

【事前準備】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等（毎週、1時間程度）。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備（毎週、1時間程度）。

【事後学修】質疑応答の内容、教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる（毎週、1時間程度）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1.2.3.4に該当する。

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

ゼミナールにおいては、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。英語教育、コミュニケーション等の分野を中心に、各自のテーマにそった研究を推進し、卒業論文へつなげていく。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、資料収取や論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、グループディスカッション等を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

9月上旬（後期開始前）に合宿を実施し、各自、中間発表を行う。

後期には、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。
加えて、卒業論文作成のための基礎的技能であるタッチタイピングをマスタ する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関

する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、60分程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、120分程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】白井利明・高橋一郎、よくわかる卒論の書き方、ミネルヴァ書房

【推薦書】【参考図書】授業において紹介する。

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童教育学科ディプロマポリシーの1～4に対応します。

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

アクティブラーニングとして、討論、発表、省察、実地調査などを実施します。

演習(ゼミ)では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

発表内容及び提出物の評価(60点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢(40点)という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業において作成した省察内容を、次回紹介しながら、内容を確認し、定着を図る。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(各授業に対して60分)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科のDP1・4に該当する。この科目のねらいは、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備として、調査研究の方法や論文作成の方法等を学ぶとともに、自らの興味・関心をもつ問題や課題の解決を目指し、その探究の方法を身につけることである。3年次のゼミナールは4年次の卒業研究に連動するのである。研究分野に関する情報を収集し、研究のテーマや内容を検討しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法を理解し、4年次の卒業研究を迅速・適確に展開できるよう、研究仮説の設定や計画の立案、テーマの仮設定などを行う。

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備（毎週、2時間程度）。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させ、加除・訂正したものを提出する。(毎週、1時間程度)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1,2に該当する。本科目は、学位授与方針の教職に関する学修を自ら統合し、大学における学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自己の興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身に付けるとともに、特別支援学校等の教育現場において自己の課題解決に向けて学び続けようとする姿勢を身に付けることをねらいとする。そのため、4年次の卒業研究に向けて、特別支援学校教育に係わる研究分野を幅広く理解しておく必要がある。

科目の概要

特別支援学校教育に関する内容から各自の興味・関心のある内容について現状を把握する方法、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方、調査方法などを学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

1. 卒業研究の進め方や研究テーマの設定等に関する方法論を理解し、研究テーマを決定できる。
2. 卒業研究のテーマを具現化し、文献の収集、調査内容・方法等を検討できる。
3. 研究目的や方法について方向性を持ち、調査等を実施できる。

内容

この授業は、学生の自主的な活動による演習を基本に、フィールドワーク、プレゼン等を取り入れながら学びを深めていく。演習では、特別支援学校教育に係る内容から各自の興味・関心に応じた卒業研究の内容や進め方を模索するプロセスを学んでいく。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。

前期には、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する。

後期には、特別支援学校の授業参観など学外授業の機会も設ける。また、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を実施する。

自己の興味・関心のある研究内容に関する資料・文献を収集する。

調査項目の作成、調査等を実施し、4年次の卒業研究の基礎研究を実施する。

その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに係る発表内容及び提出物の評価(60点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢(40点)で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業で研究テーマに係る課題を提示し、次回の授業で課題についてディスカッションを行い、学修理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、研究手法の検討、報告の準備等を行い(毎週、2時間程度)、後期には、各自のテーマに応じた研究、調査を進め、まとめる。(毎週、2時間程度)

【事後学修】演習での質疑応答、担当教員からの指導等を踏まえ、各自の研究を発展させる。(毎週、2時間程度)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

使用しない。

【推薦書】

特別支援教育の基礎 大学図書出版

【参考図書】

授業内で必要な書籍、論文等を紹介する。

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	齋藤 忍		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針2.4に該当する。本科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけるとともに、特別支援教育の分野について教育現場においても自己の課題解決に向けて学び続けようとする姿勢を身に付けることをねらいとしている。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

学修目標（=到達目標）

1. 卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解する。
2. 卒業研究のテーマを具現化し、調査・療育等の準備をすることができる。
3. 研究目的や方法について方向性をもち、調査・療育等に取り掛かることができる。

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。このゼミでは、発達障害やその他の教育的支援ニーズをもつ幼児・児童・生徒等の、多様な学びを支える支援に関する内容について、研究を深める。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。また、卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深め合う。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成、療育の計画等、研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

後期には、小学校の授業参観、特別支援教育センターに相談依頼のあった事例を通しての臨床研究など、先進校視察、各種アンケートやインタビュー、療育等の機会も設けることがある。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて、また、療育等の振り返りにおいて、コメントを付す。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等を行い(毎週1時間程度)、夏期休業中に実施する特別支援教育ゼミ合宿で中間報告を行う。後期には、各自のテーマに合わせた研究・調査・療育等を進め、卒業研究執筆のための準備を行う（毎週2時間程度）。

【事後学修】質疑応答の内容、教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	三藤 あさみ		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2 . 4 に該当する。

本科目は、大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備として、調査研究の方法や論文作成の方法等を学ぶとともに、自らの興味・関心をもつ問題や課題の解決を目指し、その探究の方法を身につけることである。3 年次のゼミナールは 4 年次の卒業研究に連動するのである。既に参考として提示した研究分野に関する情報を収集し、研究のテーマや内容を検討しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法を理解し、4 年次の卒業研究を迅速・適確に展開できるよう、研究仮説の設定や計画の立案、テーマの仮設定などを行う。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎回最後の振り返りレポートに記された疑問点、不明点の補足説明をして研究が深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる(毎週、2時間程度)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究ゼミナール		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KBf387		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	3	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 , 3 に該当する。この科目のねらいは、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備として、調査研究の方法や論文作成の方法等を学ぶとともに、自らの興味・関心をもつ問題や課題の解決を目指し、その探究の方法を身につけることである。3 年次のゼミナールは 4 年次の卒業研究に連動するのである。既に参考として提示した研究分野に関する情報を収集し、研究のテーマや内容を検討しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法を理解し、4 年次の卒業研究を迅速・適確に展開できるよう、研究仮説の設定や計画の立案、テーマの仮設定などを行う。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に合わせて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備（毎週、2時間程度）。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する

科目名	卒業研究		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 , 3 , 4 に該当する。

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年でのゼミナールに引き続き、自らの興味・関心をもつ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次のゼミナールでテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味・関心をもった分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめる。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しをもつことを目指す。発表や質疑応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・テーマ (研究題目) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める（各授業に対して60分）。

【事後学修】教員や同じゼミの学生からの助言を基に研究を進める（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	教員未設定		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科 ディプロマポリシー1, 4に該当する。

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめとして、3年次からの演習の引き続き自らが興味、関心をもつ分野に関してテーマを絞り、研究論文としてまとめることを目標とする。

科目の概要

各自の興味関心のある研究分野から、資料や文献などの情報収集と整理を行い、卒業論文としてまとめていく。

学修目標

自らが興味関心をもって決めた研究テーマについて研究論文としてまとめ上げる。

内容

卒業研究では3年次の演習で自らの興味関心をもった分野についてプレゼンテーションし、聴衆とディスカッションしながら学びを深めていく。

前期は進度の確認や研究内容の精査を行い、調査、実験を実施する。

後期はこれまでの学びを基に、必要な文献収集を行い、調査、実験の結果をまとめ、考察を行い、全体をまとめていく。

評価

提出された卒業論文(70%)、途中経過の報告書(10%)、プレゼンテーション(10%)、文献検索や情報収集など研究に取り組み方(10%)で評価し、総合評価60点以上とする。

授業外学習

事前準備: 文献検索、学外での情報収集、方法の検討、統計分の復習、レポートやプレゼンテーションをまとめ、研究を深めていく。

事後学習: 自らの研究計画に従い、研究を発展させる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書:

研究計画書の考え方 妹尾賢一郎 ダイアモンド社

理科系の作文技術 木下是雄 中高新書

参考図書: その都度推薦し、提示する

科目名	卒業研究		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針の 1 , 2 , 3 , 4 に該当する。

本科目は、児童教育学科教育課程編成方針の演習に位置つき、大学における学びの総まとめとして 3 年生からの卒業研究ゼミナールに引き続き、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・テーマ (研究題目) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整えまとめる。

評価

卒業研究(提出された卒業論文)(70点)を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢(30点)などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。(各授業に対して60分)

【事後学修】教員や同じゼミの学生からの助言や意見を基に、研究を進める。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針4に該当する。

本科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめとして3年からの演習に引き続き自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生と、研究について批評や意見を交わし、担当教員からの指導を受け、研究を進めていく。9月に中間抄録を報告し提出する。12月に最終提出をするまで、各自、進捗状況を報告しながら進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

1. 自らが興味・関心をもったテーマについて掘り下げる。
2. 上記テーマについて、各自、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめる。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進捗の確認や研究内容、研究手法の理解共有を図り、進めるなど、プレゼンテーションやディスカッションを中心とする。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・テーマ (研究題目) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 (文献調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究進捗状況を定期的に発表、報告するなど、研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出するレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】各自、研究テーマを深めるために文献を熟読し、卒業論文の作成を進める。特に、発表担当の場合は、発表用レジュメを作成し、準備を行う。さらなる文献収集を行う。（あわせて120分）

【事後学修】演習でのディスカッションとそこでの指摘をもとに、各自、文章および内容等を再考し、卒業論文のために、さらなる文章化を進める。（あわせて120分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2008年。その他、その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 . 4 に該当する。

本科目は、児童教育学科教育課程編成方針演習に位置づき、大学における受講生の学びの総まとめとして、3年生からの卒業研究ゼミナールに引き続き自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文に仕上げる。他の受講生からの批評や意見をもったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月中旬に途中経過報告。11月には第一次原稿提出、そして12月中旬に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の卒業研究ゼミナールで研究の方向付けをした内容や自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを定めて積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることが目的となる。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認、研究内容と研究手法の理解共有を図りながら進めていく。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、アンケートやインタビュー調査等を実施して研究内容を文章にまとめて完成させる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整えまとめる

評価

卒業研究(提出された卒業論文)(70点)を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢(30点)などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献研究を進めて研究を深め、プレゼン用の資料をまとめる。発表に際し60分。

【事後学修】授業のまとめを行い、卒業研究の進捗に応じて振り返りと整理を行う。各授業に対し60分。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1.2.4 に該当する。

大学における学修の総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・テーマ (研究題目) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査結果の収集 (文部科学省調査等)
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。（各授業に対して120分）

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】白井利明・高橋一郎、よくわかる卒論の書き方、ミネルヴァ書房

【推薦書】【参考図書】授業において紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童教育学科ディプロマポリシー 1 ~ 4 に対応する授業です。

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

アクティブラーニングとして、討論、発表、実地調査、レポートの作成と交流を行ないます。

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点)、研究テーマに取り組む姿勢 (30点)、併せて60点以上を合格とする。

【フィードバック】 研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付し、理解度の向上をはかる。

授業外学習

【事前予習】文献を読解し、教育に関する課題を析出し、予想や仮説を立て、ゼミに臨む。当番制でレジュメを切る（各授業に対して60分）。

【事後学修】ゼミを踏まえ、あらためて教育に関する課題をふかめる（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	塚田 昭一		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科のDP1・4に該当する。児童教育学科の大学における学びの総まとめとして3年からの演習に引き続き自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深め、進捗状況をまとめ、報告する。(毎週、2時間程度)

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行い、進捗状況をまとめ、提出する。(毎週、2時間程度)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	中西 郁		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針1,2に該当する。本科目は、学位授与方針の教職に関する学修を自ら統合するものであり、大学における学びの総まとめとして、3年次からの演習に引き続き特別支援学校教育に関する自己の興味・関心のある内容について研究論文にまとめることを目的とする。また、研究論文でまとめた内容を自己の専門分野の一つにして、特別支援学校の教育現場において学び続けていく教師の姿勢を構築していくことをねらいとしている。

科目の概要

特別支援学校教育に関する内容から自らの興味・関心のある内容について3年次の卒業研究ゼミナールで設定したテーマに基づき、先行研究の収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。研究に当たっては、他の受講生からの批評や意見等を参考にするとともに、担当教員からの指導を受けながら研究を深めていく。

学修目標 (= 到達目標)

1. 卒業研究のテーマの設定方法や研究方法論を理解する。
2. 先行研究の収集・分析等を行う。
3. 調査等を実施し、調査結果の分析・考察を行い、一定枚数の内容のある研究論文にまとめる。

内容

この授業は、学生の自主的な活動による演習を基本に、フィールドワーク、プレゼン、ディスカッション等を取り入れながら学びを深めていく。演習では、3年次の卒業研究ゼミナールで設定した研究テーマをもとに、積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめる。

研究を進める過程では、受講者と途中経過を報告し合い、研究内容・研究方法、研究の進捗等について理解の共有を図りながら学修を深めていく。

前期は、テーマに基づく調査等を実施するとともに、発表や質疑応答を通して、より精度の高い研究になる手だてを検討する。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを活かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。9月に途中経過報告、11月に第一次原稿提出、12月に最終原稿提出と段階的に論文作成を進めていく。

主な取組内容

- 研究方法の確立
- 先行研究の収集
- 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- 教育実践への活用の考察
- 研究全体の考察し、論文構成の検討
- 研究論文中の図表の作成
- 論文の執筆、抄録の作成
- 研究発表

評価

卒業研究(提出された卒業論文)(80点)を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢(20点)などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。
【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。(毎週2時間程度)

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。(毎週2時間程度)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

使用しない

【推薦書】

その都度、必要に応じて紹介する。

【参考図書】

その都度、必要に応じて紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	齋藤 忍		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 2 . 4 に該当する。本科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめとして、3 年からの演習に引き続き自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文としてまとめるものである。特別支援教育の分野について、教育現場においても自己の課題解決に向けて学び続けようとする姿勢を身に付けることが求められる。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料・文献の収集整理を行うとともに、3 年次より計画・実施してきた調査・研究・療育等の結果をまとめ、自分の考えを加えて考察し、研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9 月に途中経過報告、1 1 月に第一次原稿提出、1 2 月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 自らが興味・関心をもったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3 年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることになる。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容・研究手法の理解共有を図り、進めていく。

前期は3 年次に確定したテーマをもとに、調査・研究・療育等を継続して進める。途中経過の発表や質疑応答を通して、より精度の高い研究になるような手立てをとる。後期は、教育実習やこれまでの大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

【主な取り組み内容】

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査、療育等)
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究(提出された卒業論文)(70点)を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢(30点)などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり研究を深める他、3年次より計画・実施してきた調査・研究・療育等の結果を整理分析し考察を深める。(毎日2時間程度、計画的に執筆を進めること。)

【事後学修】執筆箇所についての授業時間中における指導を受けて、必要に応じて加筆修正を行う。(各授業1~2時間)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針の3, 4に該当する。大学における学びの総まとめとして3年からの演習に引き続き自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・テーマ (研究題目) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】各自の研究対象に関する文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	三藤 あさみ		
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして、3年からの演習に引き続き自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文としてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料・文献の収集整理を行うとともに、3年次より計画・実施してきた調査・研究・療育等の結果をまとめ、自分の考えを加えて考察し、研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は3年次に確定したテーマをもとに、調査・研究を継続して進める。途中経過の発表や質疑応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまでの大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・テーマ (研究題目) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査、療育等)
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出するレポートにコメントをして、考えを深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める（毎回1時間程度）

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う（2時間程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング	KBf588		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年		ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の学位授与方針 1 , 2 , 3 に該当する。児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・テーマ (研究題目) の決定
- ・先行研究の収集
- ・各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・作品や模型などの設計、制作
- ・教育実践への活用の考察
- ・研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に応じて提出させるレポートにコメントを付す。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。（毎日1時間程度）

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。